
News Release

第9回 新型コロナウイルス（新型肺炎/COVID-19）調査

レポート作成：2021/5
調査実施：2021/4



目次

	Page		Page
当資料の利用条件	3	院内感染対策について	41
調査概要	4	来院患者数の状況	42
当資料をご覧になる際の注意点や用語説明など	5	「診療・検査医療機関」としての申請状況	43
回答者属性	6-10	「診療・検査医療機関」としての継続予定	44
昨年同時期と比べた来院患者数の変化	11	受診相談窓口は機能しているか	45
新型コロナウイルスの相談や問い合わせの変化	12	新型コロナウイルスの収束時期予測	46
新型コロナウイルス感染症の疑い患者の診察	13	感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと	47-49
新型コロナウイルス感染症の疑い患者診察人数	14	自身の新型コロナウイルスワクチン接種意向	50
疑い患者の来院事前連絡の有無	15	スタッフの新型コロナウイルスワクチン接種割合	51
疑い患者の診察を断った経験	16	患者への新型コロナウイルスワクチン接種推奨意向	52
新型コロナウイルスの検査状況	17-18	ワクチン接種に必要な情報は提供されているか	53
PCR検査にかかる日数	19-20	東京オリンピックを開催できると思うか	54
実施可能な検査	21-23	東京オリンピックを開催するために必要なこと	55-57
医療機関で実際に検査や治療を行っているか	24		
先生自身が実際に診察・治療を行っているか	25		
増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患	24-25		
変異株の検査・治療経験の有無、治療からの印象	26-27		
増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患	28-30		
医療現場で困っていること	31-36		
後回しにした治療や変更した治療方針	37-38		
医療スタッフは足りているか	39		
医療スタッフの疲弊度	40		

株式会社eヘルスケアは、「人々が健康を維持・増進し、患者さんが安心してヘルスケアを受けられることを願い、幸せで豊かな人生を送れる社会づくりに貢献します。」のローガンに則り、当調査は社会貢献活動の一環として実施しております。

調査結果のご利用について

「新型コロナウイルス感染症についての緊急アンケート調査レポート」(以下、当調査レポート)は、教育研究上の目的を含め、公序良俗に反しない限り以下の条件において無料でご利用いただくことができます。

当調査レポートの著作権は、株式会社eヘルスケアに帰属します。

・ご利用には出典の記載が必要です。

例)「第9回 新型コロナウイルス感染症についての緊急アンケート調査レポート(2021'4)」株式会社eヘルスケア
WEB媒体で掲載される際は併せて弊社サイトへのリンクをお願いします。

(リンク先URL: <https://www.ehealthcare.jp/>)

- ・出版物やその他の印刷物などへのご利用の場合、発行の際に弊社宛に一部お送りください。
- ・当調査レポートは細心の注意を払って作成しておりますが、内容の正確性については一切保証いたしません。
- ・ご利用に関して生じたあらゆる損害等についても、理由の如何に関わらず、当社は一切責任を負いません。
- ・ご利用に関して利用者が当社に損害を与えた場合は、利用者は当社にその損害を賠償する責任を負います。
- ・当社はご利用開始後であっても利用者に対して提供を撤回することができます。

当調査レポートの追加データの提供や共同研究などのご依頼も受け付けております。

基本的に、費用等のご負担は必要ありませんので、お気軽にご意見、ご希望をお寄せください。

【お問い合わせ窓口】

株式会社eヘルスケア

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-8 第2紀尾井町ビル1F

Email: info@ehealthcare.co.jp

問い合わせ先: 「第9回 新型コロナウイルス(新型肺炎/COVID-19)調査」担当窓口 森田真一

目的

2020年3月以降、9回にわたって実施しているトラッキング調査の内、今回の4月調査を2020年4月、8月、12月、21年2月実施の調査結果と比較するかたちで、診療現場にいる医師の実感を掴み、医療機関の対応状況、医師の意識の変化を見る。

調査方法と対象者

インターネットアンケート 20年3月調査回答者 815件に発信

回答完了数

552回答（68% 対発信数）

調査期間

	調査名	調査期間
Wave 1	20年3月調査	2020年 3月17日(火) 10:00 ~ 3月23日(月) 12:00
Wave 2*	20年4月調査	2020年 4月16日(木) 10:00 ~ 4月21日(火) 9:00
Wave 3	20年5月調査	2020年 5月20日(水) 10:00 ~ 5月25日(月) 9:00
Wave 4	20年6月調査	2020年 6月23日(火) 10:00 ~ 6月29日(月) 9:00
Wave 5*	20年8月調査	2020年 8月25日(火) 10:00 ~ 8月31日(月) 9:00
Wave 6	20年10月調査	2020年10月27日(火) 11:00 ~ 11月 2日(月) 9:00
Wave 7*	20年12月調査	2020年12月24日(火) 10:00 ~ 12月30日(水) 9:00
Wave 8*	21年2月調査	2021年 2月24日(水) 10:00 ~ 3月 2日(火) 9:00
▶ Wave 9	21年4月調査	2021年 4月27日(火) 10:00 ~ 5月 4日(火) 9:00

*今調査の比較対象

当資料内で使用している用語や、閲覧する際に注意を要する点などについて説明します。

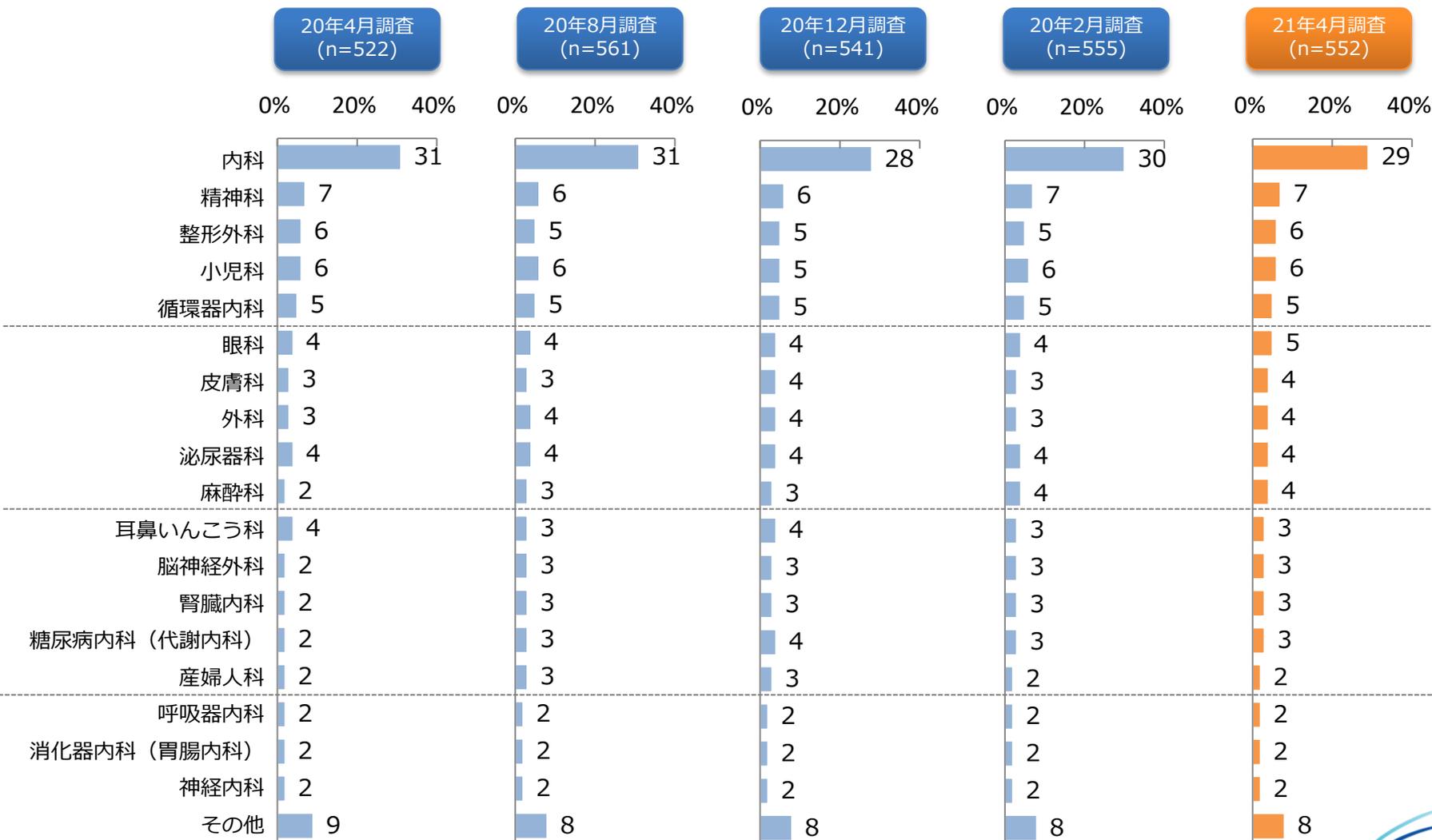
- %表示について
⇒グラフなどで利用されている%表示の数値は、小数点以下を四捨五入しており、合計で100%にならない場合があります。
- 医師の主診療科目や勤務医療機関の所在地域について
⇒2020年3月調査の分析では2018年の属性調査時の取得情報を使用しました。
2020年4月調査内で属性を再確認したことにより変更があった医師がいます。
- 比較のために記載する調査とその対象となる期間について
本調査レポートでは、今回の調査結果に加えて、弊社が過去に実施した新型コロナウイルスに関する調査のうち、20年4月(第2回)、20年8月(第5回)、20年12月(第7回)、21年2月(第8回)の調査結果を適宜記載します。
⇒質問ごとに、どの調査で設問がされたかを各頁下部に記載しています。

	回答期間	調査の対象となる期間	アンケート内での聞き方
20年4月調査	2020/4/17～21	3月調査実施時(3/17～23)～調査回答時点(4/17～21)	前回調査から現在まで約1か月
20年8月調査	2020/8/25～31	7月中旬～調査回答時点(8/25～31)までの約1か月	7月中旬から現在までの約1か月
20年12月調査	2020/12/24～30	11月下旬～調査開始時点(12/24～30)までの約1か月	11月下旬から現在までの約1か月
21年2月調査	2021/2/24～3/2	1月下旬～調査開始時点(2/24～3/2)までの約1か月	1月下旬から現在までの約1か月
21年4月調査	2021/4/27～5/4	3月下旬～調査開始時点(4/27～5/4)までの約1か月	3月下旬から現在までの約1か月

- SA、MA、OAとは？
SA: 単一選択回答(シングルアンサーの略)
MA: 複数選択回答(マルチアンサーの略)
OA: 選択肢を設けない自由回答(オープンアンサーの略)
- GP / HPとは？
GP: 診療所・小規模病院(100床未満)
HP: 中規模以上の病院(100床以上)
- n数(回答者数)が100に満たない調査結果は、参考値としてご覧ください。

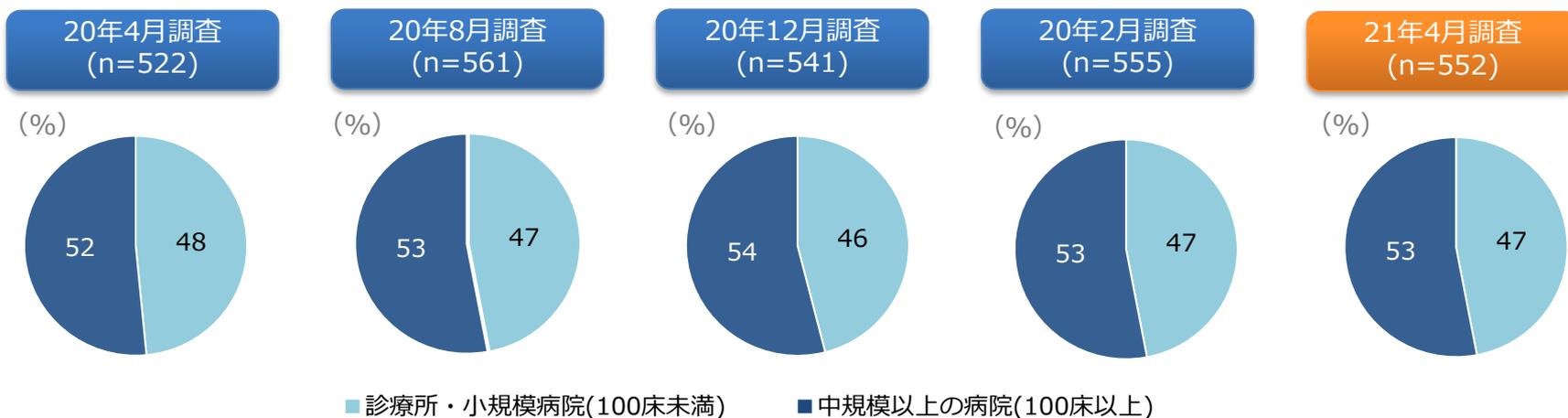
- 回答医師の主診療科目は内科が約3割を占め、前回までと同様、最多。精神科、整形外科、小児科、循環器内科、眼科が5%以上で続いている。

主診療科目

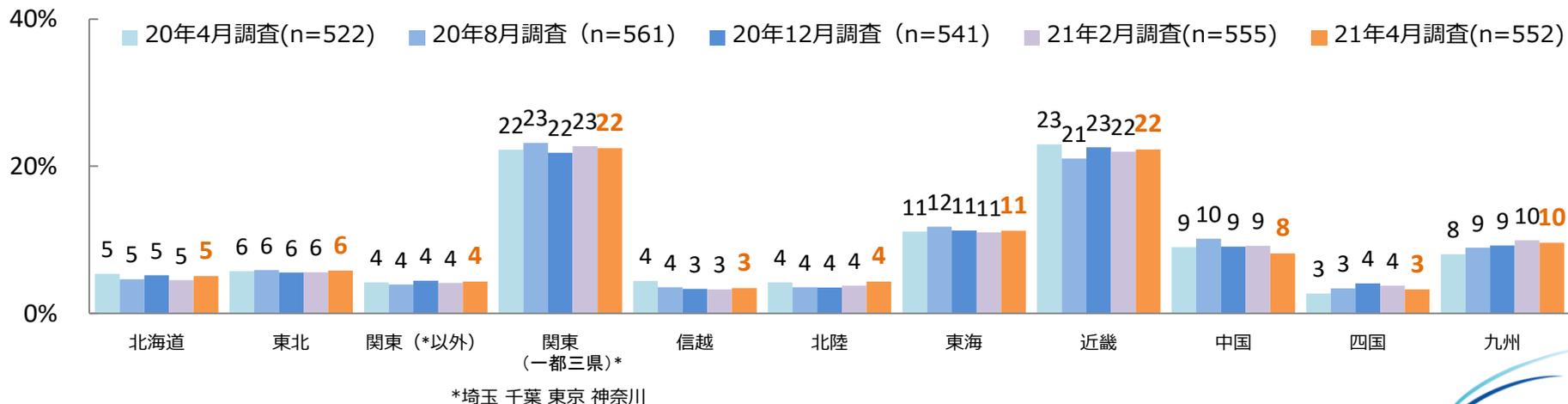


- 勤務先医療機関は、「診療所・小規模病院」と「中規模以上の病院」の割合も前回までと同様の傾向で、「中規模以上の病院」が若干多め。
- 回答医師の地域は、「関東（一都三県）」と「近畿」とがそれぞれ2割以上を占め、3番目に多い東海を合わせた3大都市圏で過半数となっている。

勤務先医療機関の規模



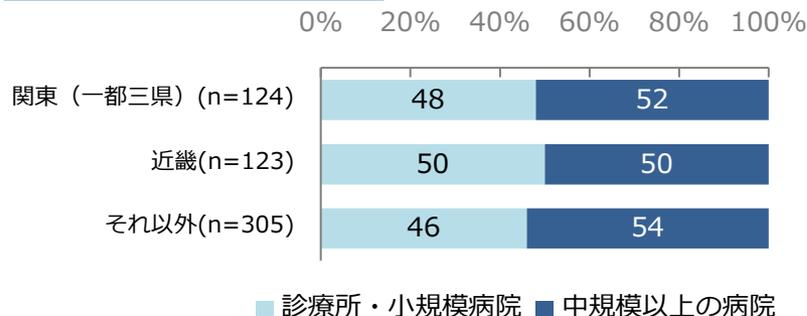
地域



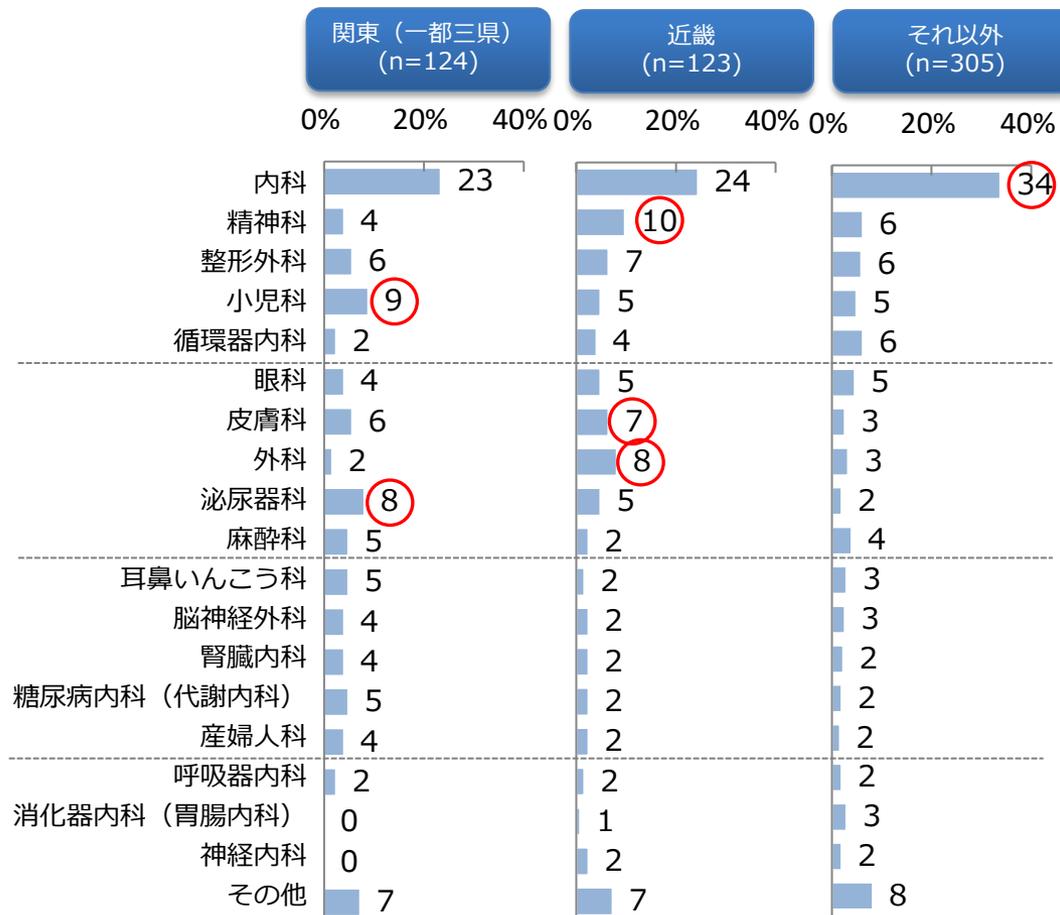
関東、近畿、その他地域の回答者属性

- 地域別の回答者属性を確認しておく、まず医療機関規模については、近畿で「診療所・小規模病院」と「中規模以上の病院」が同数となった。医師の職責については、それ以外の地域で「勤務医」が6割超とやや多め。新型コロナウイルスの疑い患者の診察では、それ以外の地域で「診察していない」が「診察した」医師を若干上回っている。主診療科目は、それ以外の地域で「内科」が、関東（一都三県）、近畿より10ポイント以上高く、34%であった。

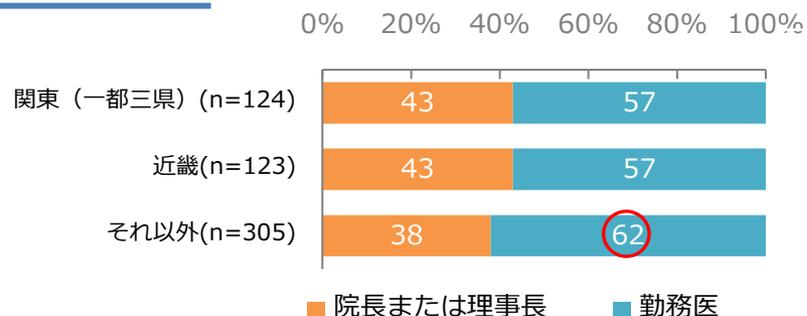
勤務先医療機関の規模



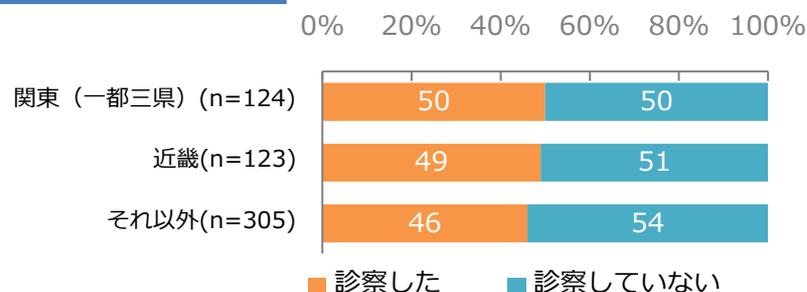
主診療科目



医師の職責

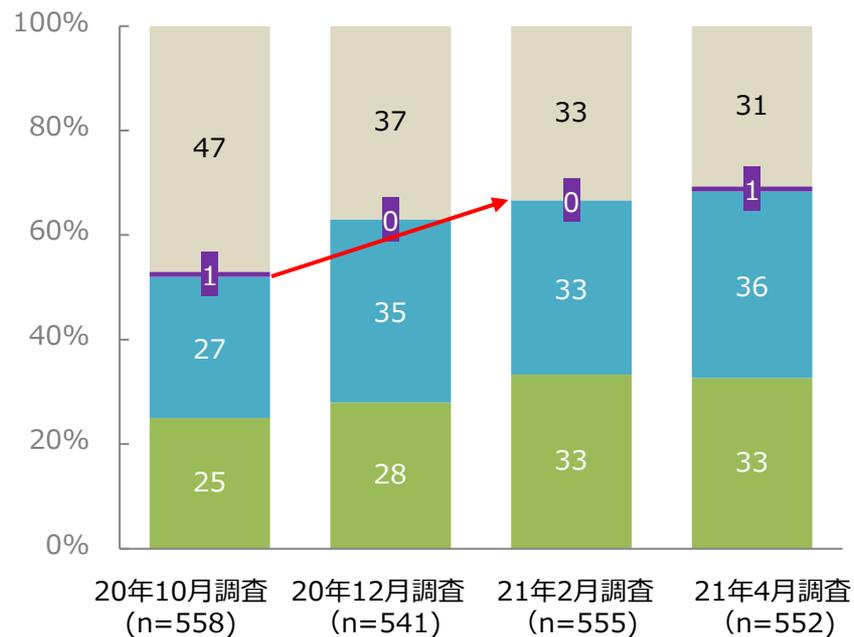


疑い患者の診察



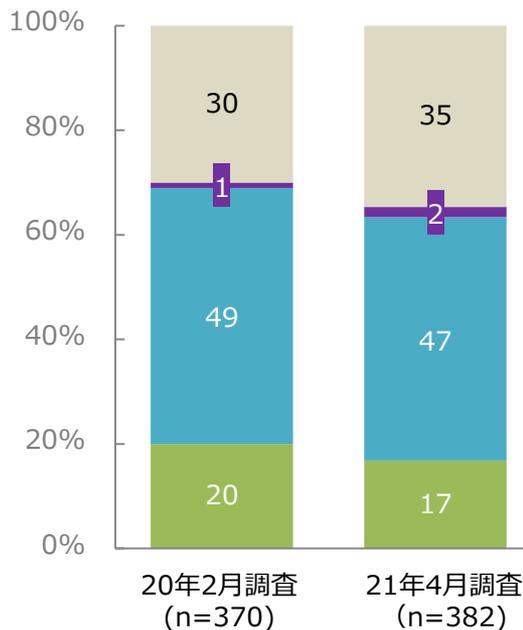
- 勤務先医療機関で新型コロナウイルス感染症の「検査、治療ともに行っている」は33%で、2月調査と同じ。
- 勤務先で治療を行っていると回答した医師に、医師自身が新型コロナウイルス感染症の診察・治療を行っているかも尋ねたところ、2割弱が「検査、治療ともに」、半数近くが「検査のみ」を行っていた。4月調査時点では、第4波の医療逼迫が未だ十分に反映されていないと思われる。

医療機関で実際に検査や治療を行っているか



医師自身が実際に検査や治療を行っているか

Base : 医療機関が検査や治療を行っている



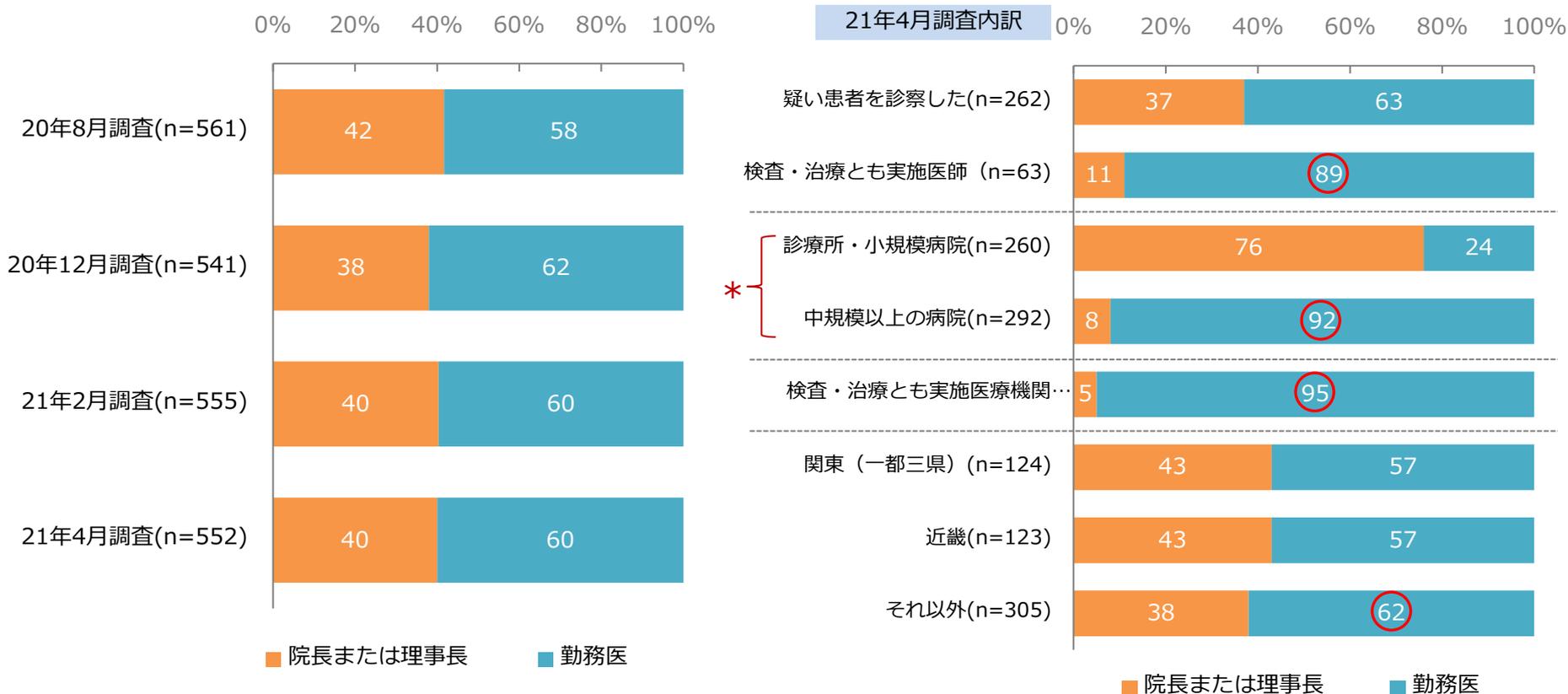
■ 検査、治療ともに行っている ■ 検査のみ行っている ■ 治療のみ行っている ■ どちらも行っていない

Q11. お勤めの医療機関では、新型コロナウイルス感染症の検査や患者の治療を、実際に行っていますか (SA, -/-/-/-/-/10月/12月/2月/4月)

Q12. 先生ご自身は、新型コロナウイルスへの感染が確認された患者の診察・治療を、実際に行っていますか (SA, -/-/-/-/-/-/12月/2月/4月)

- 回答者の職責に大きな変化はなく、「院長または理事長」が4割、「勤務医」が6割と、勤務医がやや多い。
- 4月調査の内訳を見ると、「検査・治療とも実施医師」、中規模以上の病院、検査・治療とも実施医療機関では大多数が「勤務医」で、9割前後に達する。
- 地域別にみると、関東（一都三県）と近畿はともに、勤務医が6割弱。それ以外の地域では、勤務医が62%とやや多くみられた。

医師の職責



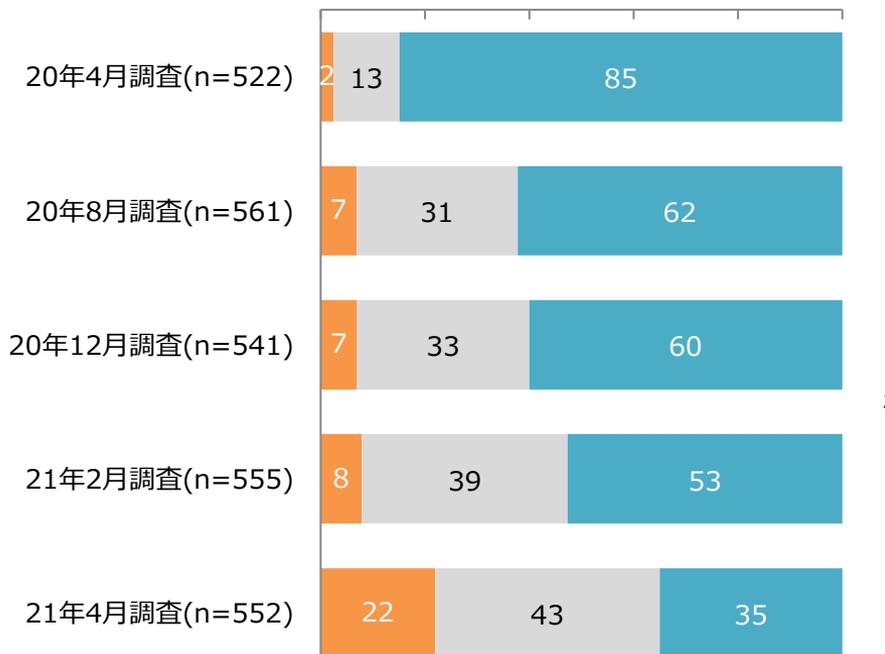
* 診療所・小規模病院：100床未満の医療機関、中規模以上の病院：100床以上の医療機関（以下同様）

Q1. 先生が主にお勤めの医療機関での、先生のお立場を教えてください (SA, --/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

昨年同時期と比べた来院患者数の変化

- 昨年同時期との来院患者数比較では、昨年4月調査時に85%に達していた「減っている」は、前回2月調査では5割超に減少、今回はさらに18ポイント減少し、35%となった。反面、調査以降はじめて、「変わらない」が4割超ともっとも多くを占め、「増えている」が2割超に上る。
※今調査における「昨年同時期」は、来院が極端に減った一回目の緊急事態宣言時となる為、比較には注意が必要。
- 4月調査の内訳を見ると、院長や理事長が多く含まれる診療所・小規模病院で、患者数が「減っている」との回答が高めで4割超。
- 患者を検査・治療とも実施した医師で「増えている」が最も高い傾向が続いているが、その割合は3割を超えた。地域別にみると、関東（一都三県）の「増えている」が最も高く、3割。

0% 20% 40% 60% 80% 100%

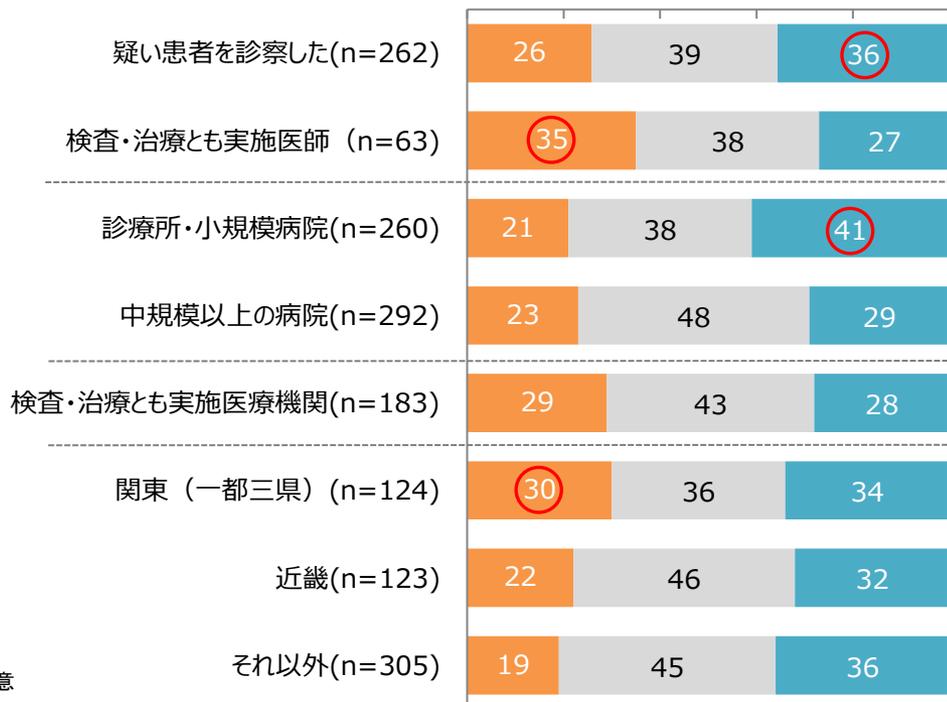


※注 比較対象が20年4月の緊急事態宣言下となる事に注意

■ 増えている ■ 変わらない ■ 減っている

21年4月調査内訳

0% 20% 40% 60% 80% 100%



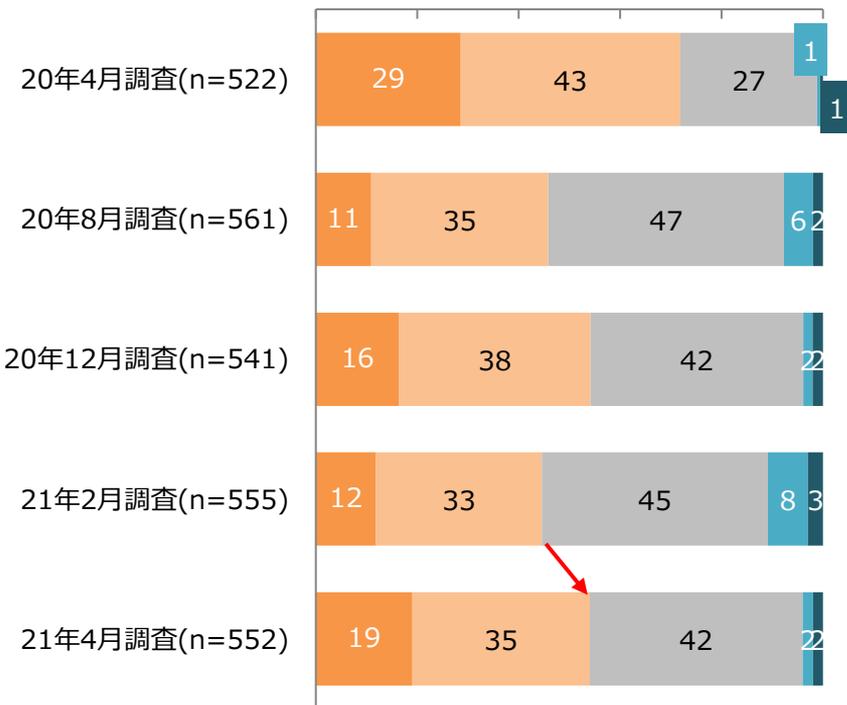
■ 増えている ■ 変わらない ■ 減っている

Q2. 昨年同時期に比べ、この期間の医療機関全体の来院患者数に変化は見られますか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

新型コロナウイルスの相談や問い合わせの変化

- 問合せは感染の波により上下し、今回は「増えた(かなり+多少)」が9ポイント増で、第3波が拡大中であった12月と同じく5割超に上る。
- 検査・治療とも実施した医師では4割が、検査・治療とも実施医療機関の3割弱が、「かなり増えた」と回答している。
- 地域別では、対人口比の感染者数が多い近畿では4割超が「多少増えた」と回答し、「増えた(かなり+多少)」は6割超に上る。

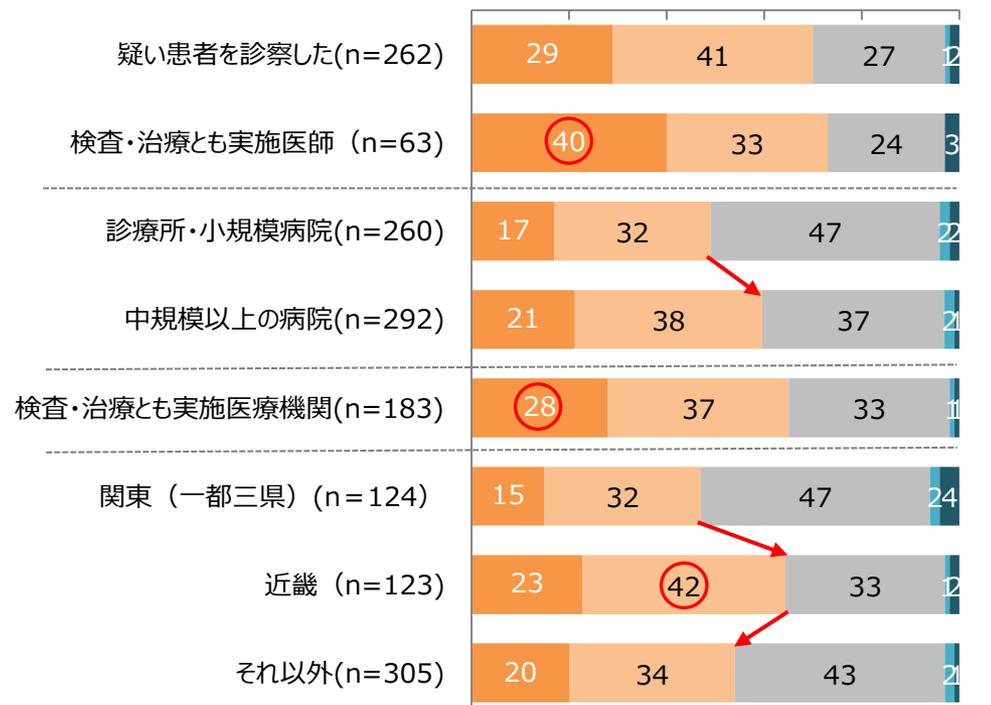
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ かなり増えた
 ■ 多少増えた
 ■ 変わらない
■ 多少減った
 ■ かなり減った

21年4月調査内訳

0% 20% 40% 60% 80% 100%

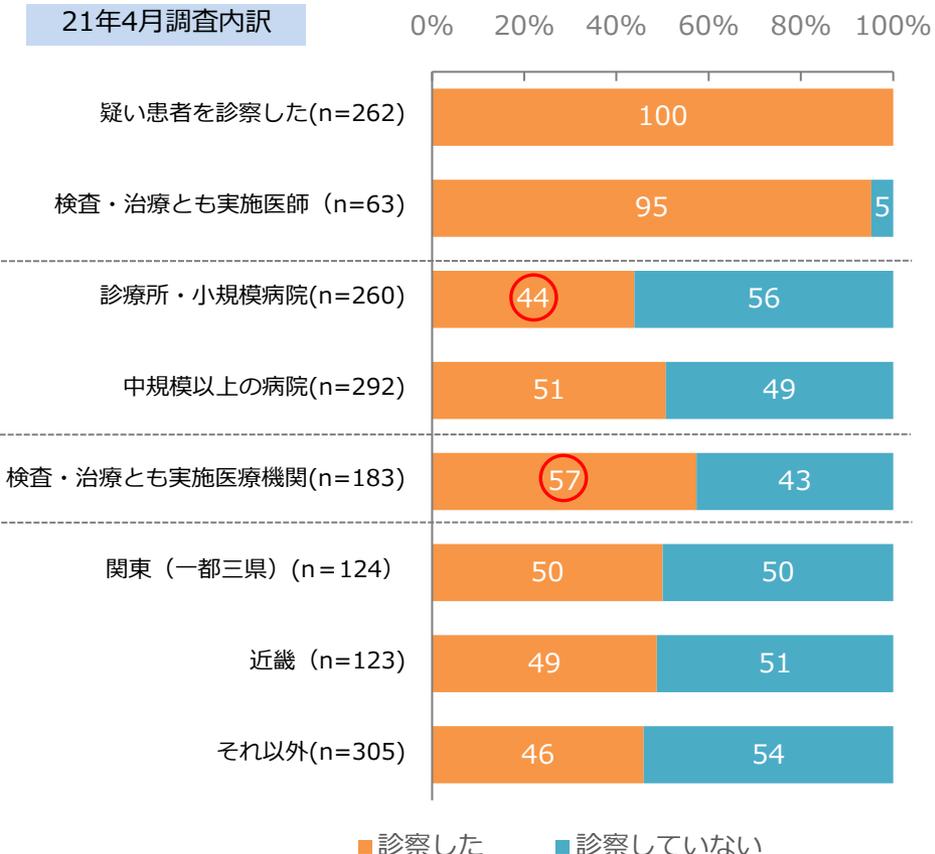
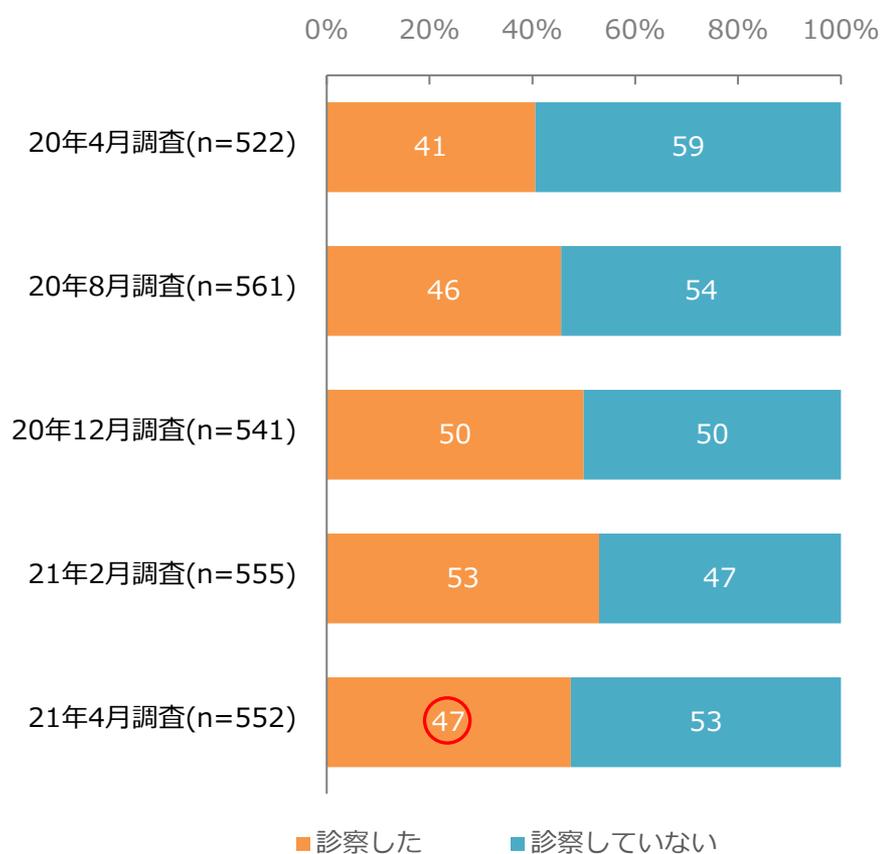


■ かなり増えた
 ■ 多少増えた
 ■ 変わらない
■ 多少減った
 ■ かなり減った

Q3. 先生のお勤めの医療機関では、この期間中、患者さんからの新型コロナウイルスについての相談や問い合わせは変化しましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

新型コロナウイルス感染症の疑い患者の診察

- 直近1ヶ月で疑い患者を「診察した」医師は、5割弱と前回より微減。
- 疑い患者を診察した医師割合は、「検査・治療とも実施医療機関」では6割弱。診療所・小規模病院でも44%含まれた。
- 地域別では、「診察した」がいずれも半数近くで、大きな差はみられなかった。

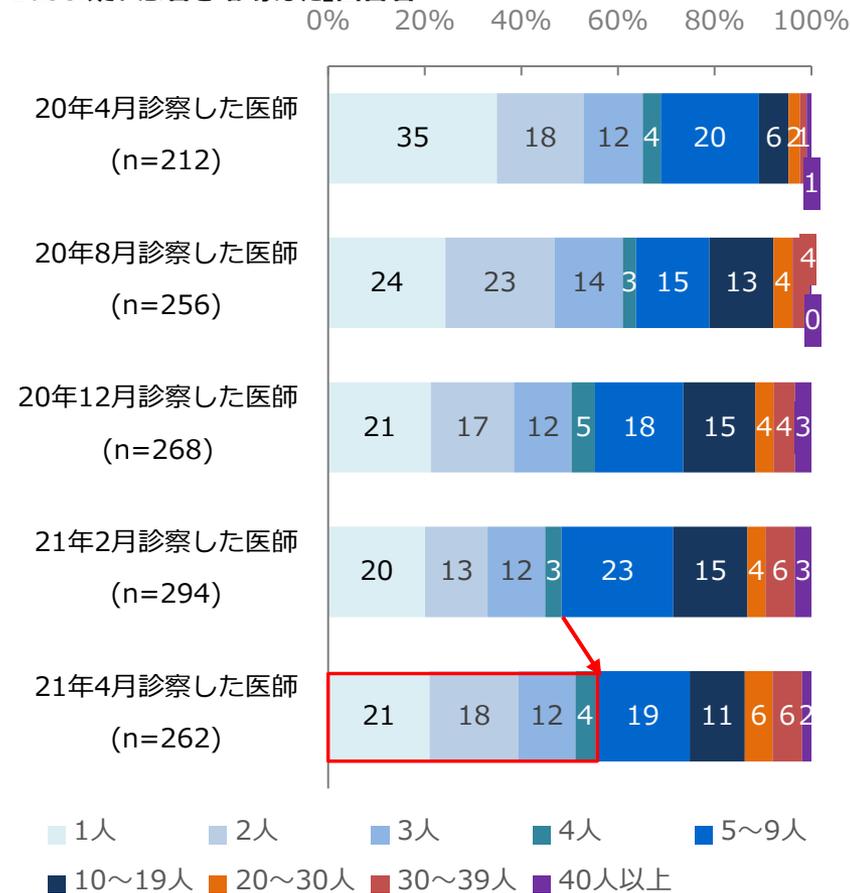


Q4. 先生は、この期間中、新型コロナウイルスに感染の疑いがある患者さんを実際に診察されましたか。診察された人数を教えてください (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

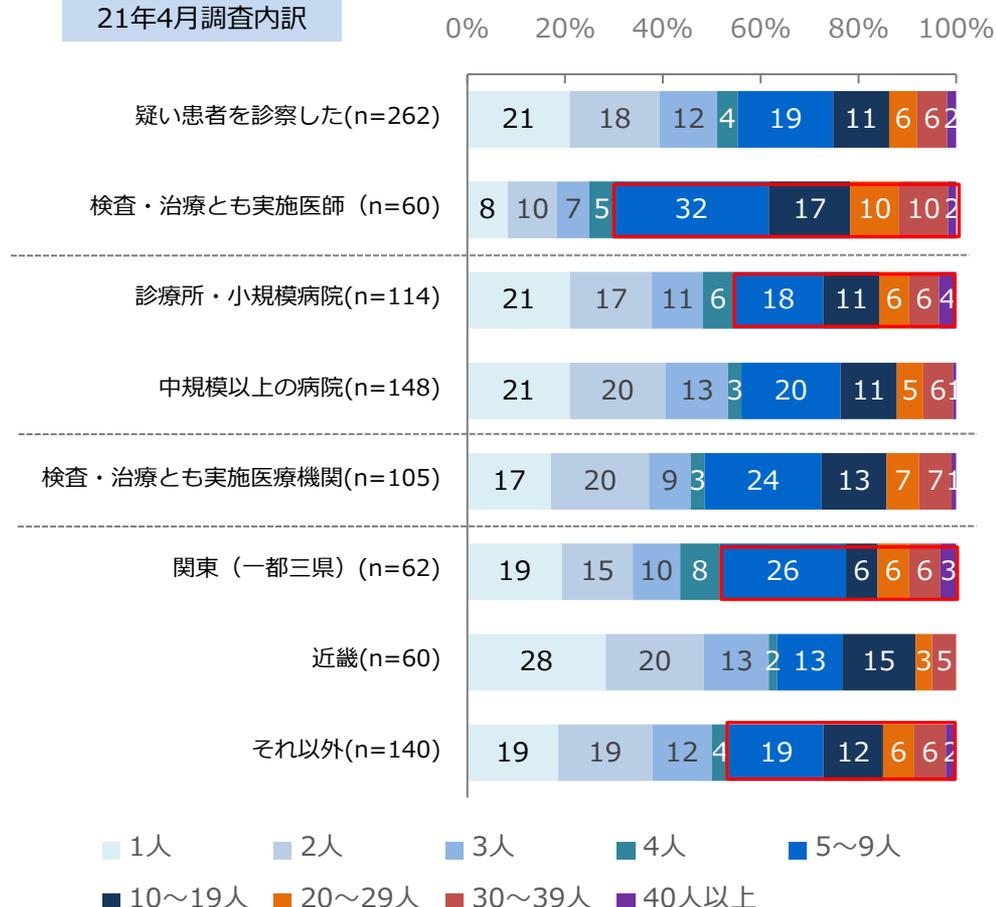
新型コロナウイルス感染症の疑い患者診察人数

- 3月下旬以降の1ヵ月間に診察した疑い患者数は、「2人」が2月調査時よりも5ポイント増加。診察数「4人以下」の医師の割合が増え半数を超えた。
- 検査・治療とともに実施した医師の診察人数内訳を見てみると、「5人以上」が7割超を占める。
- 医療機関種別では、診療所・小規模病院でも、2月調査に比べ「20人以上」が5ポイント減少し(19%→14%)、「5人以上」で見ると半数弱に留まった。かかりつけ医の役割を担う診療所や小規模病院の診療対応は、4月にかけて拡大が鈍化している様子。
- 地域別では、関東(一都三県)と「それ以外」がともに5人以上が半数近くに上り、近畿よりやや多めの傾向。

Base:疑い患者を「診察した」回答者



21年4月調査内訳



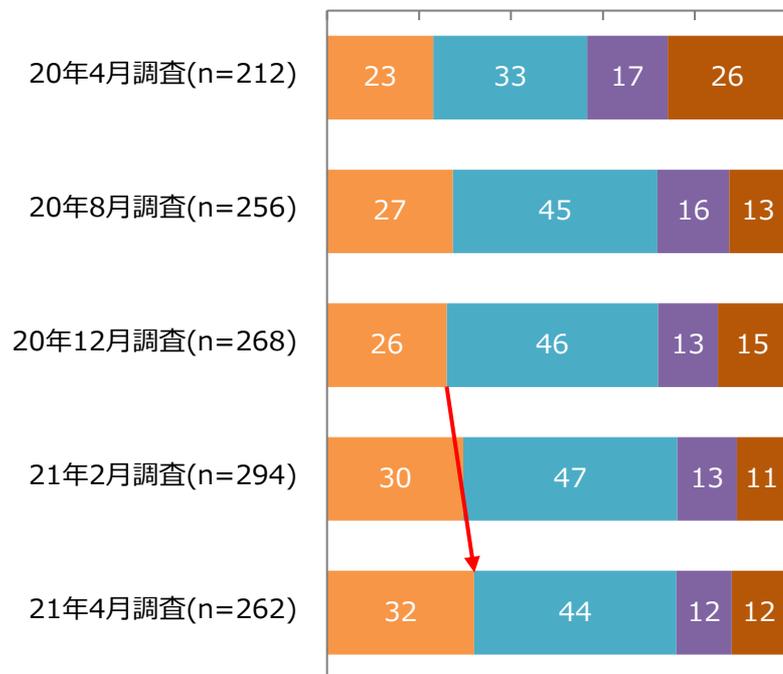
Q4. 先生は、この期間中、新型コロナウイルスに感染の疑いがある患者さんを実際に診察されましたか。診察された人数を教えてください (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

疑い患者の来院事前連絡有無

- 疑い患者の来院事前連絡については、「すべて事前連絡があった」は2月調査より2ポイント増え、3割超。「事前連絡があるケースが多かった」は2月調査に引き続き4割超と、あわせて8割近くに達した。「事前連絡があるケースが少なかった」「全員事前連絡がなかった」の合算は、依然2割超。
- 検査・治療とも実施医療機関で、「すべて事前連絡があった」が37%と多くを占めた。検査、治療ともに実施医師と、中規模以上の病院の3割弱は、「事前連絡があるケースが少なかった」「全員事前連絡がなかった」のままで、徹底されていない様子。地域別では、「近畿」と「それ以外」の3分の1が「すべて事前連絡があった」とし、「関東（一都三県）」よりもやや多くを占める。

Base: 疑い患者を「診察した」回答者

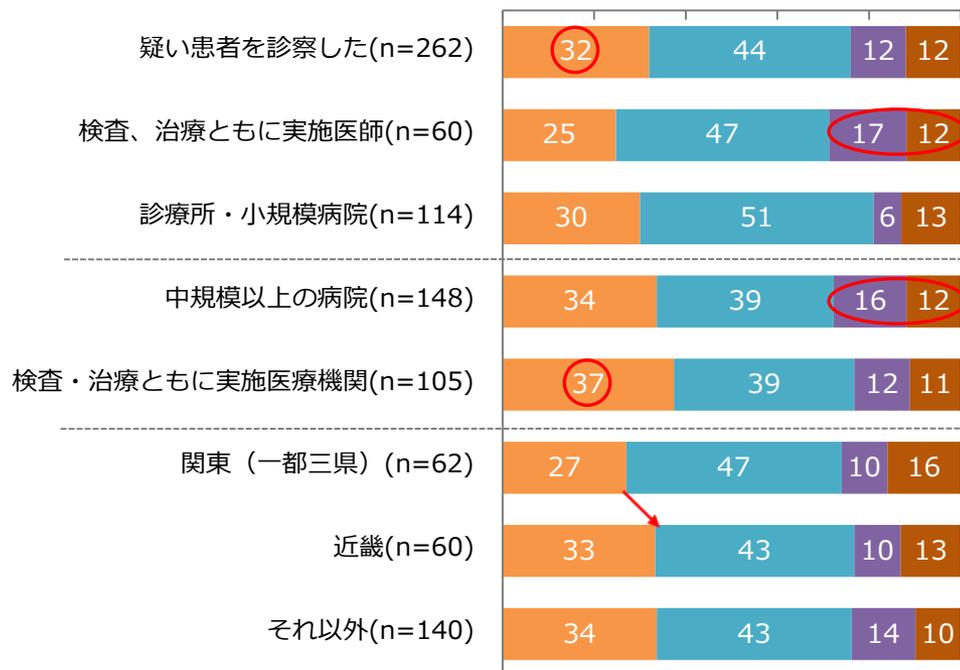
0% 20% 40% 60% 80% 100%



- すべて事前連絡があった
- 事前連絡があるケースが多かった
- 事前連絡があるケースが少なかった
- 全員事前連絡がなかった

21年4月調査内訳

0% 20% 40% 60% 80% 100%



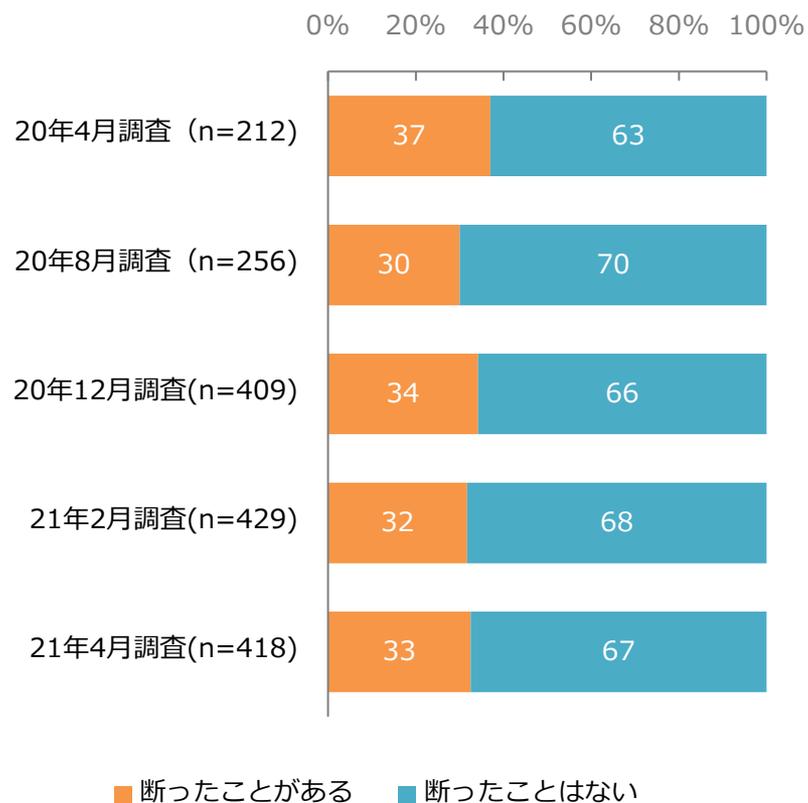
- すべて事前連絡があった
- 事前連絡があるケースが多かった
- 事前連絡があるケースが少なかった
- 全員事前連絡がなかった

Q5. 疑いのある患者さんは、事前に医療機関に電話やメールなどで連絡したうえで来院しましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

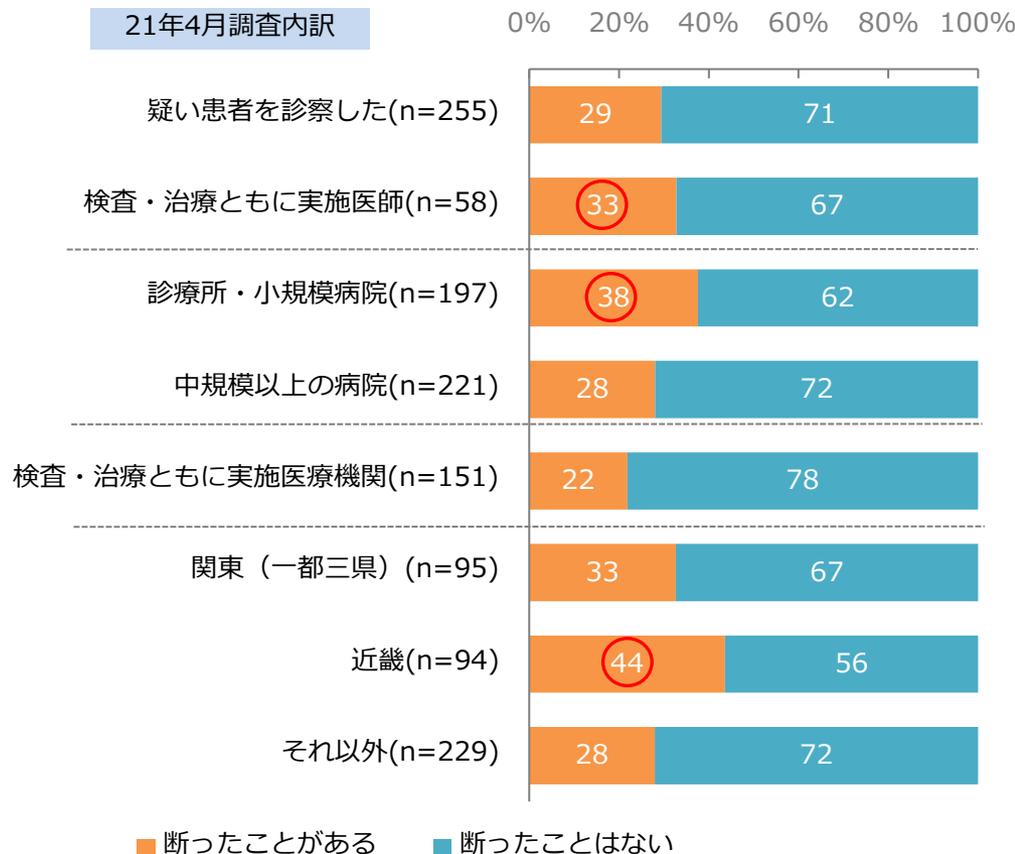
疑い患者の診察を断った経験

- 診察依頼があった医師に限ると「断ったことがある」とした医師は3割超と2月調査とほぼ同レベル。
- 診療機会が多い患者を検査・治療とも実施医師で、33%が「断ったことがある」と回答し2月調査時の2割より多め。今回は診療所・小規模病院の4割近くが「断ったことがある」と回答し、中規模以上の病院より多め。またベースは少なくなるが、「近畿」の4割超が断った経験があり、他地域より高め。関西地域の、第4波による医療ひっ迫の影響の兆しかもしれない。

Base: Q6 診察依頼を受けた医師



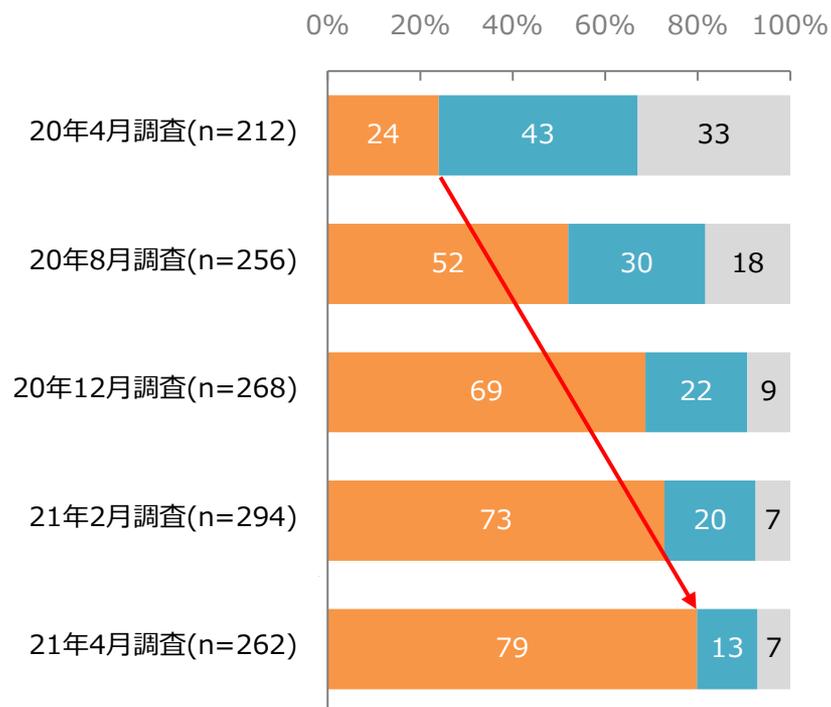
Base: Q6 診察依頼を受けた医師



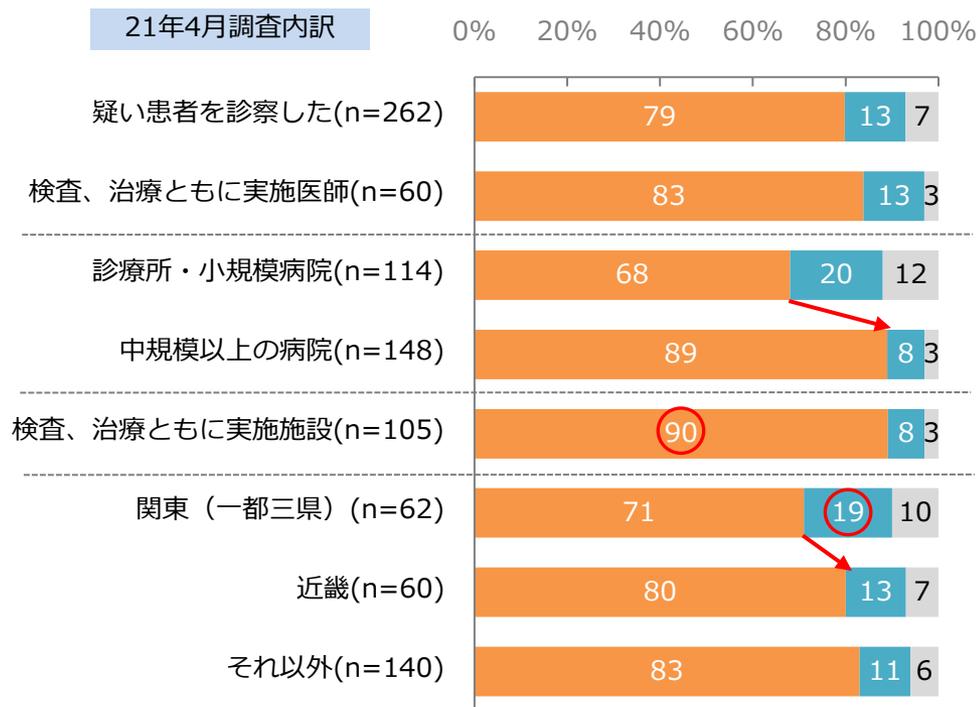
Q6. 疑いのある患者さんの診察を断ったケースがありますか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

- 医師が「検査を必要と判断して、全て検査を行った」割合は、昨年4月以降漸増傾向にあり、今回4月調査では約8割に達した。医師が希望すれば検査を行う事ができる環境が整いつつあることが窺える。
- 検査・治療とも実施医療機関の中では、9割が「全て検査を行った」と回答した。中規模以上の病院は、診療所・小規模病院に比べ21ポイント高い約9割が「全て検査を実施した」と回答。
- 地域別では関東（一都三県）の「検査を実施できない場合があった」が2割弱に上り、他地域に比べ相対的に高い。

Base:Q6 疑い患者を「診察した」回答者



- 医師が検査を必要と判断をして、全て検査を行った
- 医師が検査を必要と判断したが、検査は行えない場合があった
- 検査の必要性はなかった



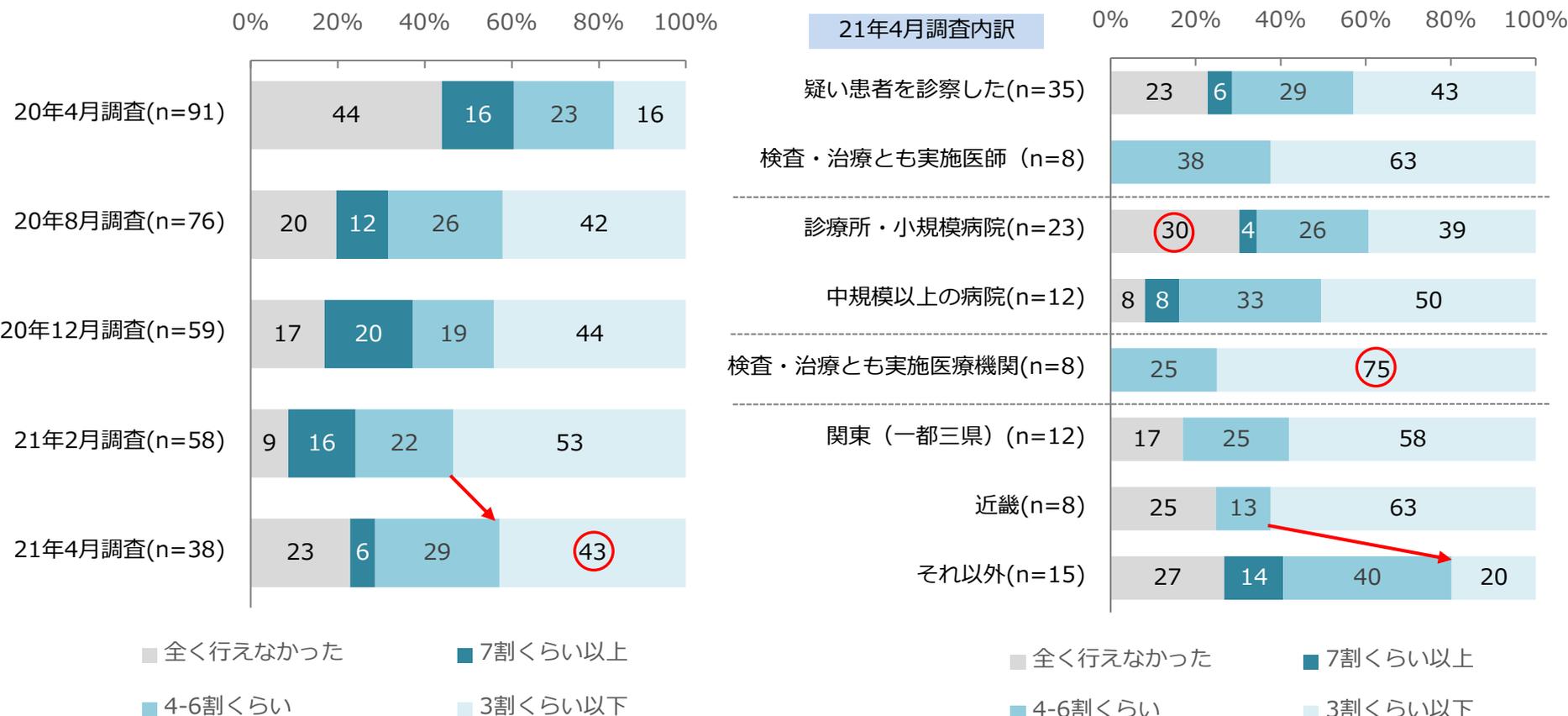
- 医師が検査を必要と判断をして、全て検査を実施できた
- 医師が検査を必要と判断したが、検査を実施できない場合があった
- 検査の必要性はなかった

Q7. この期間中、疑いのある患者さんに対し、新型コロナウイルスの検査を行われましたか。自院、外部検査機関などを問わず、実施の可否を教えてください (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

新型コロナウイルスの検査状況

- 検査を行えない場合があった医師にその割合を尋ねた。「4割くらい以上」が半数を超え、2月に比べて10ポイント増加。「検査を全く行えなかった」割合も2割超と、昨年8月並みに高くなっている。検査が浸透しつつある一方で十分に検査ができていない施設もあるようだ。
- 医療機関種別はベースが少ないため参考値に留まるが、検査を行えなかった割合は、診療所・小規模病院で「全く行えなかった」の回答が3割を占め、中規模以上の病院よりも検査ができていない。地域別もベースが少ないものの、「それ以外」で他地域に比べて検査ができなかった割合が高め。

Base:「医師が検査を必要と判断したが、検査は行えない場合があった」回答者（※数が少ないために参考値）



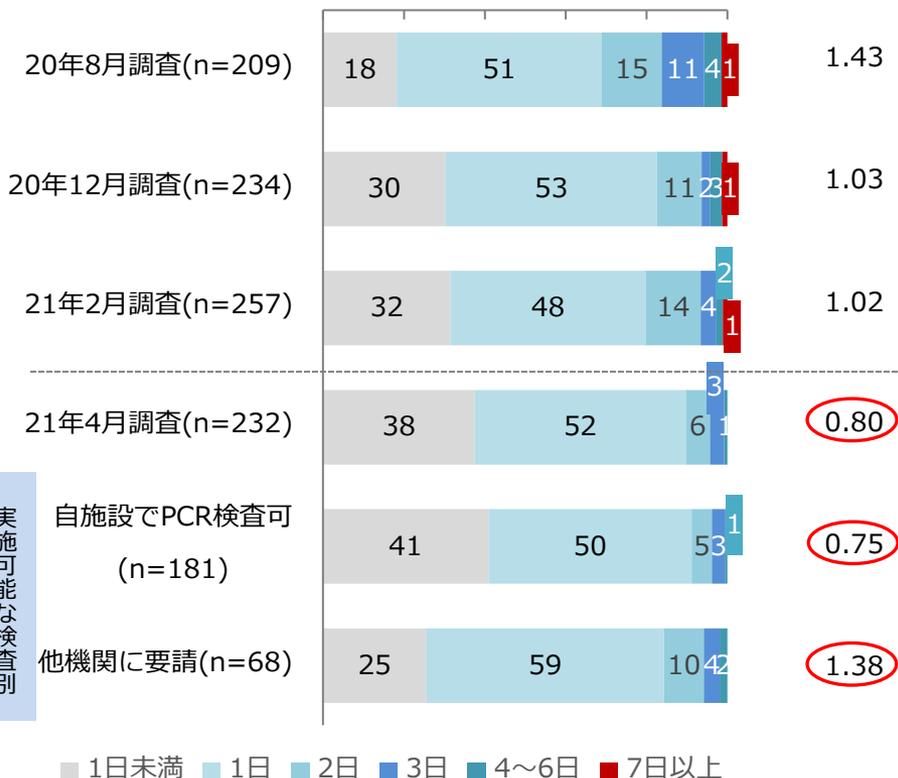
Q8. 検査が必要だった患者さんの検査が行えなかった割合を教えてください（SA, -/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月）

- 検査にかかる日数では、「依頼してから検査実施まで」は「1日以下」が9割超を占め、0日を含む平均日数が0.80日と初めて1日を切った。「実施してから結果が出るまで」の日数も、「1日以下」が8割超で最も多く、平均日数は1.12日。2月時点より若干短く、8月以降短縮傾向が続いている。
- 可能な検査の回答別では、「自施設でPCR検査可」施設は、検査実施までが平均0.75日、検査後結果が出るまでが平均1.12日で、合計2日をはじめて切る。「他機関に要請する」とした回答者でも、検査実施までが1.38日、検査後結果が出るまでが1.19日、合計2.6日に減少し、2月時点の3.8日より1日以上早くなっている。

「依頼してから検査実施まで」にかかる日数

Base:「医師が検査を必要とした」回答者

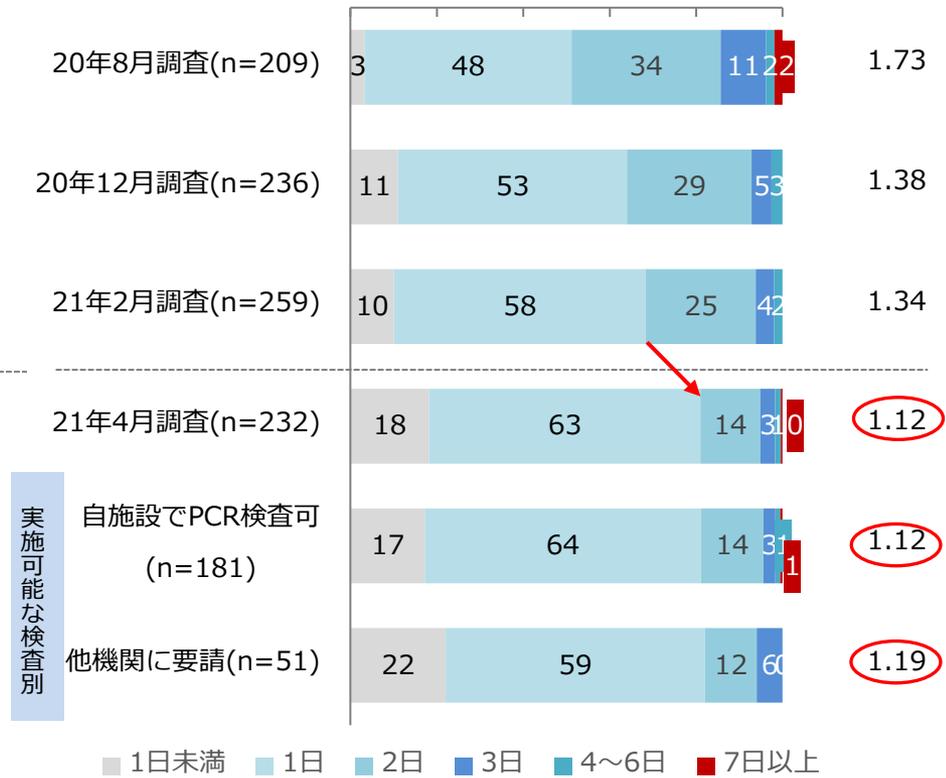
0% 20% 40% 60% 80% 100% 平均日数 (0日を含む)



「実施してから結果が出るまで」にかかる日数

Base:「医師が検査を必要とした」回答者

0% 20% 40% 60% 80% 100% 平均日数 (0日を含む)

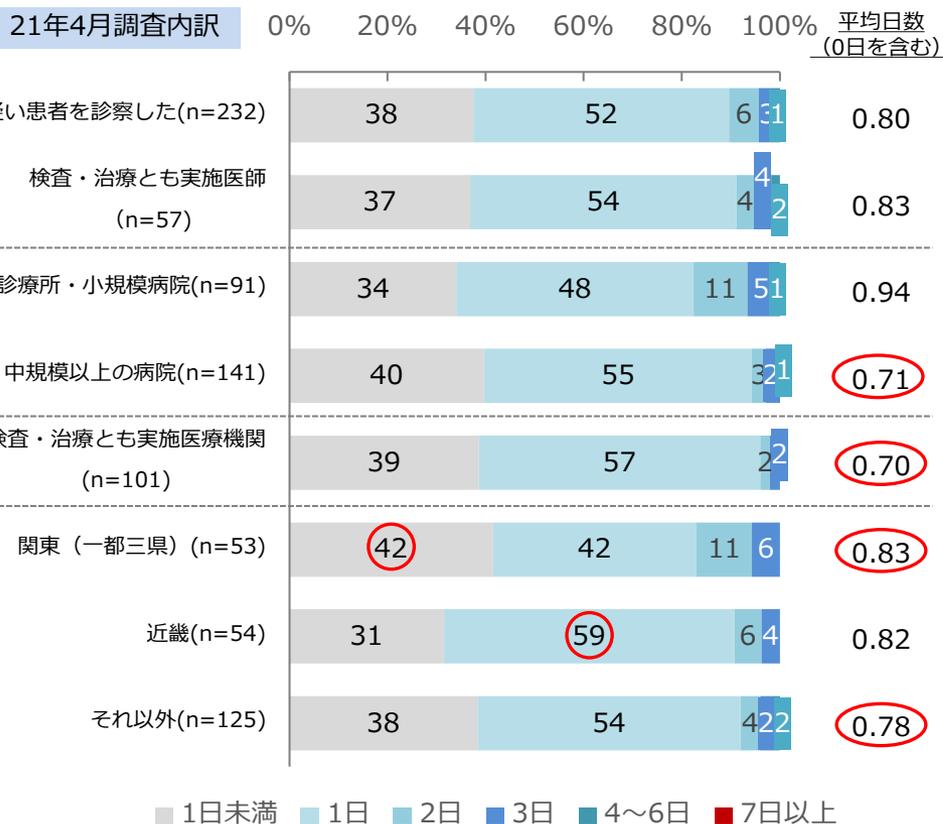


Q9. 新型コロナウイルス感染が疑われる患者のPCR検査を依頼後、実際に検査が行われ、結果が分かるまでに日数がかかると言われてます。お勤めの医療機関でのPCR検査、または、お勤めの医療機関経由で他の医療機関や保健所などへ委託される場合のPCR検査にかかる日数を教えてください。
依頼してから検査実施までにかかる日数 / 実施してから結果が出るまでにかかる日数 (OA, -/-/-/-/8月/10月/12月/2月/4月)

- 勤務先医療機関が検査・治療ともに実施しているケースでは「依頼してから検査実施まで」の平均日数が最も短く、0.70日。「実施してから結果が出るまで」の0.87日との合計で2日を切っている。患者を検査・治療とも実施した医師も、それぞれ0.83日、0.99日で、計2日を切る。
- 医療機関種別で見ると、診療所・小規模病院でも「検査実施まで」が平均0.94日、「実施してから結果が出るまで」が1.26日で、初めて3日を切った。
- 地域別にみると、「それ以外」の「検査実施まで」が0.78日と最も早く、「結果が出るまで」の1.09とあわせて2日を切る。関東（一都三県）が合わせて2.12日とやや遅め。

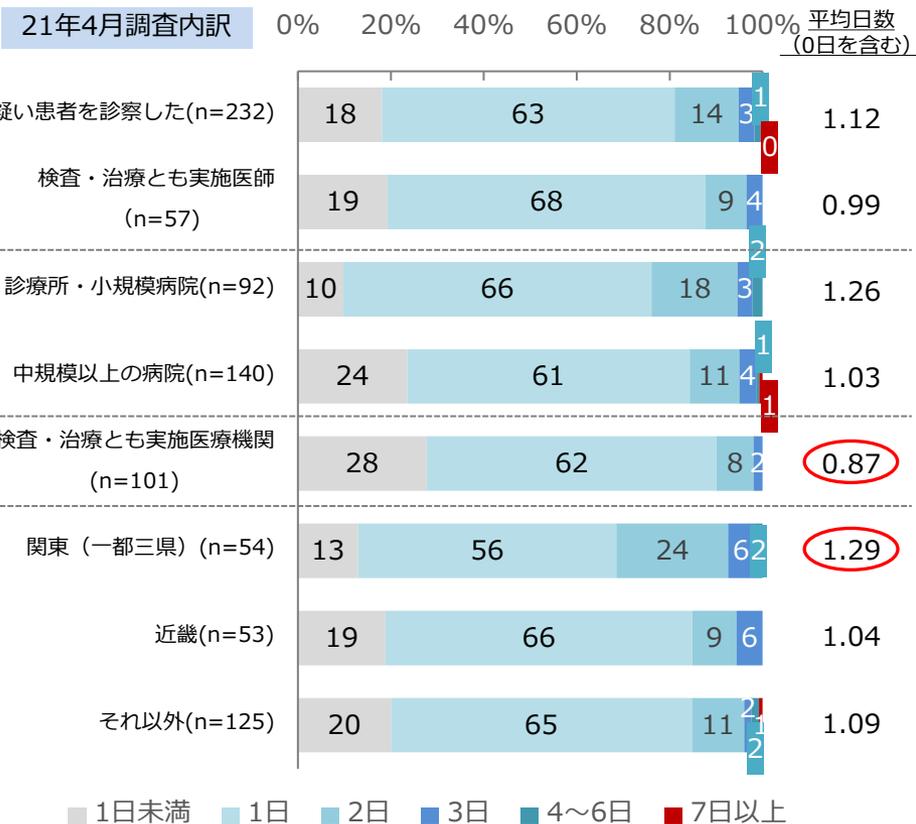
「依頼してから検査実施まで」にかかる日数

Base:「医師が検査を必要とした」回答者



「実施してから結果が出るまで」にかかる日数

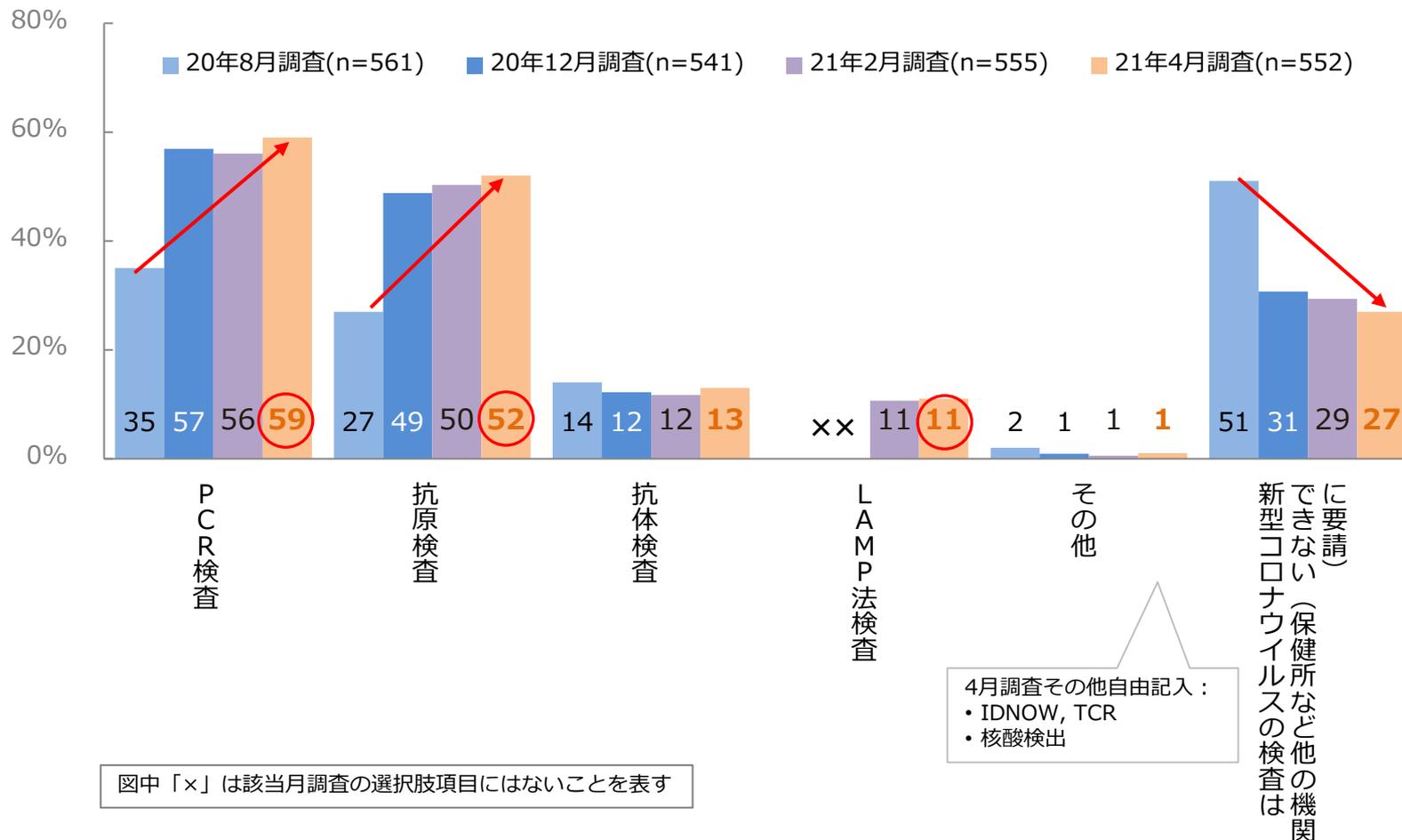
Base:「医師が検査を必要とした」回答者



Q9. 新型コロナウイルス感染が疑われる患者のPCR検査を依頼後、実際に検査が行われ、結果が分かるまでに日数がかかると言われていました。お勤めの医療機関でのPCR検査、または、お勤めの医療機関経由で他の医療機関や保健所などへ委託される場合のPCR検査にかかる日数を教えてください。

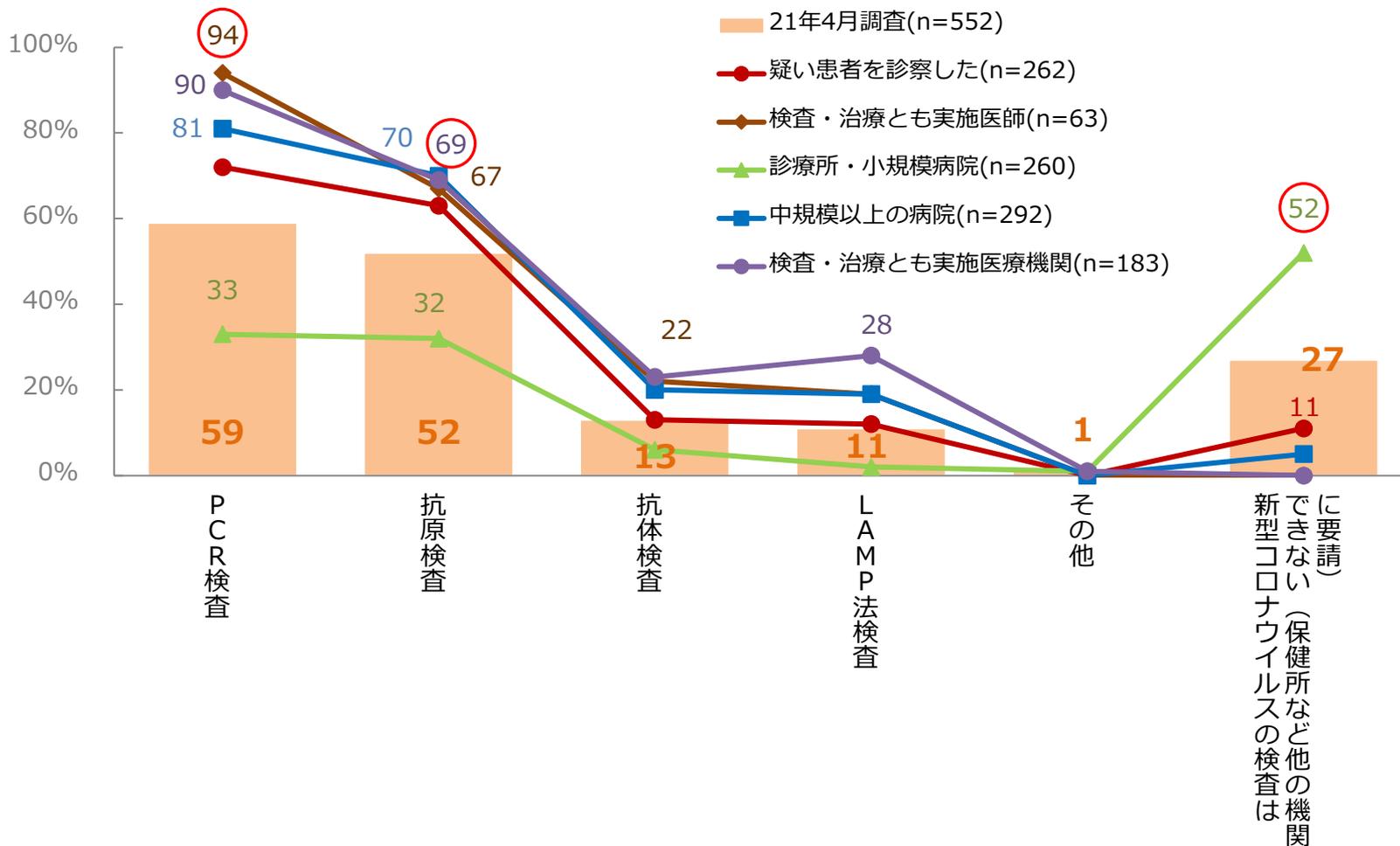
【1】依頼してから検査実施までにかかる日数 / 【2】実施してから結果が出るまでにかかる日数 (OA, -/-/-/8月/10月/12月/2月/4月)

- 勤めている医療機関で実施可能な検査を聞いた。実施可能な検査別にみると、8月以降一貫して「PCR検査」が最も高く全体の59%が選択、次いで「抗原検査」が52%、「抗体検査」は13%と、いずれも12月以降同レベル。2月調査で追加した「LAMP法検査」も11%が選択した。
- 「新型コロナウイルスの検査はできない(他の機関に要請)」は一貫して51%→31%→29%→27%と減少傾向が続いている。12月以降は検査可能施設の拡大ペースが鈍化しているようだ。



Q10. 先生がお勤めの医療機関における新型コロナウイルスの検査体制についてお伺いします。お勤めの医療機関で実施可能な検査を教えてください
 (MA, -/-/-/-/8月/10月/12月/2月/4月)

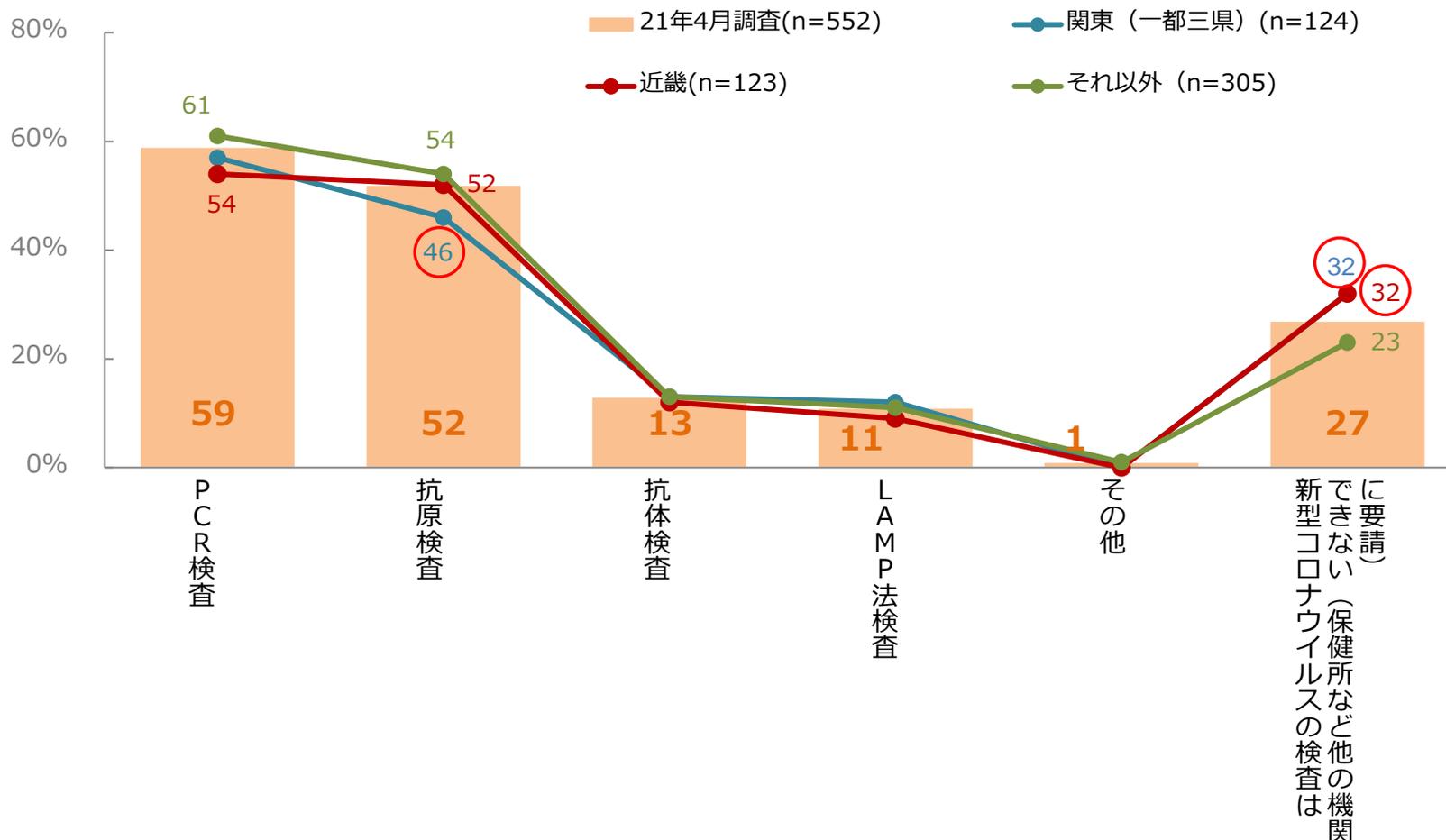
- 患者を検査・治療とも実施の医師では、PCR検査を9割超、抗原検査が7割弱、抗体検査は2割超が選択している。検査・治療とも実施医療機関、PCR検査は90%、抗原検査を69%が選択した。
- 医療機関の規模別では、中規模以上の病院と診療所・小規模病院の選択率の著しい差が8月以降一貫してみられる。4月調査では、中規模以上の病院は、PCR検査を8割、抗原検査を7割、抗体検査を2割が実施可能と回答。一方、診療所・小規模病院は最も高いPCR検査でも3割超に留まり、「検査はできない」も未だ過半数を占める。診療所・小規模病院では、引き続き対応可能な検査に限られる実態がみとれる。



Q10. 先生がお勤めの医療機関における新型コロナウイルスの検査体制についてお伺いします。お勤めの医療機関で実施可能な検査を教えてください
(MA, -/-/-/8月/10月/12月/2月/4月)

実施可能な検査(地域別)

- 地域別に実施可能な検査をみた。関東(一都三県)と近畿のいずれも3割超が「新型コロナウイルスの検査ができない」と回答し、その他の地域(「それ以外」)よりも9ポイント高め。
- 実施可能な検査は、「それ以外」では「PCR検査」の6割が最も高く、「抗原検査」が5割超。「それ以外」の地域に勤務医、主診療科目に内科が多いことに関連したのであろうか。近畿は、「PCR検査」54%、「抗原検査」52%。関東(一都三県)の「抗原検査」は5割を切り、やや低め。

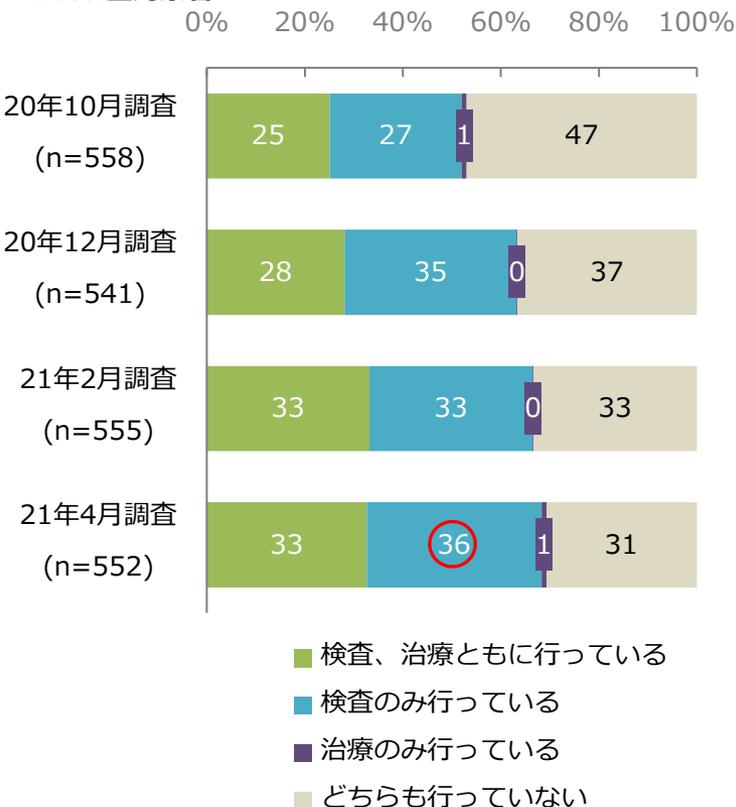


Q10. 先生がお勤めの医療機関における新型コロナウイルスの検査体制についてお伺いします。お勤めの医療機関で実施可能な検査を教えてください
(MA, -/-/-/8月/10月/12月/2月/4月)

医療機関で実際に検査や治療を行っているか

- 勤め先の医療機関で実際に検査や治療を行っているかを聞くと、「検査・治療ともに行っている」「検査のみ行っている」「どちらも行っていない」がいずれも3割超と、3分される傾向が続いている。2月時点よりも「検査のみ行っている」が3ポイント微増。
- 「検査、治療ともに行っている」の割合は、中規模以上の病院が59%であるのに対し、診療所・小規模病院は5%に留まり、医療機関種別により大きな開きがある傾向が続いている。「検査のみ行っている」34%を含めると、中規模以上の病院の9割超が検査または治療を行っている一方で、診療所・小規模病院の「検査または治療を行っている」は4割に留まる。
- 地域別にみると、「それ以外」の「検査のみ行っている」は約4割に上り、関東（一都三県）に比べ10ポイント、近畿に比べても6ポイント高い。

Base:全対象者



検査、治療の
いずれか1つ
以上を実施

53

63

67

69

疑い患者を診察した(n=262)

検査・治療とも実施医師 (n=63)

診療所・小規模病院(n=260)

中規模以上の病院(n=290)

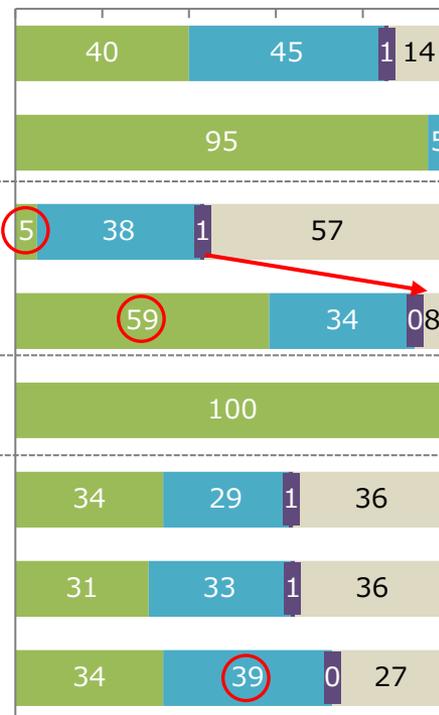
検査・治療とも実施医療機関(n=183)

関東（一都三県）(n=124)

近畿(n=123)

それ以外(n=305)

0% 20% 40% 60% 80% 100% 検査、治療の
いずれか1つ
以上を実施



86

100

43

92

100

64

64

73

検査、治療ともに行っている

検査のみ行っている

治療のみ行っている

どちらも行っていない

Q11. お勤めの医療機関では、新型コロナウイルス感染症の検査や患者の治療を、実際に行っていますか (SA, -/-/-/-/10月/12月/2月/4月)

先生自身が実際に診察・治療を行っているか

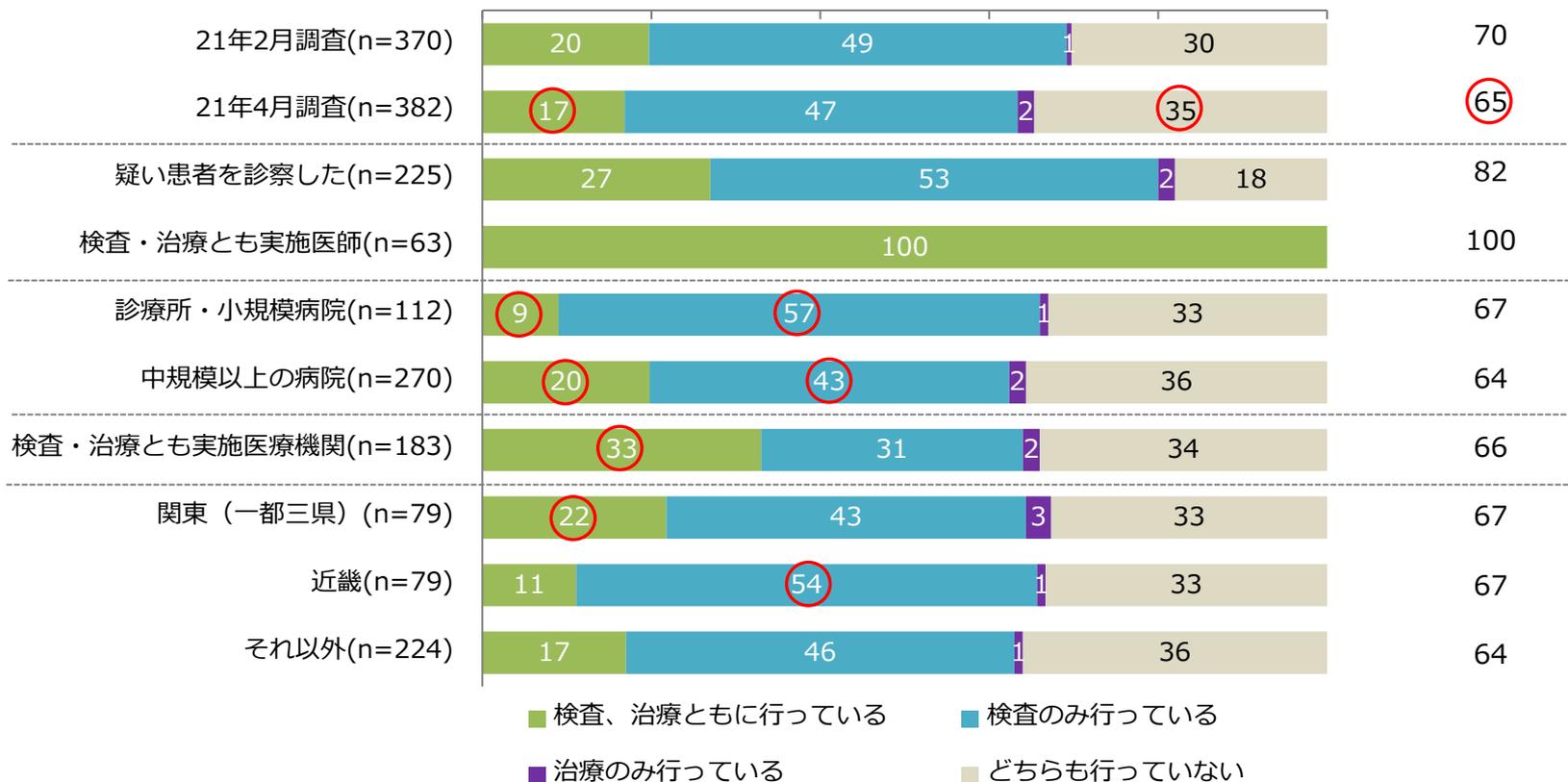
- 医療機関で検査や治療を行っていると回答した医師に、自身が実際に診察・治療を行っているかを聞くと、「検査・治療とも実施」が17%、「検査のみ」が半数弱をあわせて6割超を占めた。「どちらも行ってない」医師が35%含まれ、2月調査より5ポイント多め。4月調査時点では、第4波の医療逼迫が未だ現れていないことも一因であろう。
- 検査・治療とも実施の医療機関のうち、医師自身が「検査、治療ともに行っている」のは3分の1。医療機関規模別では、自身が「検査・治療ともに」行っている割合が中規模以上の病院では20%であるのに対し、診療所・小規模病院では9%に留まる。「検査のみ行っている」医師は、診療所・小規模病院では6割近く弱、中規模以上の病院では4割超であった。
- 地域別では、関東（一都三県）の医師は、「検査と治療」ともに行っている率が他地域よりやや高く2割超、近畿の医師の過半数は「検査のみ」の率が、他地域より10ポイント前後高め。

検査、治療の
いずれか1つ
以上を実施

Base: 検査や治療を行っている医療機関に勤める医師

0% 20% 40% 60% 80% 100%

21
年
4
月
調
査
内
訳

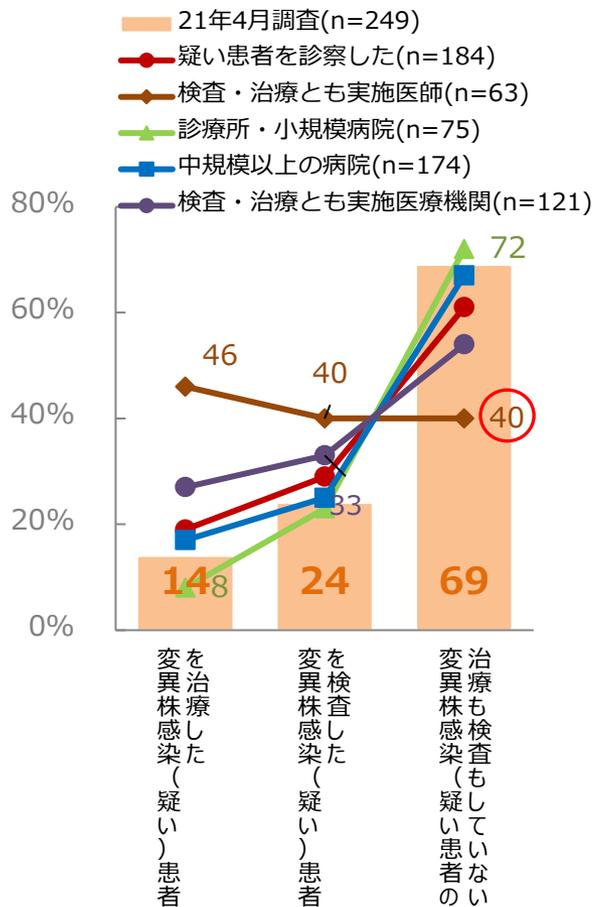


■ 検査、治療ともに行っている ■ 検査のみ行っている
■ 治療のみ行っている ■ どちらも行ってない

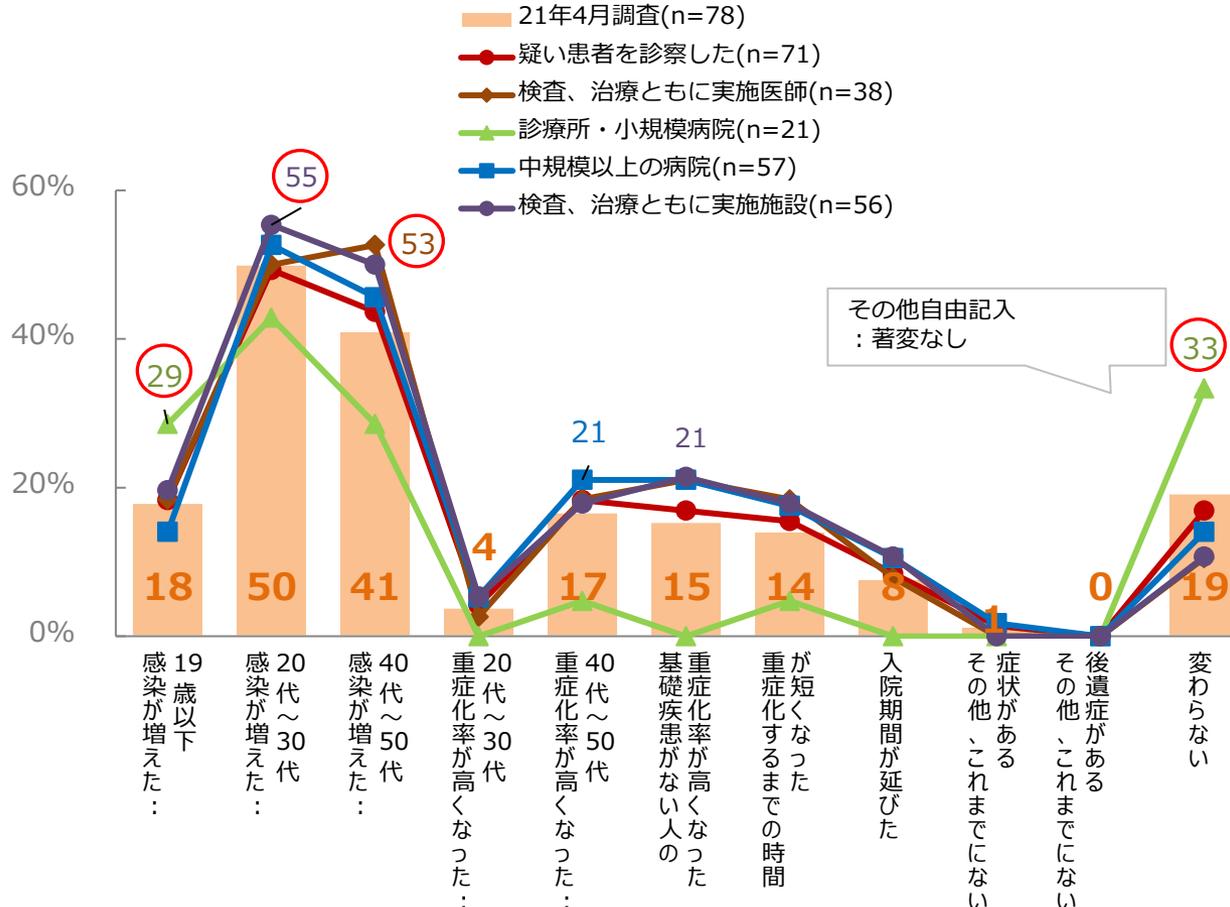
Q12. 先生ご自身は、新型コロナウイルスへの感染が確認された患者の診察・治療を、実際に行っていますか (SA, -/-/-/-/-/-/12月/2月/4月)

- 変異株感染(疑い)患者の治療または検査経験があるのは、回答医師の約3割。コロナ患者の検査・治療とも実施医師では約6割。
- 変異株感染患者を検査か治療をした医師に、変異株の傾向を聞いたところ、「20代～30代の感染が増えた」を半数が選択し、続いて「40代～50代の感染が増えた」が4割。「19歳以下の感染が増えた」「40代～50代の重症化率が高くなった」「基礎疾患がない人の重症化率が高くなった」「重症化するまでの時間が短くなった」が15%前後挙がった。検査・治療ともに実施医師では53%が「40代～50代の感染増加」を挙げるなど、変異株の若年層への感染について実感される結果となった。

Base: コロナ感染疑い患者を検査か治療をした医師



Base: 変異株の感染(疑い)患者を検査か治療をした医師

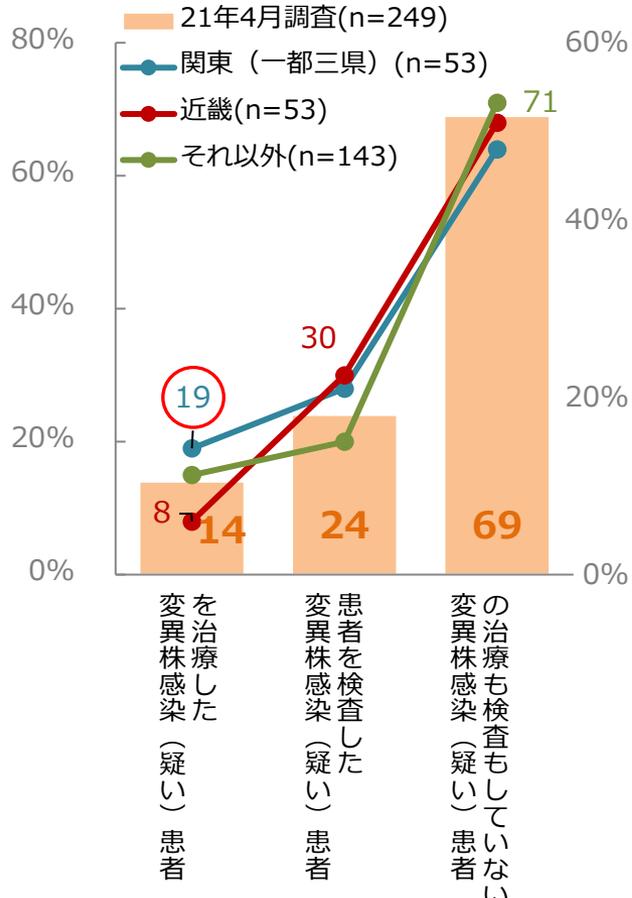


Q13. 国内でも、新型コロナウイルスの変異株の感染が広がりつつあるようです。先生は、「変異株」に感染したあるいは感染の疑いのある患者の治療・検査をしたことがありますか。

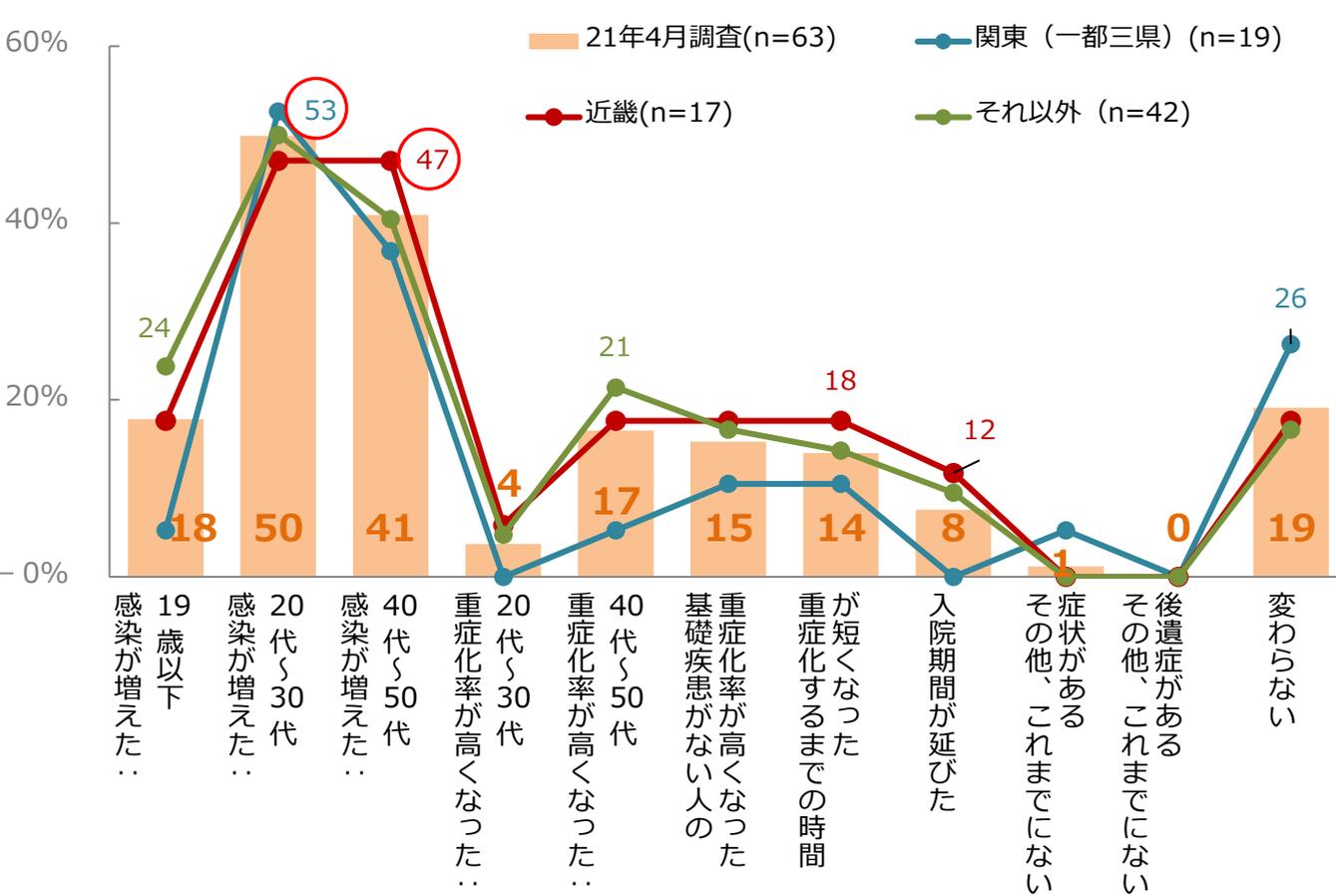
Q14. 一部の变異株では、症状の悪化や感染者の若年化が見られるとの報道もあります。先生が実際に患者の検査や治療をされる中で、従来株にくらべ、変異株には報道にある様な傾向がありましたか。あてはまるものをすべて教えてください。(MA, -/-/-/-/-/-/4月)

- いずれの地域でも、3割前後超の医師が変異株感染(疑い)の治療か検査をしていた。変異株感染患者の治療は、関東(一都三県)で19%と、近畿より10ポイント以上高かった。ベースは少なくなるが、変異株の傾向については近畿及び、それ以外の医師が多く挙げていた。近畿では、「40~50代の感染増加」が47%と他地域よりも高く、また、「重症化するまでの時間が短くなった」の懸念もやや多く挙げた。

Base: コロナ感染・疑い患者を検査か治療をした医師



Base: 変異株の感染・疑い患者を検査か治療をした医師

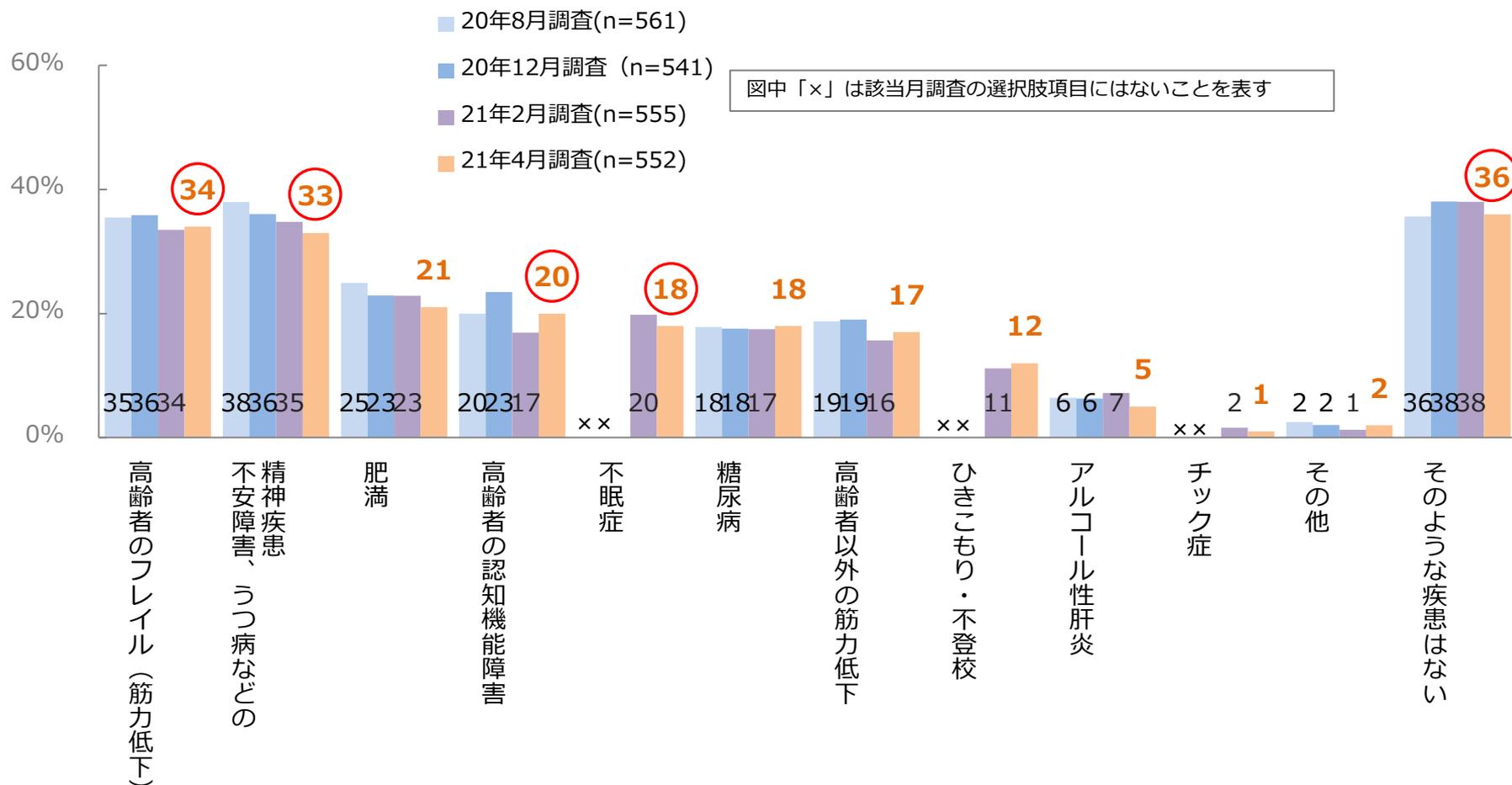


Q13. 国内でも、新型コロナウイルスの変異株の感染が広がりつつあるようです。先生は、「変異株」に感染したあるいは感染の疑いのある患者の治療・検査をしたことがありますか。

Q14. 一部の変異株では、症状の悪化や感染者の若年化が見られるとの報道もあります。先生が実際に患者の検査や治療をされる中で、従来株にくらべ、変異株には報道にある様な傾向がありましたか。あてはまるものをすべて教えてください。(MA, -/-/-/-/-/-/4月)

増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患

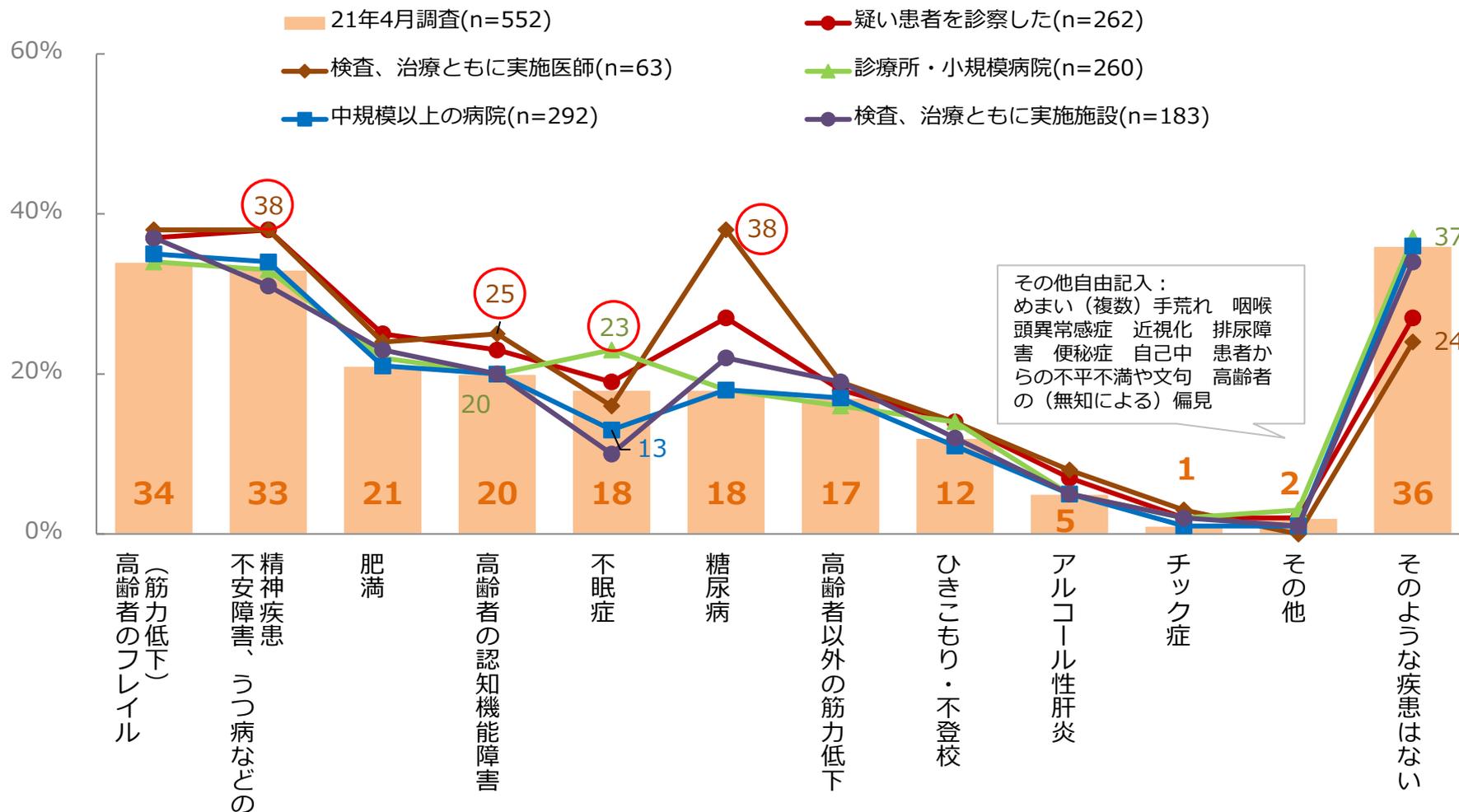
- 新型コロナウイルスの流行や生活環境の変化で「増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患」は、全般的に2月調査とほぼ同レベルの選択率。「そのような疾患はない」は4割弱。
- 2月に続き「精神疾患」と「高齢者のフレイル」を3割を超える医師が選択。「高齢者の認知機能障害」は、2月調査時点より選択率が微増し、20%。2月調査で追加した「不眠症」は18%。流行の長期化、緊急事態宣言の延長などの影響がひき続き懸念される。



Q15. 新型コロナウイルスの流行、生活環境の変化などで、今増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患をすべてお選びください
(MA, -/-/-/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患

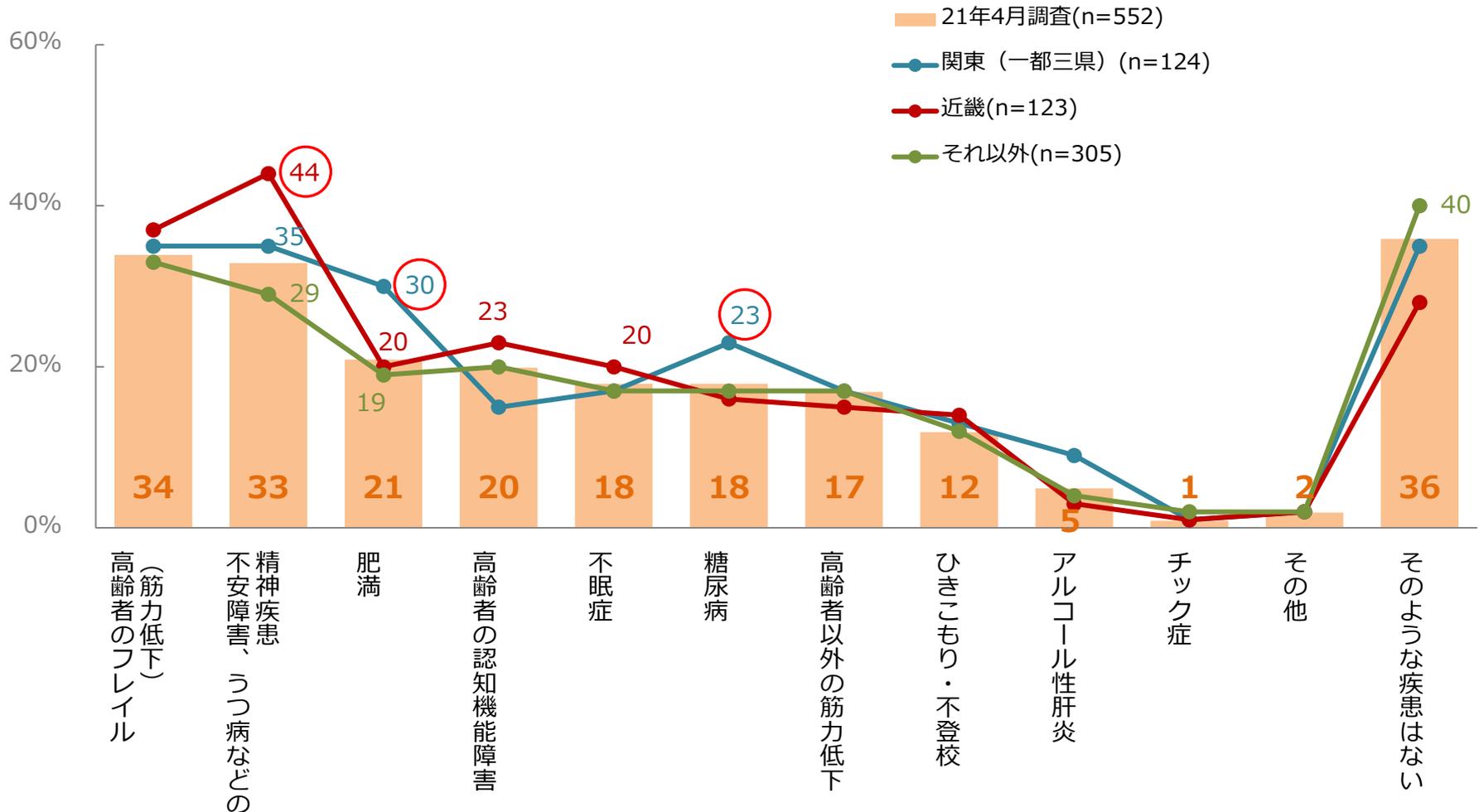
- 検査・治療ともに実施医師の選択率が全般的に高い傾向は続いている。4月は、「糖尿病」は選択率が38%に上り(対2月比13ポイント増)、「精神疾患」と同レベル。「高齢者の認知機能障害」も25%と相対的に高め。
- 医療機関種別では、診療所・小規模病院と中規模病院の選択率に顕著な差はみられないが、「不眠症」のみ診療所・小規模病院が中規模病院より10ポイント高い。



Q15. 新型コロナウイルスの流行、生活環境の変化などで、今増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患をすべてお選びください
(MA, -/-/-6月/8月/10月/12月/2月/4月)

増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患(地域別) eHealthcare

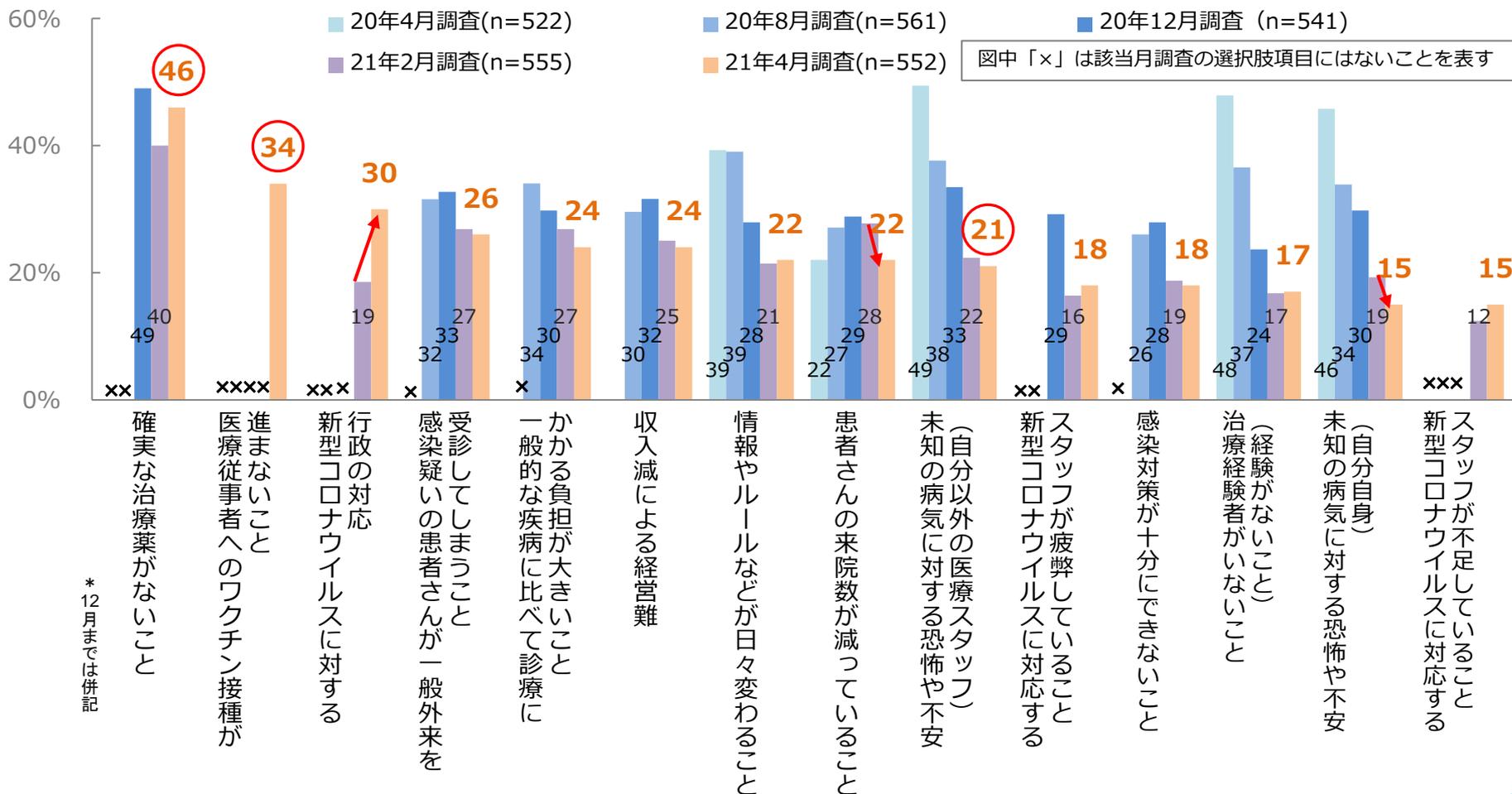
- 地域別では、近畿の医師の4割超が「精神疾患」を挙げ、関東(一都三県)より9ポイント、それ以外の地域よりも15ポイント以上高い。関東(一都三県)は「肥満」を3割が挙げ、他地域よりも10ポイント以上高く、「糖尿病」の選択率も2割を超えた。



Q15. 新型コロナウイルスの流行、生活環境の変化などで、今増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患をすべてお選びください
(MA, -/-/-6月/8月/10月/12月/2月/4月)

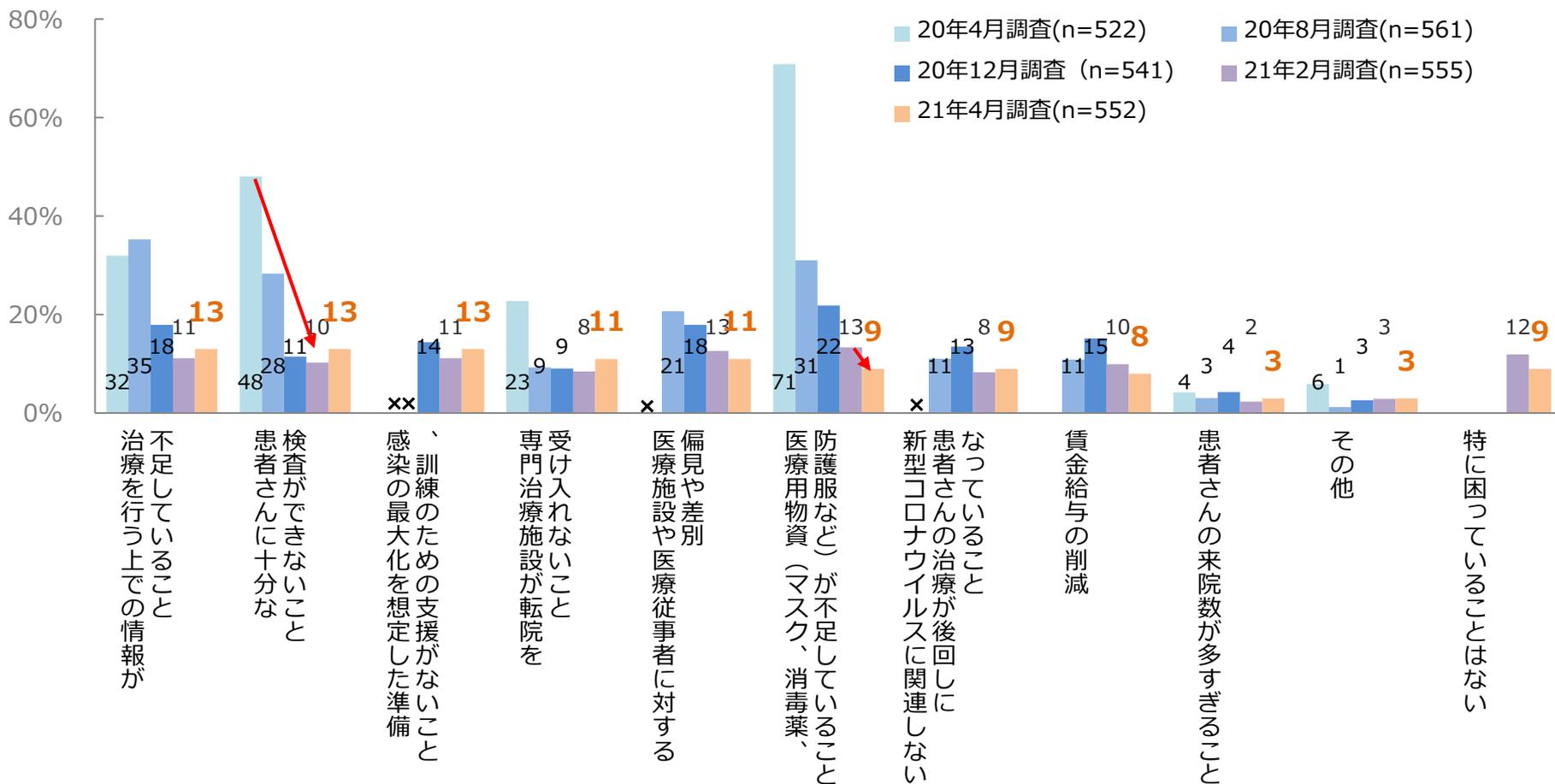
医療現場で困っていること_1

- 医療現場で困っていることを選択率は、全体的にやや下降傾向が続く。2月に引き続き「確実な治療薬がないこと」が最も多く、6ポイント増の46%となった。4月調査ではじめて聞いた、「医療従事者へのワクチン接種が進まないこと」が34%で続いた。「新型コロナウイルスに対する行政の対応」も2月時点より10ポイント以上高い、3割が挙げた。「感染疑いの患者が一般外来を受診」「一般的な疾病に比べて診療にかかる負担が大きい」「収入源による経営難」が、4分の1前後の選択率で続いた。
- また、2月に比べ「患者さんの来院数が減っている」はやや低下したものの、「未知の病気に対する恐怖や不安(自分以外の医療スタッフ)」と共に2割以上が挙げている。



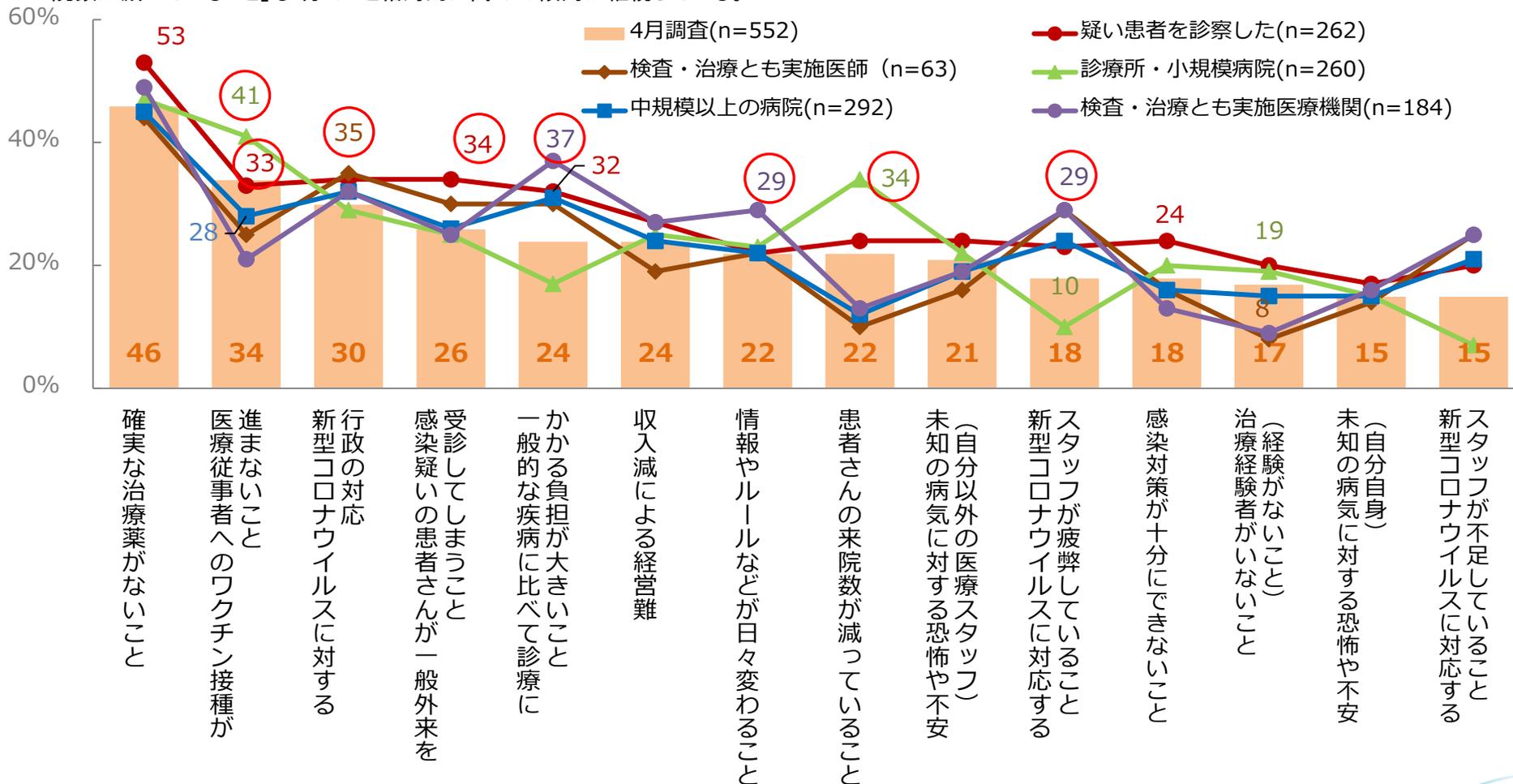
Q16. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください (MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

- 医療現場で困っていることを選択率下位を見ると、20年4月時点で最も多かった「医療用物資の不足」は1年強を経て大きく減少、2月からも4ポイント減で初めて1割を切った。昨年4月時点で2番目に多かった「検査ができないこと」も、2月にひき続き1割台に留まる。



Q16. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください
(MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

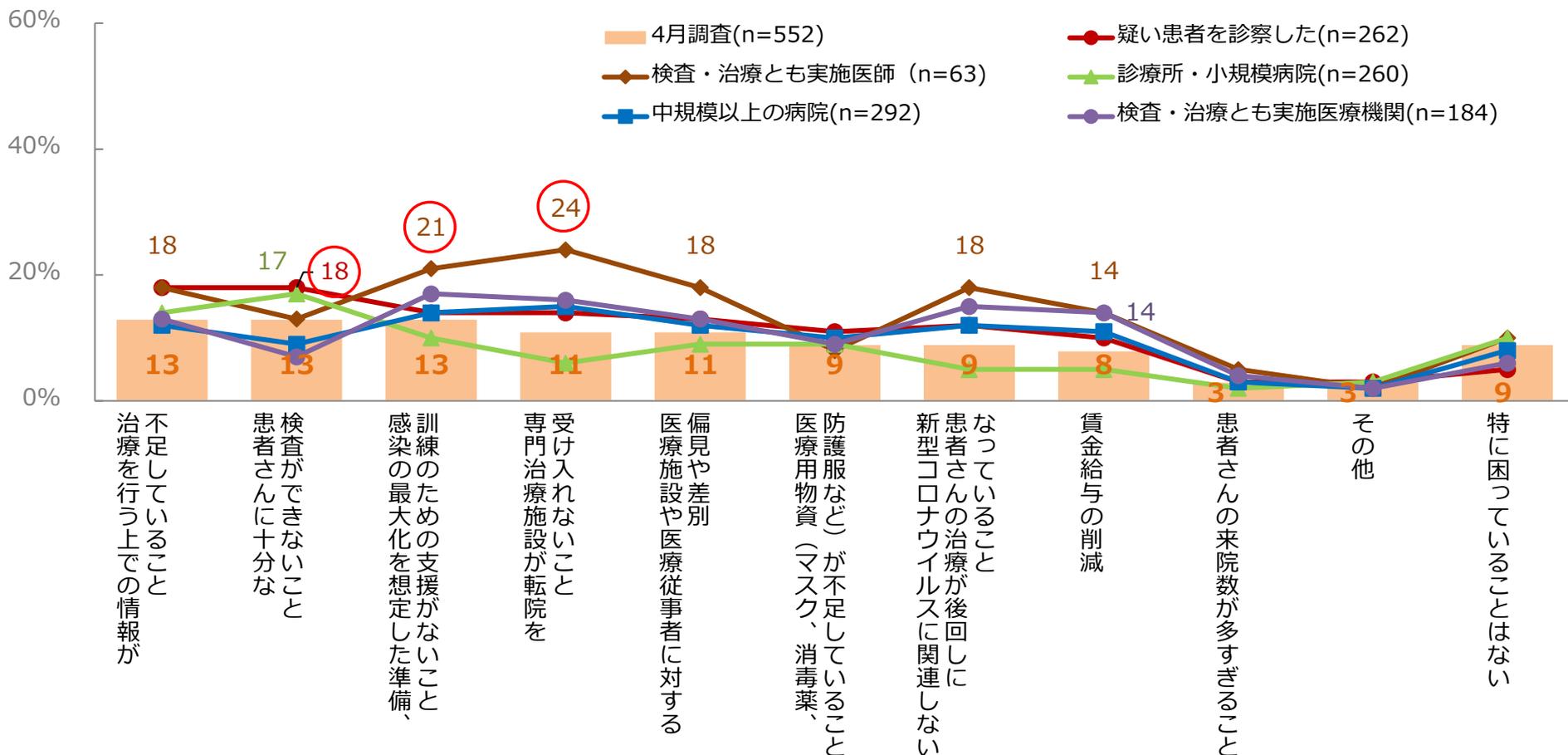
- グループ間では疑い患者診察医師の選択率が全般的に高めで、平均5.1項目を選択している。「確実な治療薬がないこと」を53%が、「感染疑いの患者さんが一般外来を受診してしまう」を3割超が挙げ、他グループよりも高め。検査・治療とも実施医療機関では「一般的な疾病に比べて診療にかかる負担が大きい」を4割弱、「情報やルールなどが日々変わる」「新型コロナウイルスに対応するスタッフの疲弊」を約3割が挙げ、現場の医療ひっばくが垣間見える。
- 診療所・小規模病院では、「医療従事者へのワクチン接種が進まない」を4割超が挙げ、中規模以上の病院に比べ10ポイント以上高い。「患者さんの来院数が減っていること」も3分の1と相対的に高めの傾向が継続している。



Q16. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください
(MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

医療現場で困っていること_4

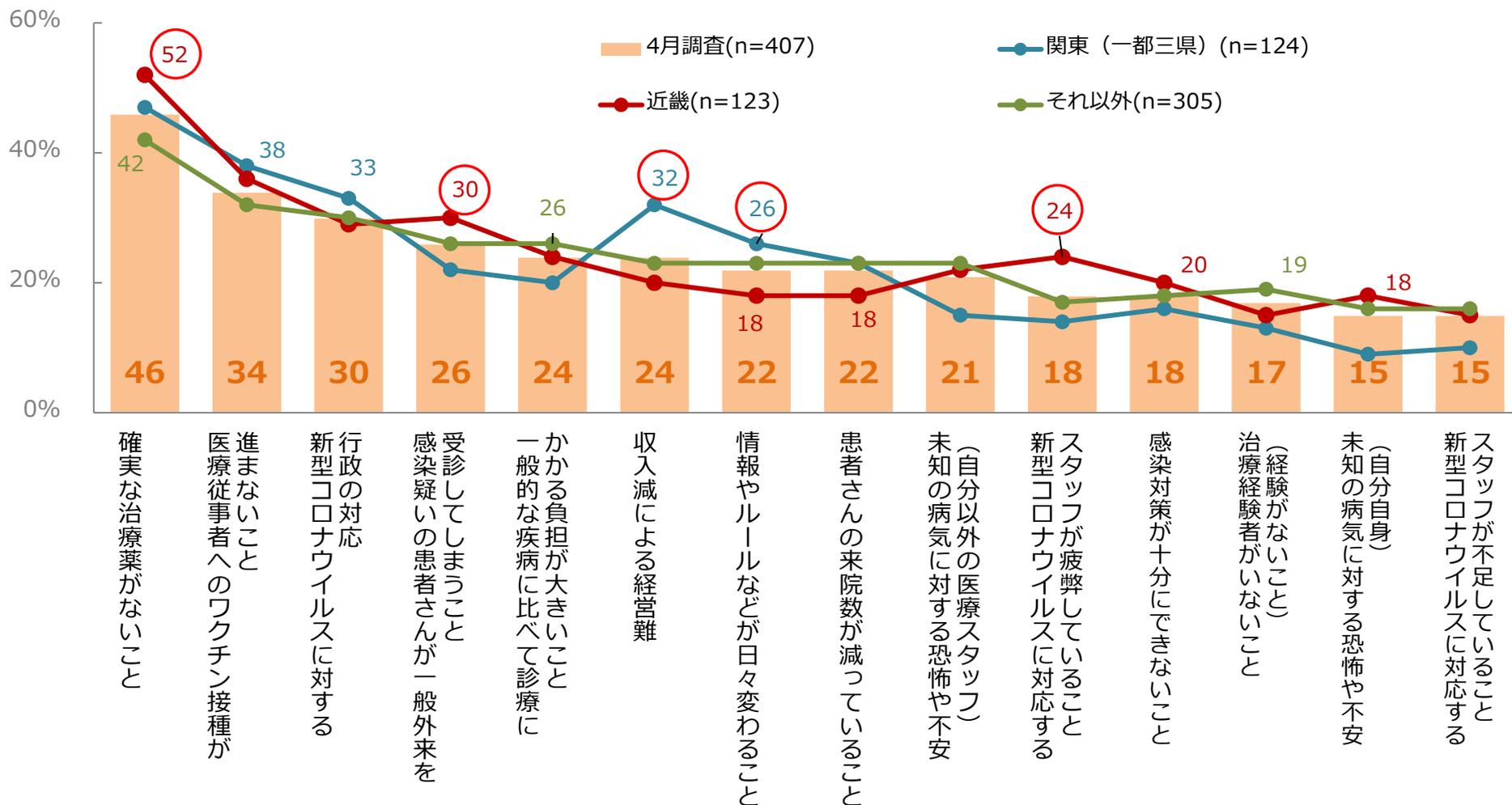
- 下位項目では、検査・治療とも実施医師の選択率が全般的に高め。「専門治療施設が転院を受け入れないこと」「感染の最大化を想定した準備、訓練のための支援がない」については2割以上が選択し他グループより高め。「治療を行う上での情報不足」「医療施設や従事者に対する偏見や差別」「新型コロナウイルスに関連しない患者さんの治療が後回しになっている」も18%が挙げた。
- 診療所・小規模病院は、引き続き「十分な検査ができない」を2割弱が選択した。



Q16. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください
(MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

医療現場で困っていること 1(地域別)

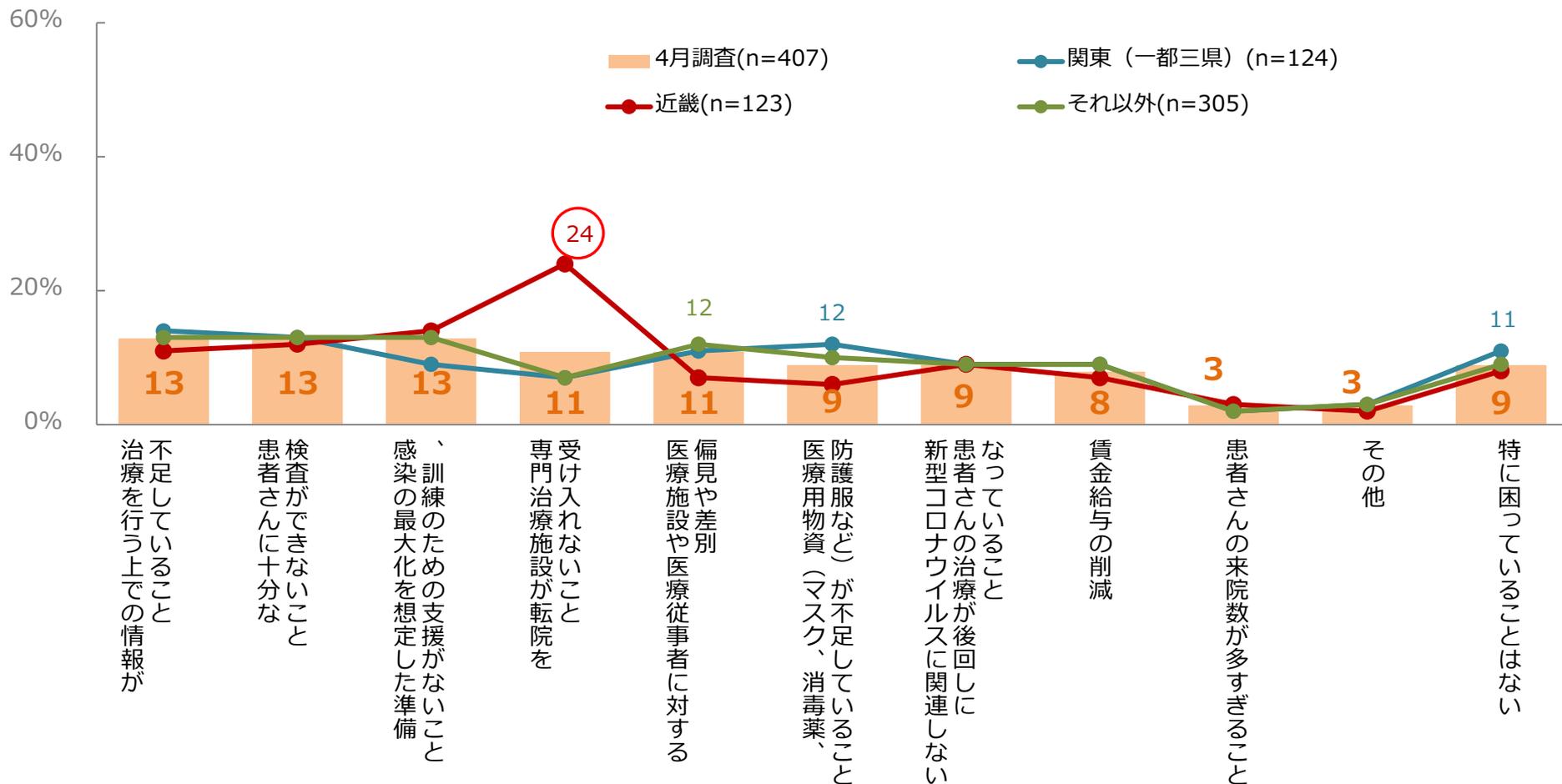
- 地域別では、近畿の「確実な治療薬がないこと」が半数を超え、もっとも高く、「感染疑いの患者さんが一般外来を受診」が3割、「新型コロナウイルスに対応するスタッフが疲弊」が24%と、他地域よりも高い。第4波の感染者数増が顕著であった地域状況が反映されたのかもしれない。
- 関東(一都三県)では、「収入減による経営難」が3割を超え、他地域より10ポイント前後高く、「情報やルールなどが日々変わる」もやや高め傾向。



Q16. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください
(MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

医療現場で困っていること_2(地域別)

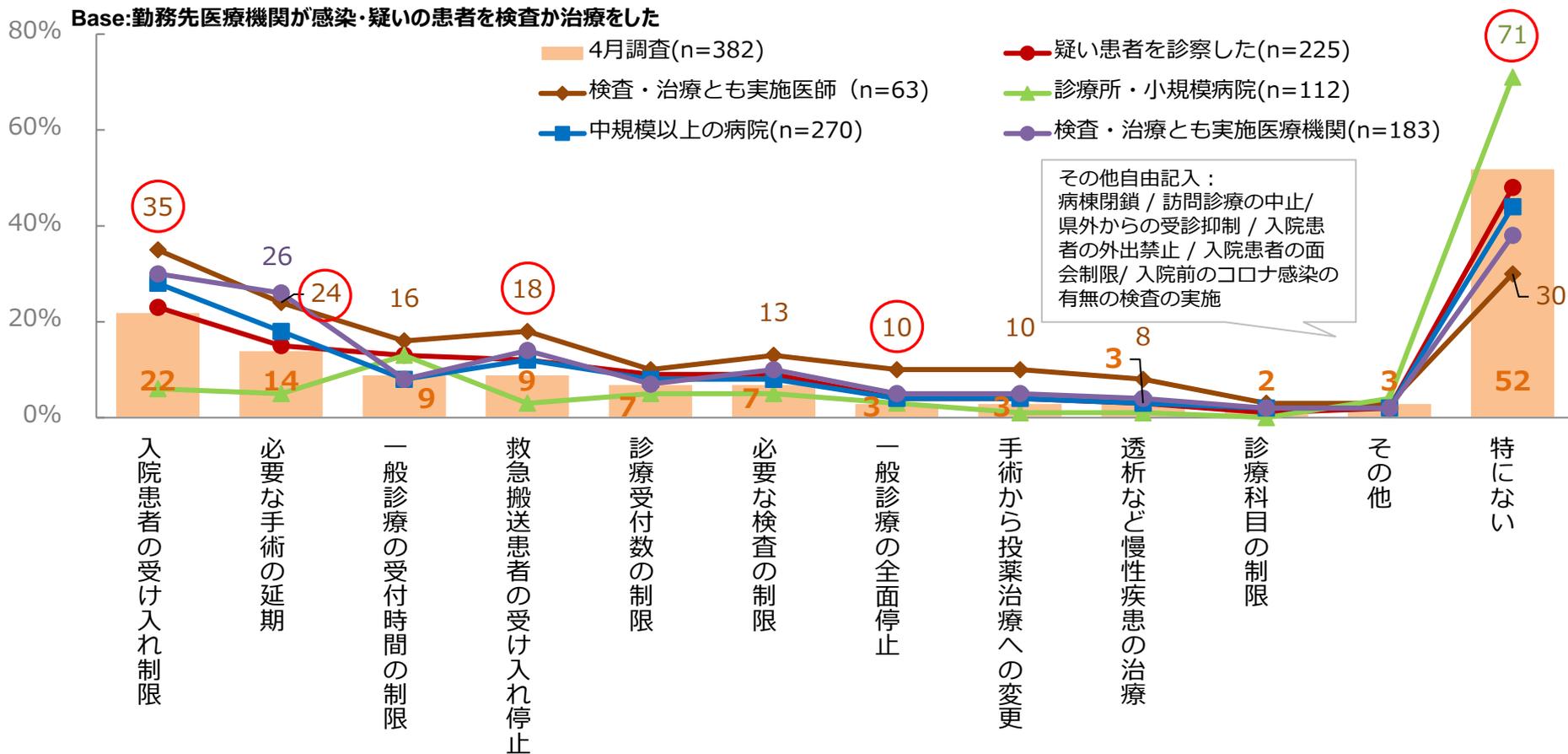
- 下位項目については、近畿の「専門治療施設が転院を受け入れないこと」が24%と他地域より10ポイント以上高く、第4波を受け重症者の満床率が高止まりし、入院調整に時間がかかっている現状を反映したものかもしれない。



Q16. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください
(MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

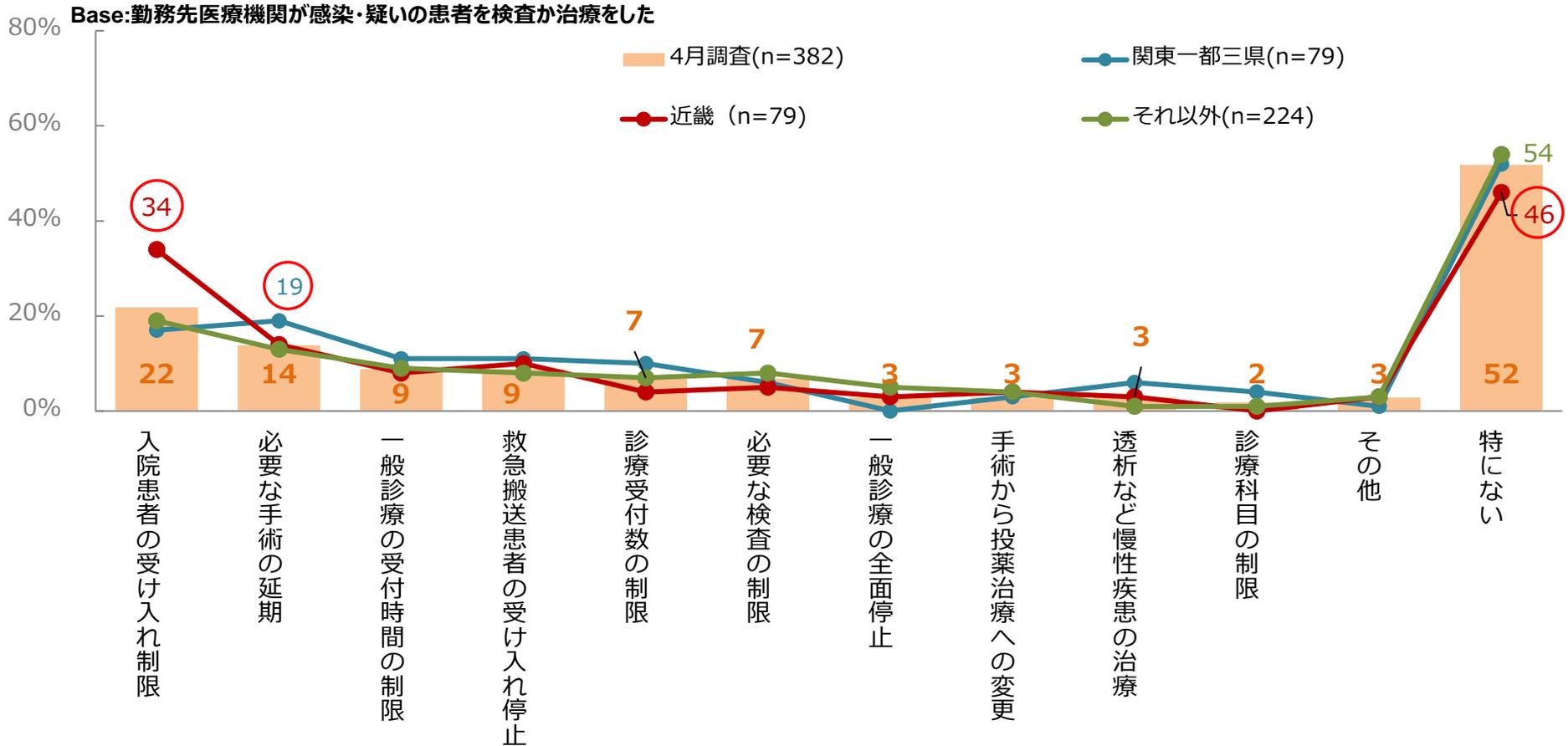
後回しになっている治療や、変更した治療方針

- 勤務先医療機関が感染・疑いの患者の検査か治療をした医師に、新型コロナウイルス感染症への対応に伴い、後回しになっている治療や、変更した治療方針があるかを聞いた。全体の約半数が、なんらかの制限や変更を選択した。「入院患者の受け入れ制限」が2割超、「必要な手術の延期」が14%、「一般診療の受付時間の制限」、「救急搬送患者の受け入れ停止」が1割弱と続いた。
- 検査・治療とも実施医師が全般的に選択率が高く、「入院患者の受け入れ制限」を35%が選択し、「必要な手術の延期」を24%、「救急搬送車の受け入れ停止」も2割弱が挙げた。診療所・小規模病院は全般に選択率が低く、なんらかを挙げたのは、3割弱に留まる。



Q17. 新型コロナウイルス感染症への対応にともない、お勤めの医療機関では診療の制限・停止や治療方針の変更などがありましたか。あてはまるものをすべて教えてください。(MA, -/-/-/-/-/-/-/4月)

- 近畿の選択率が全般にやや高め。特に3分の1超が、「入院患者の受け入れ制限」を挙げた。
- 関東(一都三県)では2割弱が、「必要な手術の延期」を挙げた。

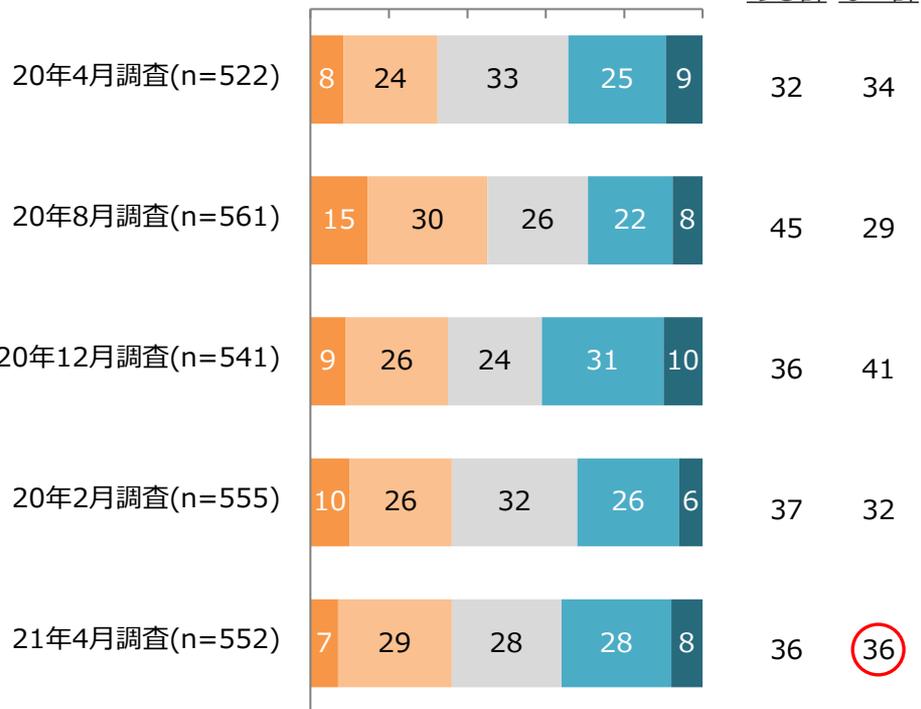


Q17. 新型コロナウイルス感染症への対応にともない、お勤めの医療機関では診療の制限・停止や治療方針の変更などがありましたか。あてはまるものをすべて教えてください。(MA, -/-/-/-/-/-/-/4月)

医療スタッフは足りているか

- 勤務先の医療スタッフの充足状況については、「十分である」(「十分」、「まあ十分」の計)が36%。「十分でない」(「あまり」、「全く」の計)は、2月時点より4ポイント微増し、36%。
- 検査・治療とも実施医療機関では「十分である」計<「十分でない」計で、半数近くが不足感あり。医療機関種別で見ると、中規模以上の病院で「十分でない」計が48%と、診療所・小規模病院より25ポイント高い。
- 地域別の充足感は、関東(一都三県)>それ以外>近畿で、特に近畿では「十分である」が32%に留まる。

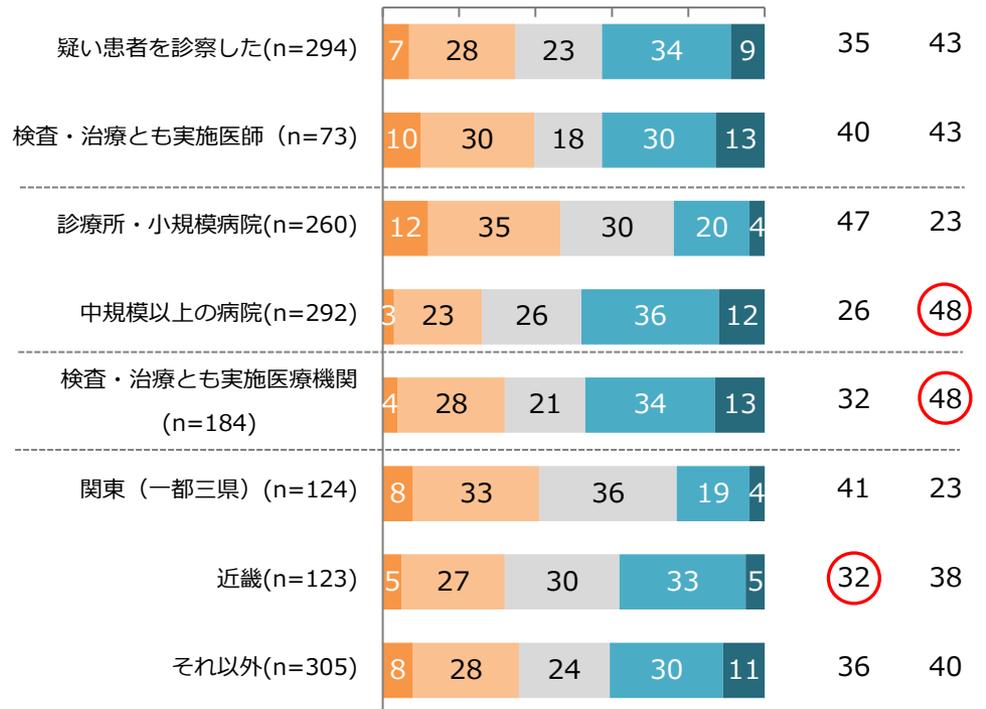
0% 20% 40% 60% 80% 100% 十分である計 十分でない計



■ 十分であると思う
■ どちらとも言えない
■ 全く十分ではない
■ まあ十分であると思う
■ あまり十分ではない

21年4月調査内訳

0% 20% 40% 60% 80% 100% 十分である計 十分でない計

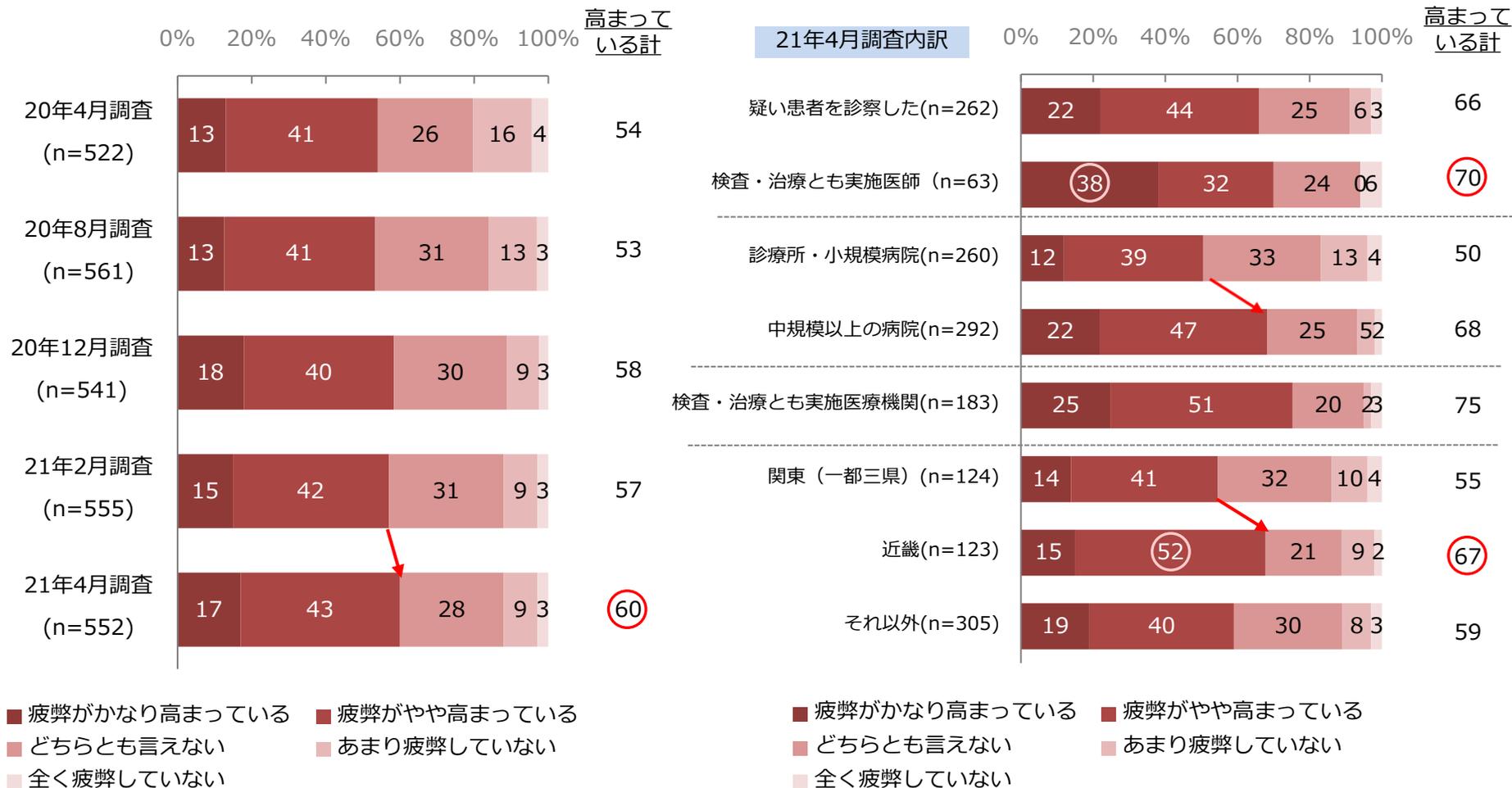


■ 十分であると思う
■ どちらとも言えない
■ 全く十分ではない
■ まあ十分であると思う
■ あまり十分ではない

Q18. 先生のお勤めの医療機関では、緊急対策の影響でスタッフの数が足りないなどの状況がありますか。お勤めの施設のスタッフ数についてお答えください (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

医療スタッフの疲弊度

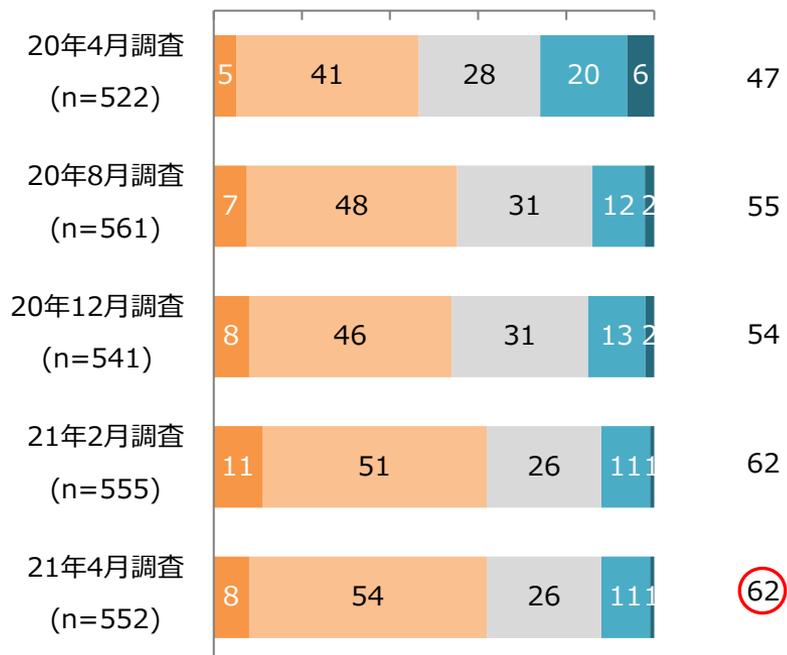
- 医療スタッフの疲弊度は2月に比べ微増し、「疲弊が高まっている」（「かなり」、「やや」の計）が6割に達した。
- 患者を検査・治療ともに実施医師では、疲弊が「かなり高まっている」が4割弱、「高まっている」計が7割。検査・治療とも実施の医療機関では4分の3が「疲弊が高まっている」と回答。実際に診療にあたっている医療スタッフの疲弊が顕著な傾向が続いている。
- スタッフの不足感が高めた近畿は疲弊度も高く、「高まっている」計が67%と他地域に比べ10ポイント前後高い。



Q19. 先生のお勤めの医療機関では、新型コロナウイルス感染症の影響で医師を含む医療従事者の疲弊が高まっているとわかりますか (SA, -/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

- 院内感染対策については、「出来ている」（「よく」、「まあ」の計）との回答が2月にひき続き6割台に上った。
- 患者を検査・治療とも実施の医師の3分の2、および検査、治療ともに実施医療機関の7割超が「出来ている」と回答。医療機関種別では、診療所・小規模病院の「出来ている」割合は、中規模以上の病院より7ポイント低く、5割台に留まる。
- 地域別では、関東（一都三県）と近畿がともに「出来ている」が3分の2前後であるのに対し、それ以外の地域はやや低めの6割に留まった。

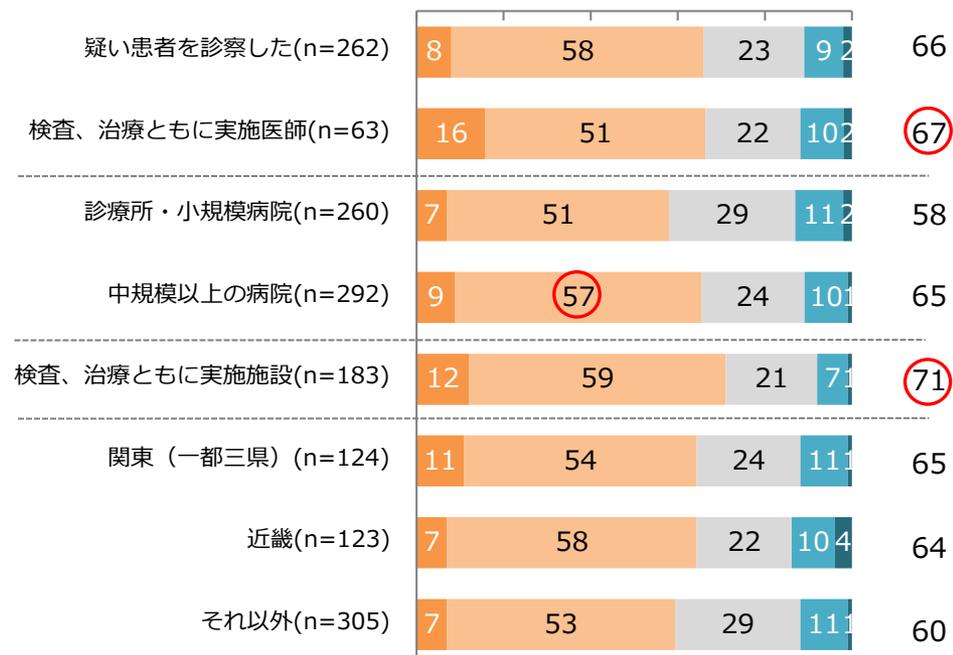
0% 20% 40% 60% 80% 100% 出来ている計



- よく出来ていると思う
- まあ出来ていると思う
- どちらとも言えない
- あまり出来ているとは思わない
- 全く出来ていると思わない

21年4月調査内訳

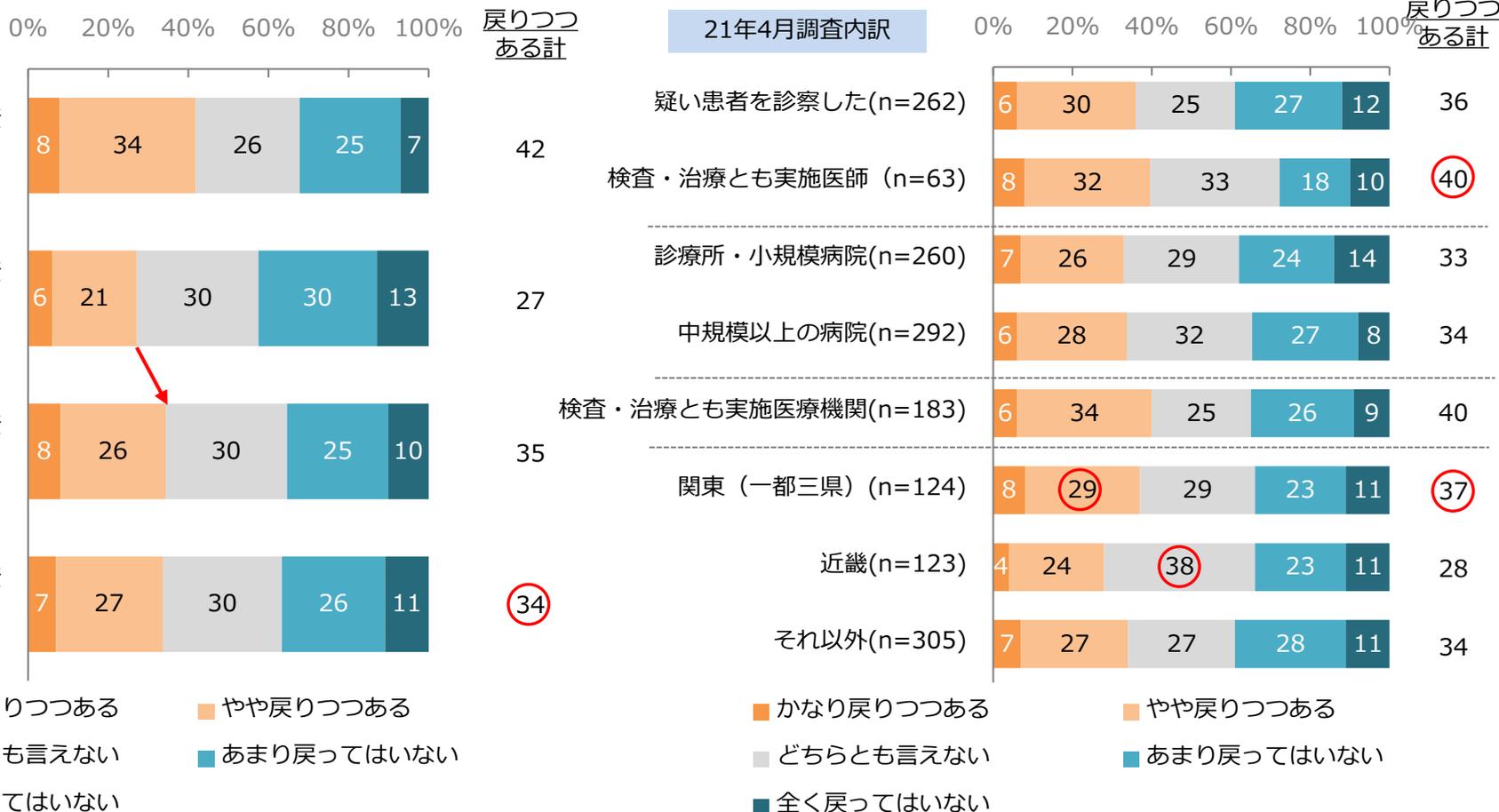
0% 20% 40% 60% 80% 100% 出来ている計



- よく出来ていると思う
- まあ出来ていると思う
- どちらとも言えない
- あまり出来ているとは思わない
- 全く出来ていると思わない

Q20. 先生は、院内の感染対策についてどのようにお考えでしょうか（SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月）

- 来院患者数が、新型コロナウイルス拡大以前の状況に戻りつつあると思われるかを聞いたところ、4月は全体の3割超が「戻りつつある」計(「かなり」、「やや」の計)と回答し、2月とほぼ同レベル。12月の第3波以降の患者の来院控えは同程度のみであるようだ。
- 新型コロナウイルスの検査・治療に対応している医師では、「戻りつつある」計が7ポイント減少し4割(12月37%→2月47%→4月40%)。検査・治療とも実施医療機関では、「戻りつつある」は2月調査とほぼ同レベルの4割(12月35%→2月42%→4月40%)。他方、診療所・小規模病院では、前回2月26%→4月33%と改善傾向みられる。
- 地域別では、来院患者数の戻り実感は関東(一都三県) > それ以外 > 近畿の順で、近畿では「戻りつつある」が3割を切り、関東と10ポイント近い開きがある。



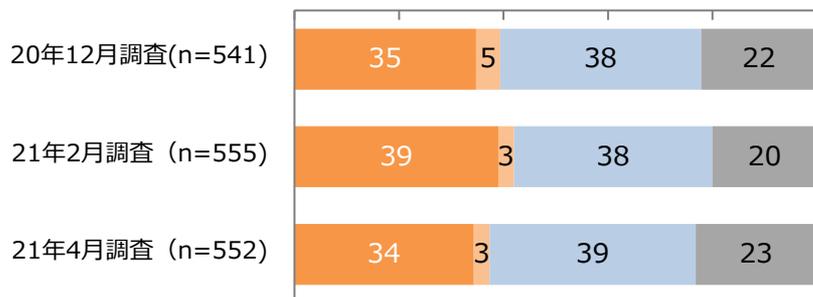
Q21. 先生のお勤めの医療機関では、来院患者数は新型コロナウイルス拡大以前の状況に戻りつつあると思われますか (SA, -/-/-/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

「診療・検査医療機関」としての申請状況

- 「診療・検査医療機関」の申請状況について、「分からない」を除いた結果を見ると、「すでに指定されている」は2月から5ポイント微減し全体の44%。
- 「すでに指定されている」との回答は、検査・治療ともに実施医師はベースが小さいながら8割超、検査・治療ともに実施医療機関では86%に上っている。
- 医療機関規模別では、「すでに指定されている」は中規模以上の病院の6割弱、診療所・小規模病院では31%と開きがある傾向が続く。診療所・小規模病院の3分の2が「申請する予定はない」と回答している。
- 地域別では、すでに指定されている割合が「それ以外」>「近畿」>「関東（一都三県）」の順が多い。関東（一都三県）では「申請する予定がない」が56%に上る。

0% 20% 40% 60% 80% 100%

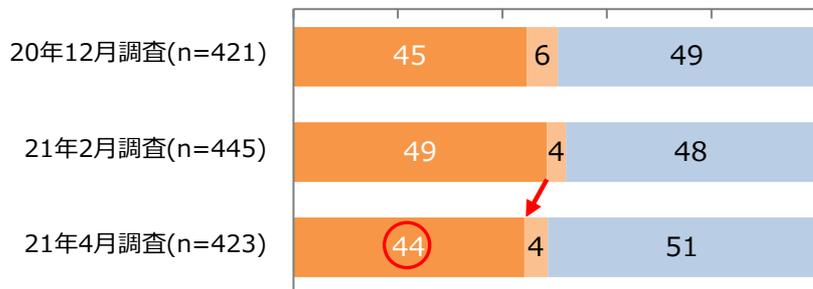
21年4月調査内訳 Base:「分からない」を除く回答者



■ すでに指定されている
■ 現在申請中
■ 申請する予定はない

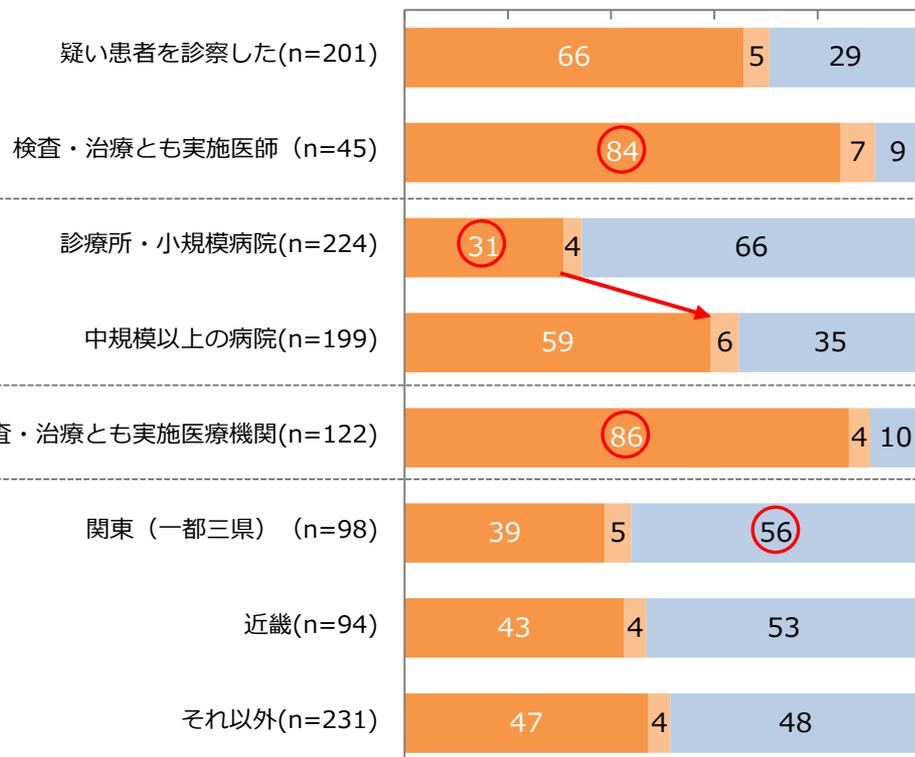
Base:「分からない」を除く回答者

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ すでに指定されている
■ 現在申請中
■ 申請する予定はない

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ すでに指定されている
■ 現在申請中
■ 申請する予定はない

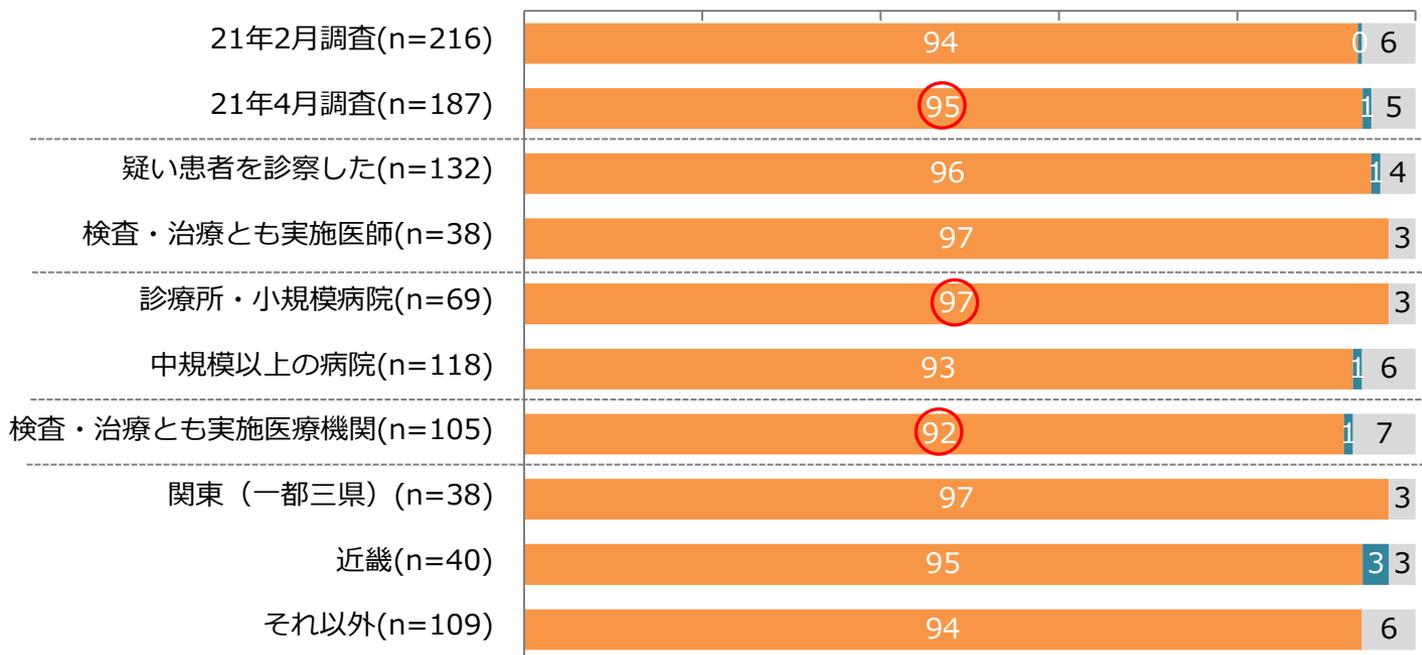
Q19. 先生がお勤めの医療機関は、「診療・検査医療機関（仮称）」として申請・指定されていますか（OA, -/-/-/-/-/10月/12月/2月/4月）

「診療・検査医療機関」としての継続予定

- 既に診療・検査指定医療機関として指定されている回答者全体の95%が「継続予定」と回答し、2月調査時とほぼ同レベル。「解除を申請した、または解除申請を考えている」は、わずか1%に留まった。
- グループ間では、ベース数が少ないものの、患者を検査・治療とも実施医師の97%が、検査・治療とも実施の医療機関では92%が「継続予定」を選択。

Base:「すでに指定されている」との回答者

0% 20% 40% 60% 80% 100%



21年4月調査内訳

- 継続予定である
- 解除を申請した、または解除申請を考えている
- 分からない

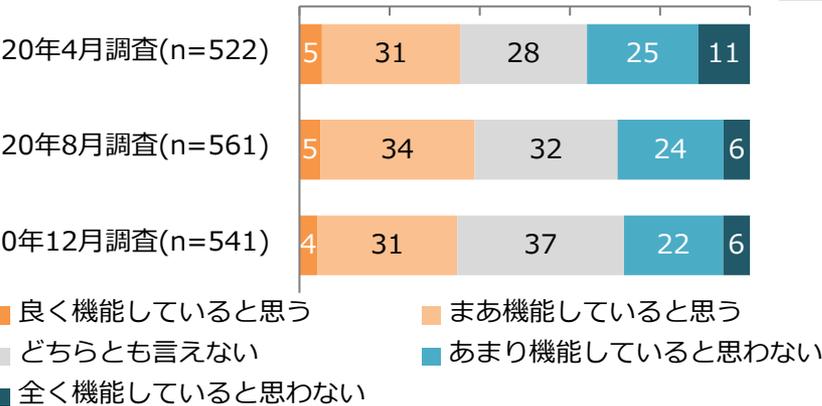
Q20. 先生がお勤めの医療機関は、「診療・検査医療機関」としての指定を今後も継続予定ですか (SA, -/-/-/-/-/-/-/2月)

相談窓口は機能しているか

- 都道府県設置の新型コロナウイルス受診相談窓口について2月調査以降「保健所や発熱相談センターなどの相談窓口」として聞いたところ、「機能している」計（「良く」、「まあ」の計）が2月調査時より18ポイント低い34%に留まった。
- 実際に検査や治療にあたっている、患者の検査・治療とも実施医師や医療機関で、「機能していると思う」の割合が約半数。診療所・小規模病院も中規模以上の病院も半数を割った。地域別では、それ以外＞関東（一都三県）＞近畿の順で、近畿の「機能している」は41%に留まり、評価がもっとも低い。

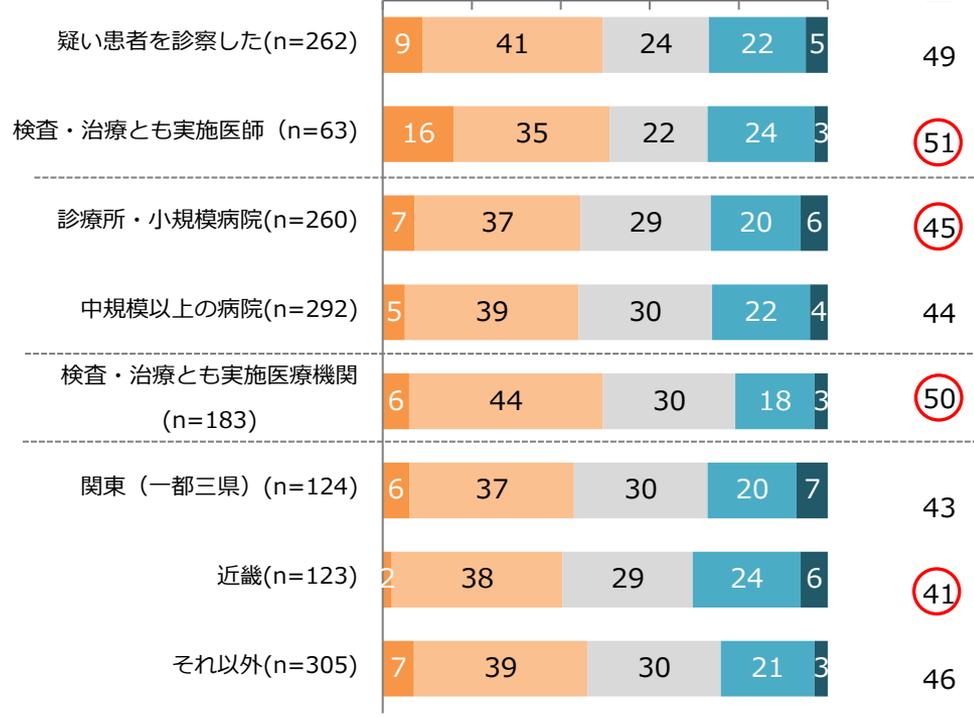
保健所や帰国者・接触者相談センターなどの相談窓口

0% 20% 40% 60% 80% 100% 機能していると思う計



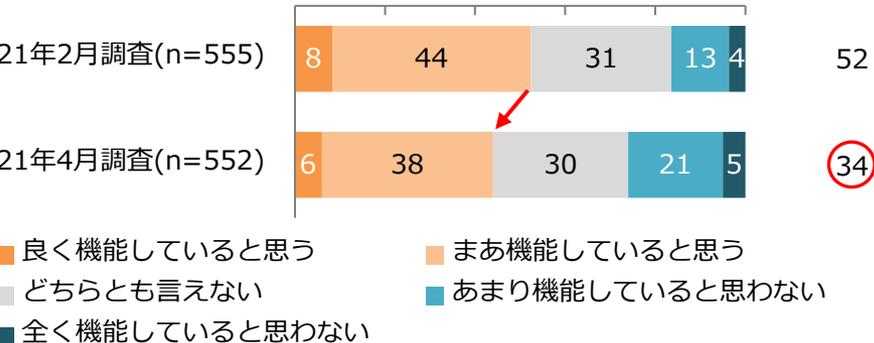
21年4月調査内訳

0% 20% 40% 60% 80% 100% 機能していると思う計



保健所や発熱相談センターなどの相談窓口

0% 20% 40% 60% 80% 100%



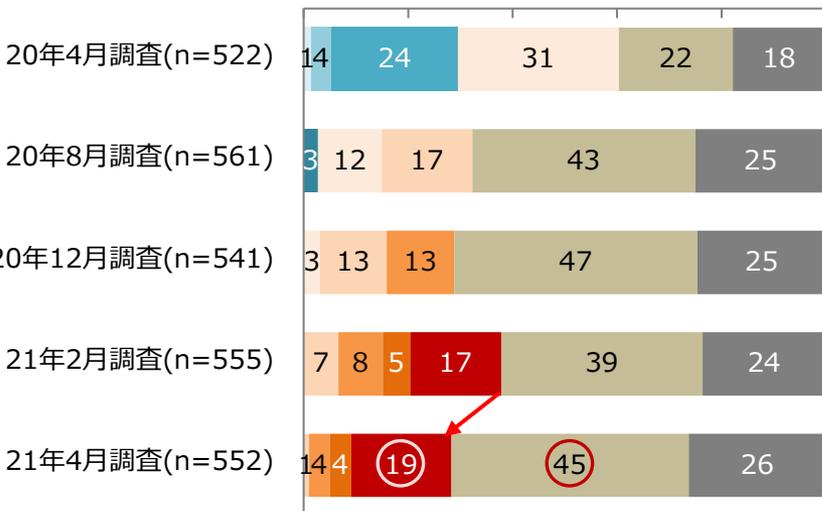
- 良く機能していると思う
- まあ機能していると思う
- どちらとも言えない
- あまり機能していると思わない
- 全く機能していると思わない

Q24. 先生がお勤めの地域では、保健所や、都道府県が設置する発熱相談センター*などの相談窓口が正しく機能しているとお考えですか。
 (SA, -/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月) *12月調査までは「帰国者・接触者相談センター」と記載

新型コロナウイルスの収束時期予測

- 収束時期については、「2～3年かかる」との回答は2月調査時点より6ポイント増加し4割を超えた、「22年春ごろ」の19%と合わせると6割を超え、2月時点よりもさらに長期化するとの見通しとなった。「収束しない」は、継続的に4分の1前後が回答。
- 実際に患者の検査・治療にあっている医師では、21年「夏ごろ」または「秋ごろ」との回答がやや多く、合わせて15%。
- 地域別では、「2～3年かかる」との見通しが、関東（一都三県）＞近畿＞それ以外の順に多く、それ以外では「収束しない」が3割に上る。

0% 20% 40% 60% 80% 100%

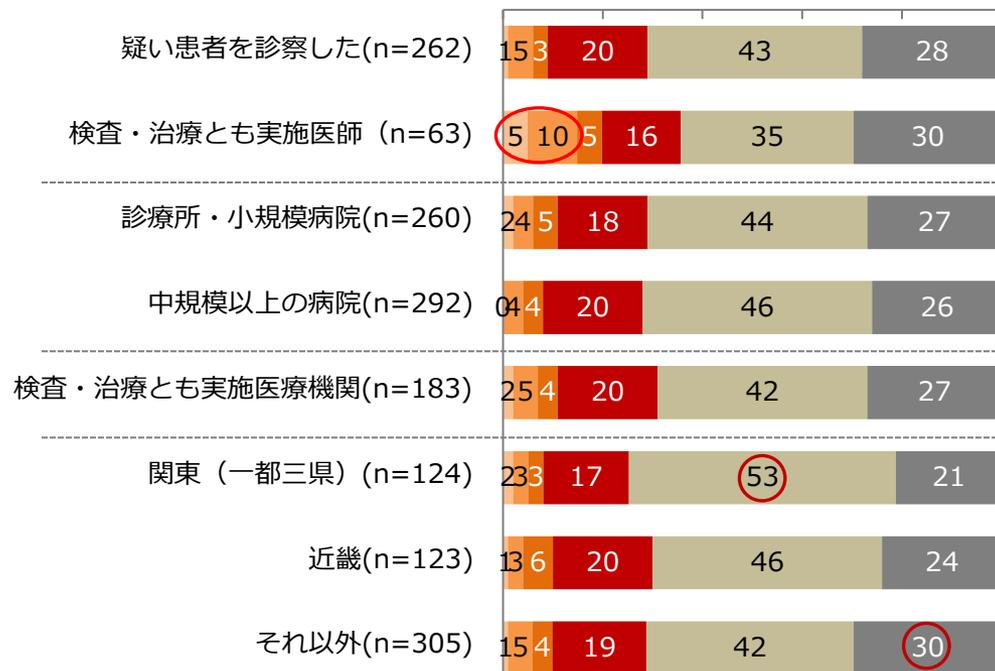


- (20年3月中に収束するだろう)
- (20年4月中)
- (20年5月中)
- (20年の夏ごろ)
- (20年の秋ごろ)
- (20年の冬ごろ)
- (21年の春ごろ)
- 21年の夏ごろ ※20年8月調査で追加
- 21年の秋ごろ ※20年10月調査で追加
- 21年の冬ごろ ※21年2月調査で追加
- 22年の春ごろ ※21年2月調査で追加
- 2～3年かかるのではない
- 収束しない (季節性インフルエンザの様に不定期に流行が起きる)

過去の選択肢

21年4月調査内訳

0% 20% 40% 60% 80% 100%

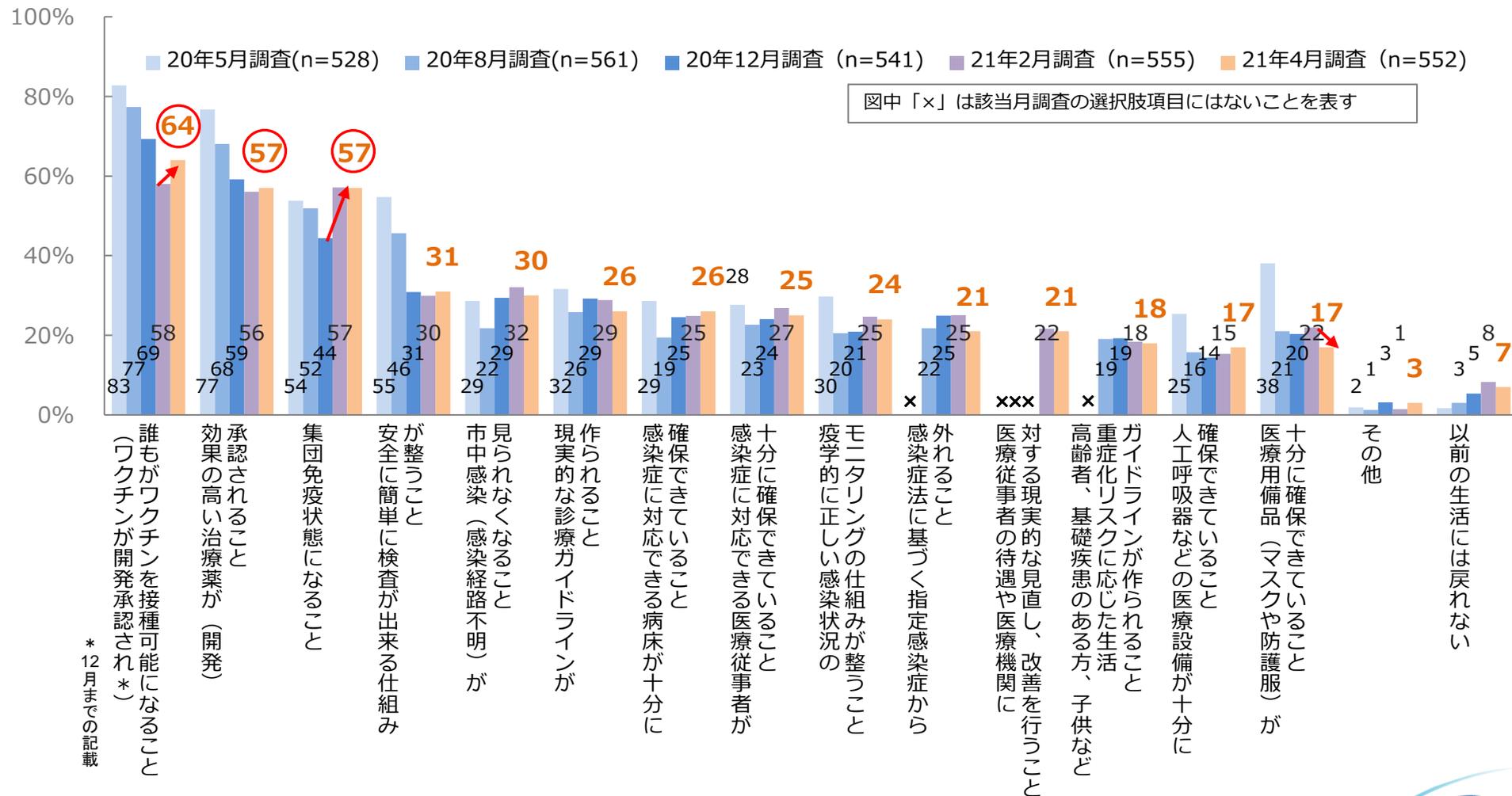


- 21年の夏ごろ ※20年8月調査で追加
- 21年の秋ごろ ※20年10月調査で追加
- 21年の冬ごろ ※21年2月調査で追加
- 22年の春ごろ ※21年2月調査で追加
- 2～3年かかるのではない
- 収束しない (季節性インフルエンザの様に不定期に流行が起きる)

Q25. 先生はこの新型コロナウイルスの流行はいつまで続くとお考えでしょうか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと

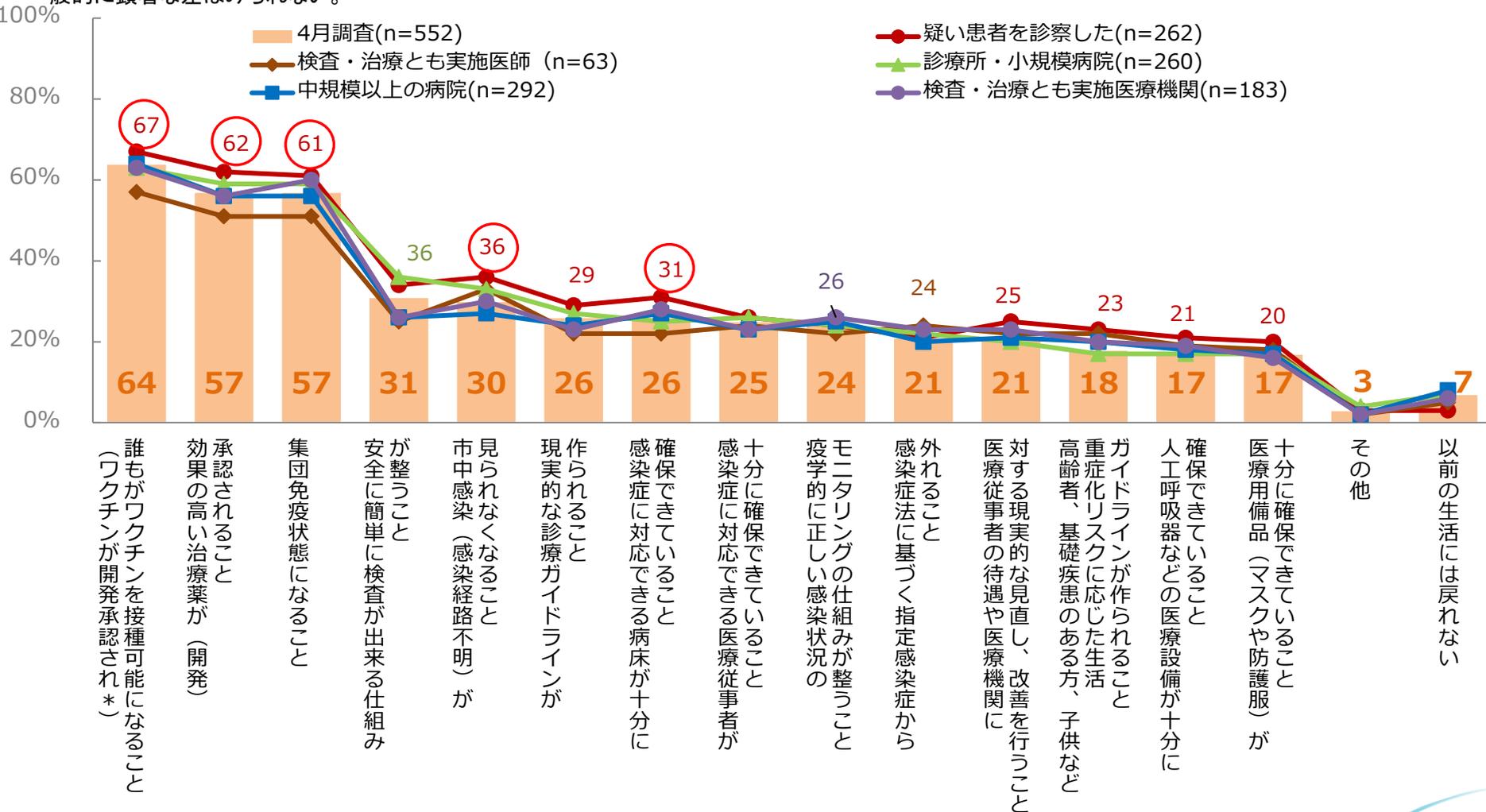
- 感染拡大以前の生活に戻るために必要なことについての回答傾向は、これまでとほぼ同様。「ワクチン」が最も高く、2月調査時点より6ポイント増加し、6割超となった。2月の医療従事者接種開始、4月からの高齢者の接種開始が関連したと思われる。また「集団免疫状態になること」、「効果の高い治療薬が(開発)承認されること」を6割弱が選択した。
- 「検査ができる仕組み」は、8月→12月に減少したまま下げ止まり。「医療用備品が十分に確保できている」は2月より5ポイント減。2月に新たに聞いた「医療従事者の待遇や医療機関に対する現実的な見直し、改善を行う」は2割超が選択した。



Q26. 感染拡大以前の生活に戻るために、先生が考える条件として、先生が必要と思われるものをすべてお選びください (MA, -/-/5月/6月/8月/10月/12月/2月/4月)

感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと

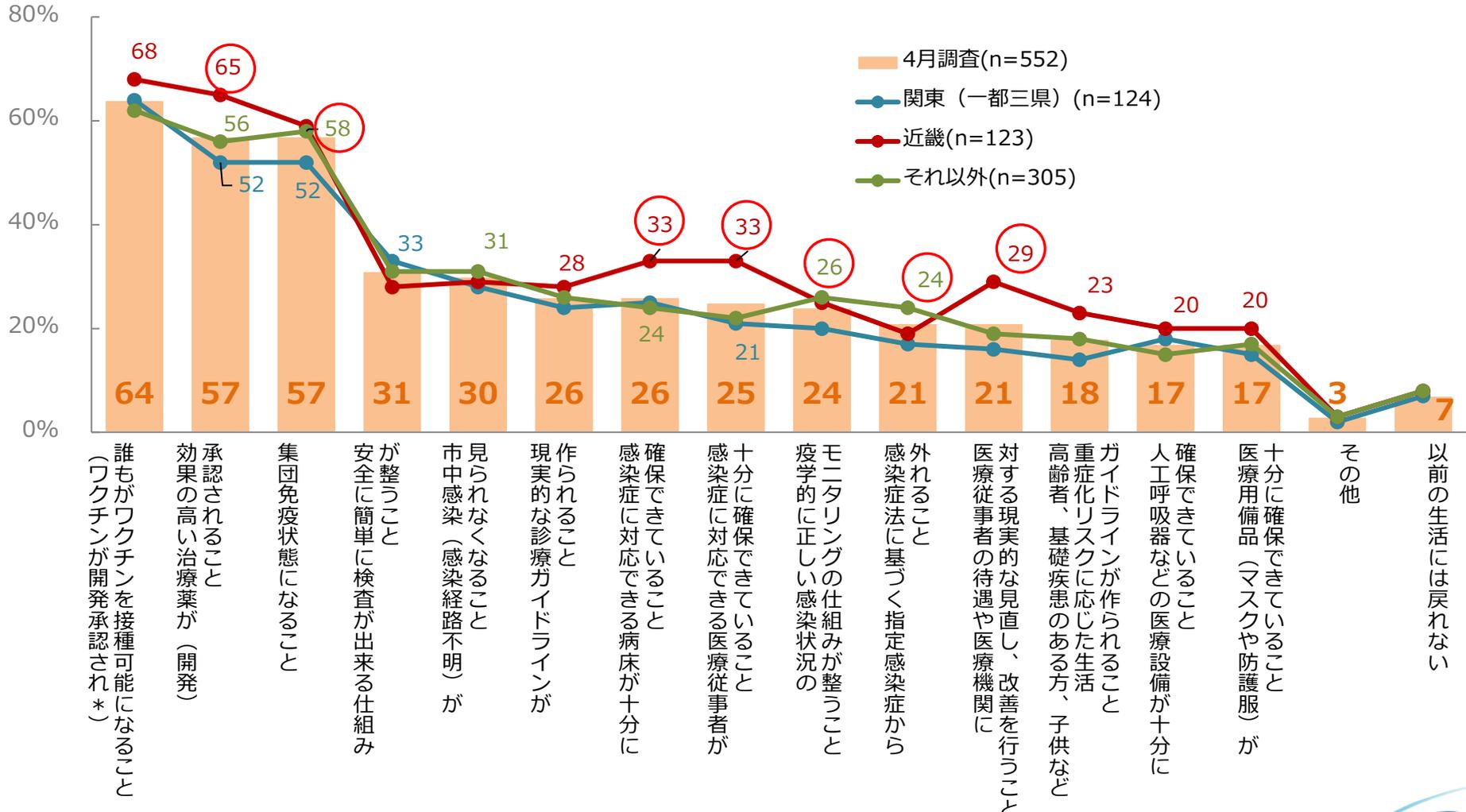
- 4月調査内訳で見ると、疑い患者を診察した医師の選択率が全般的にやや高く、「誰もがワクチンを接種可能になること」を67%、「効果の高い治療薬が承認されること」「集団免疫状態になる」をいずれも6割超が選択。これらに加え、「市中感染が見られなくなる」「対応できる病床が十分に確保できていること」が3割超とやや高め。それ以外は、顕著なグループ差はみられない。
- 診療所・小規模病院と中規模以上の病院の選択率にも、診療所・小規模病院が「安全に簡単に検査ができる仕組み」がやや多く挙げられた以外は、全般的に顕著な差はみられない。



Q25. 感染拡大以前の生活に戻るために、先生が考える条件として、先生が必要と思われるものをすべてお選びください (MA, -/~/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと(地域別) eHealthcare

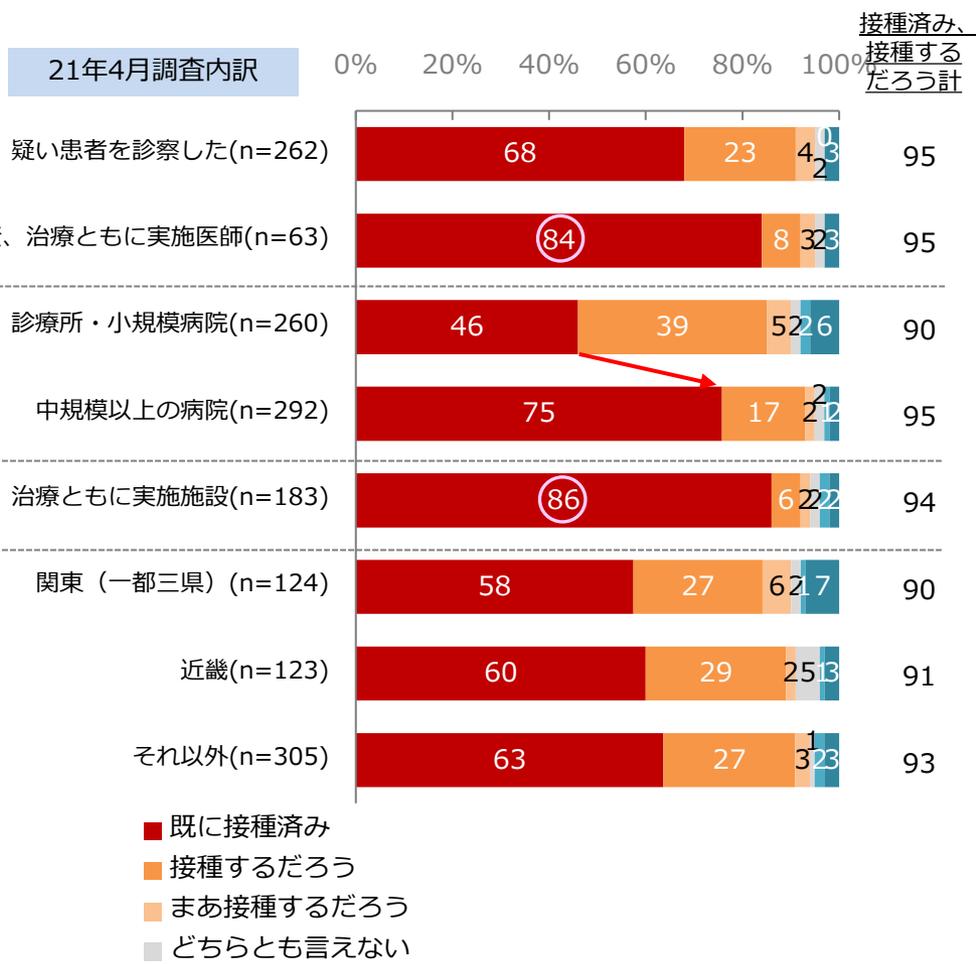
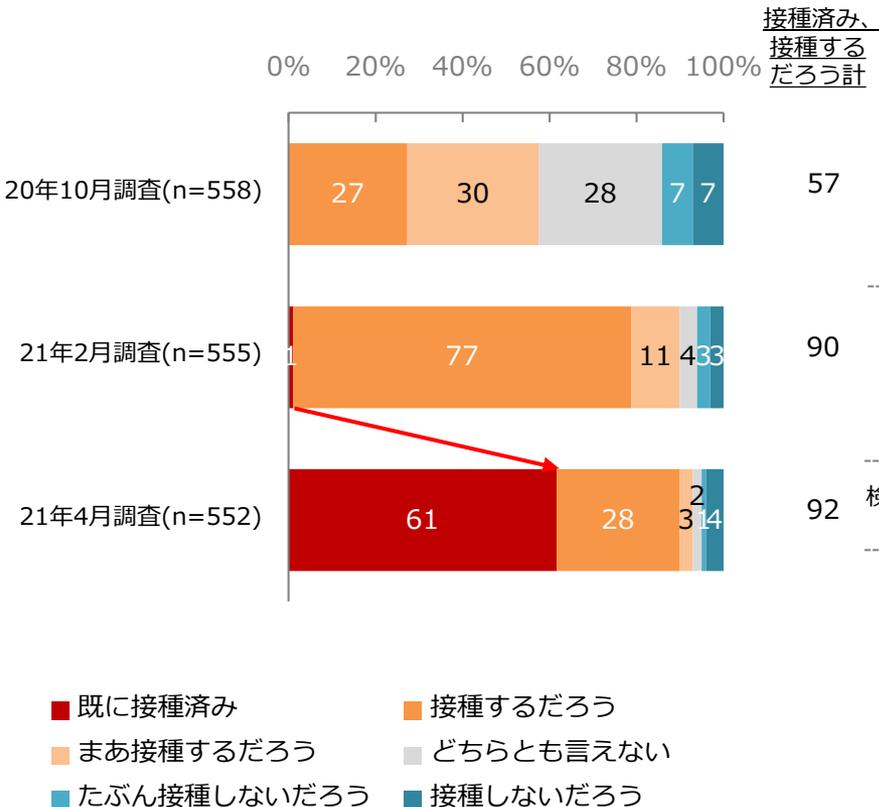
- 地域別にみると、近畿の選択率が全体的に高い傾向。中でも「効果の高い治療薬が承認される」、「対応できる病床が十分に確保」、「対応できる医療従事者が十分に確保」がいずれも、10ポイント前後、他地域よりも高め。「医療従事者の待遇や医療機関に対する現実的な見直し、改善を行う」も3割近くが選択。近畿エリアのニーズの高さをうかがわせる。



Q25. 感染拡大以前の生活に戻るために、先生が考える条件として、先生が必要と思われるものをすべてお選びください (MA, -/-/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

自身の新型コロナウイルスワクチン接種意向

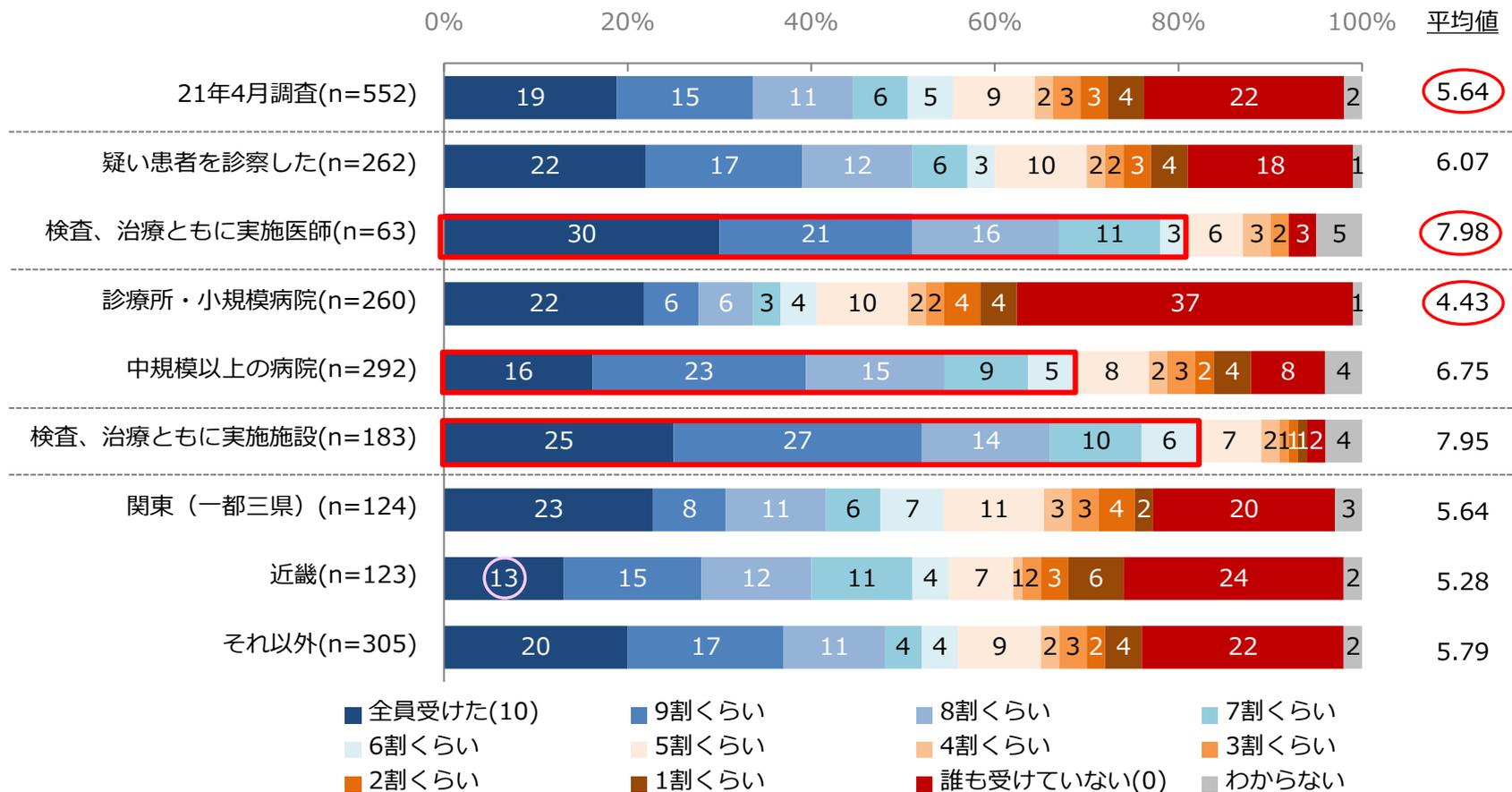
- 回答医師自身のワクチン接種は、「既に接種済み」が医療従事者先行接種が始まった2月調査時点での1%から6割に大きく増加したものの、4月調査時点で未接種であった。接種済みと接種するだろう計は、9割超で前回と同程度となっている。
- 検査・治療ともに実施している施設や医師で「既に接種済み」が8割超であるのに対し、診療所・小規模病院では半数未満など、グループ間で大きな差がある。
- 地域別では大きな差はなく、「既に接種済み」は6割前後。



Q27. 新型コロナウイルスのワクチン接種についてお伺いします。医療従事者等へのワクチン接種が開始されました。先生は、予防接種を受ける予定ですか。
 (SA, -/-/-/-/-/10月/-/2月/4月)

スタッフのワクチン接種割合

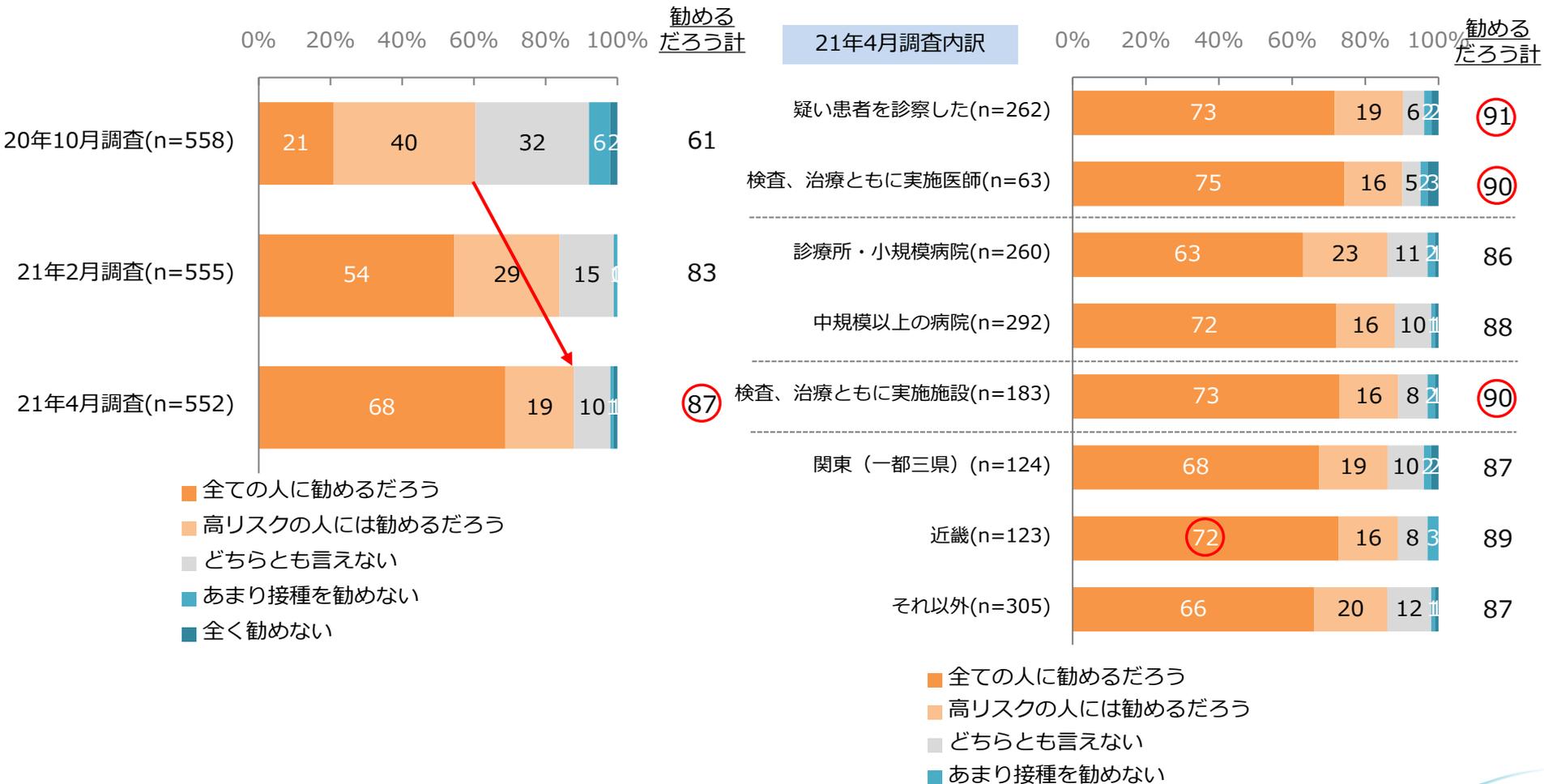
- 勤め先医療機関のスタッフのワクチン接種割合は、「全員受けた」と「誰も受けていない」が2割前後で、平均割合は5.64。
- 検査や治療を実施する医師も施設も、「6割くらい」以上の回答が多く、平均値は7.9以上。平均値が最も低いのは診療所・小規模病院の4.43で、「誰も受けていない」が4割近くを占めている。
- 地域別では、調査時点で最も感染者数が多かった近畿の「全員受けた」割合が、関東よりも10ポイント低く、13%に留まっている。



Q28. 先生がお勤めの医療機関では、どれくらいの医療スタッフが既にワクチン接種を受けましたか。先生ご自身を含め、おおよその割合を教えてください
(SA, -/-/-/-/-/10月-/2月/4月)

患者への新型コロナウイルスワクチン接種推奨意向

- 患者へのワクチン接種推奨意向は、10月調査以降増加傾向が続き、「勧めるだろう」計（「全ての人に」、「高リスクの人に」の計）が9割近くとなった。
- 疑い患者を診察した医師や、検査・治療ともに実施している医師や施設など、新型コロナウイルス禍が直撃するグループで「勧めるだろう」計が9割を超えた。
- 地域別では近畿の「全ての人に勧めるだろう」が7割を超え、他地域よりやや高め。

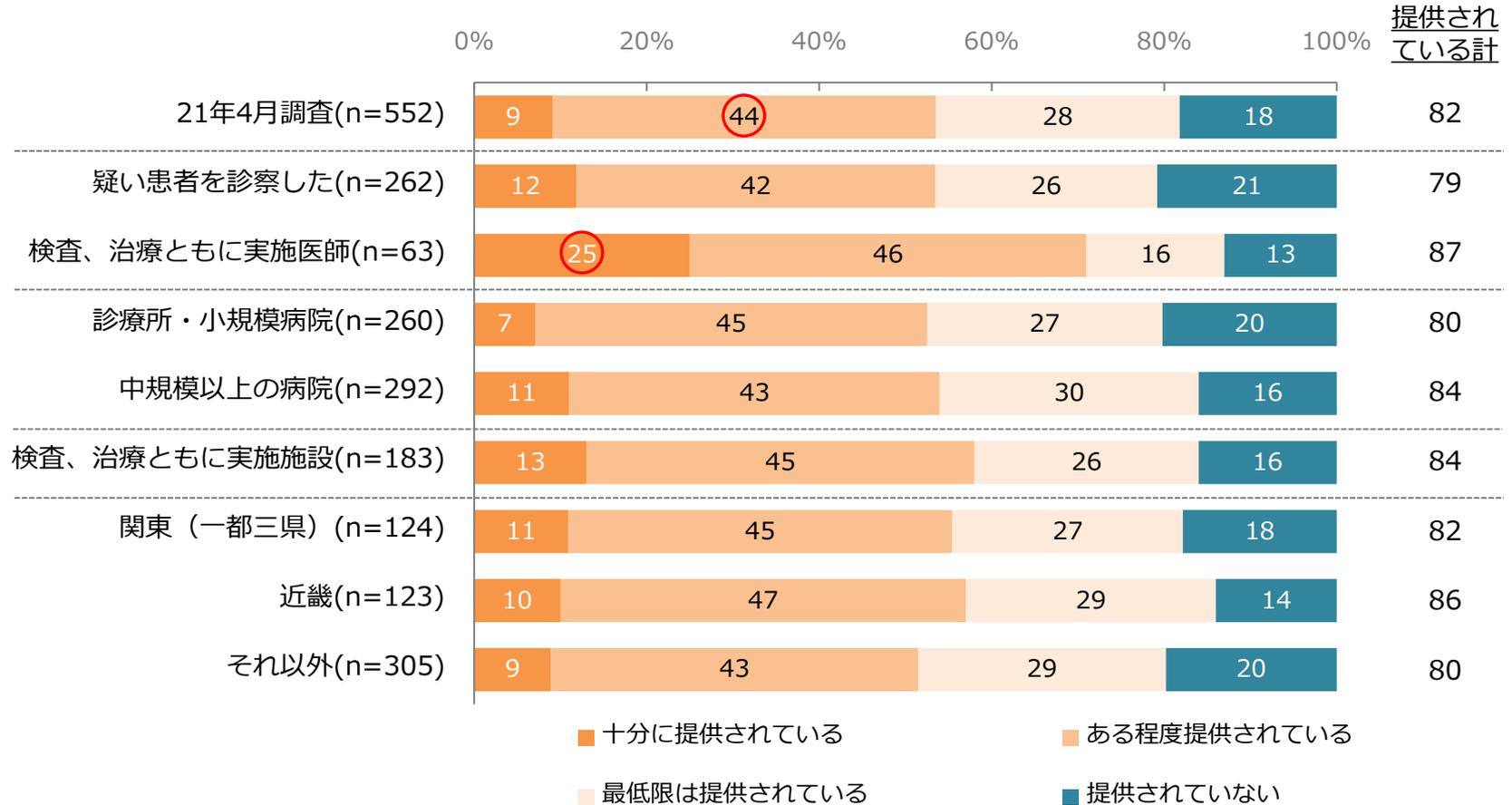


Q29. では、ワクチン接種が可能な人に対してワクチンの接種を勧めますか（SA, -/-/-/-/-/10月/-/2月/4月）

ワクチン接種に必要な情報は提供されているか

- ワクチン接種に必要な情報については、回答者全体の8割が「提供されている」(「十分に」、「ある程度」、「最低限は」の計)と回答。その内訳では、「ある程度提供されている」が44%で最多となった。
- 自分自身が、検査・治療を実施している医師は「十分に提供されている」が4分の1と他グループよりも高い。

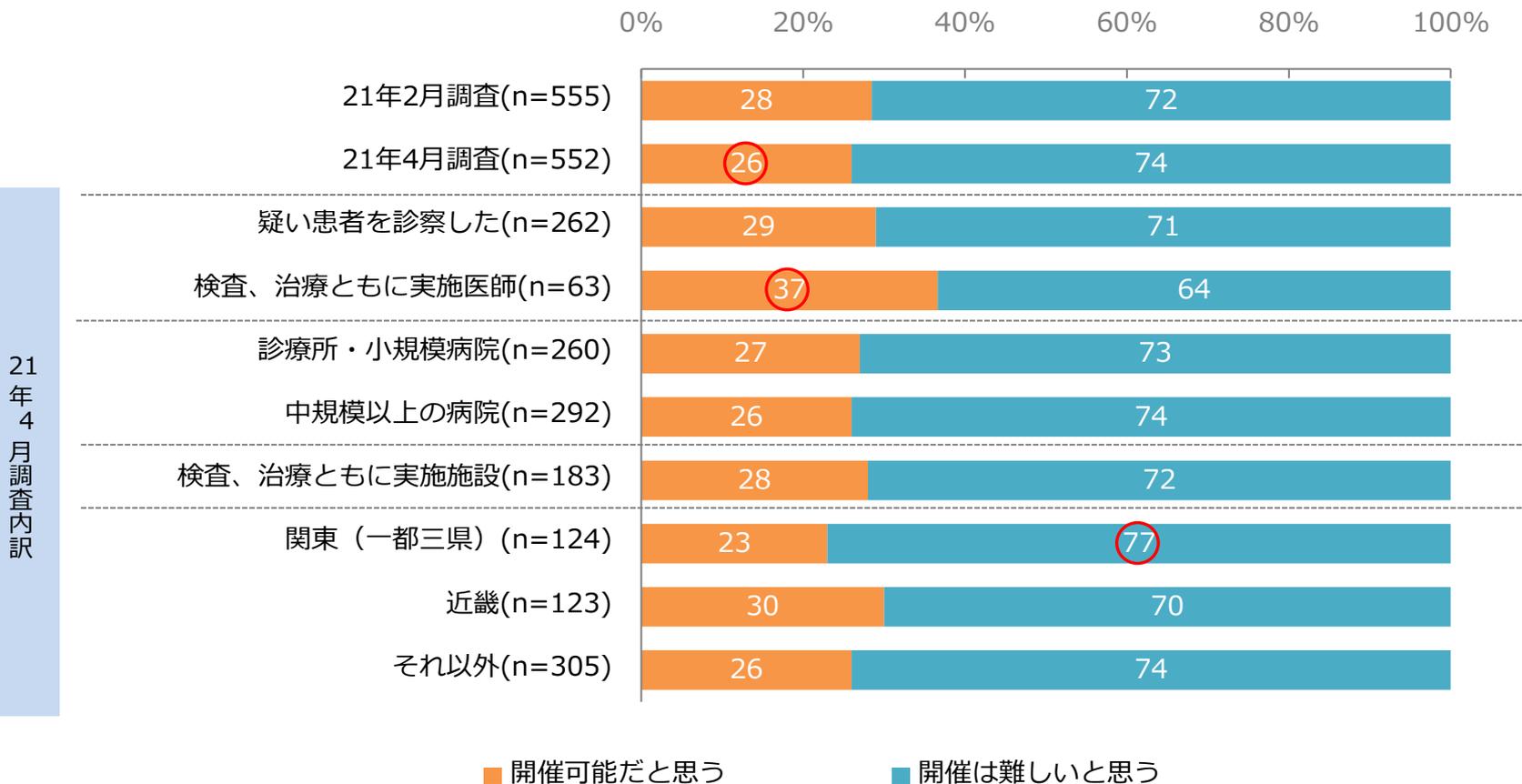
21年4月調査内訳



Q30. 患者さんへのワクチン接種に伴い、必要と思われる情報(例: 既往症への対応ガイドラインなど)が、十分に提供されているとお考えですか
(SA, -/-/-/-/-/-/-/4月)

東京オリンピックを開催できると思うか

- オリンピック開催については、「開催可能だと思う」が前回から2ポイント減の26%。
- 検査・治療ともに実施している医師では、「開催可能だと思う」がやや高めで4割弱。
- 地域別に見ると、開催地近郊の関東（一都三県）では、開催に否定的な医師が多めで8割近くを占めた。

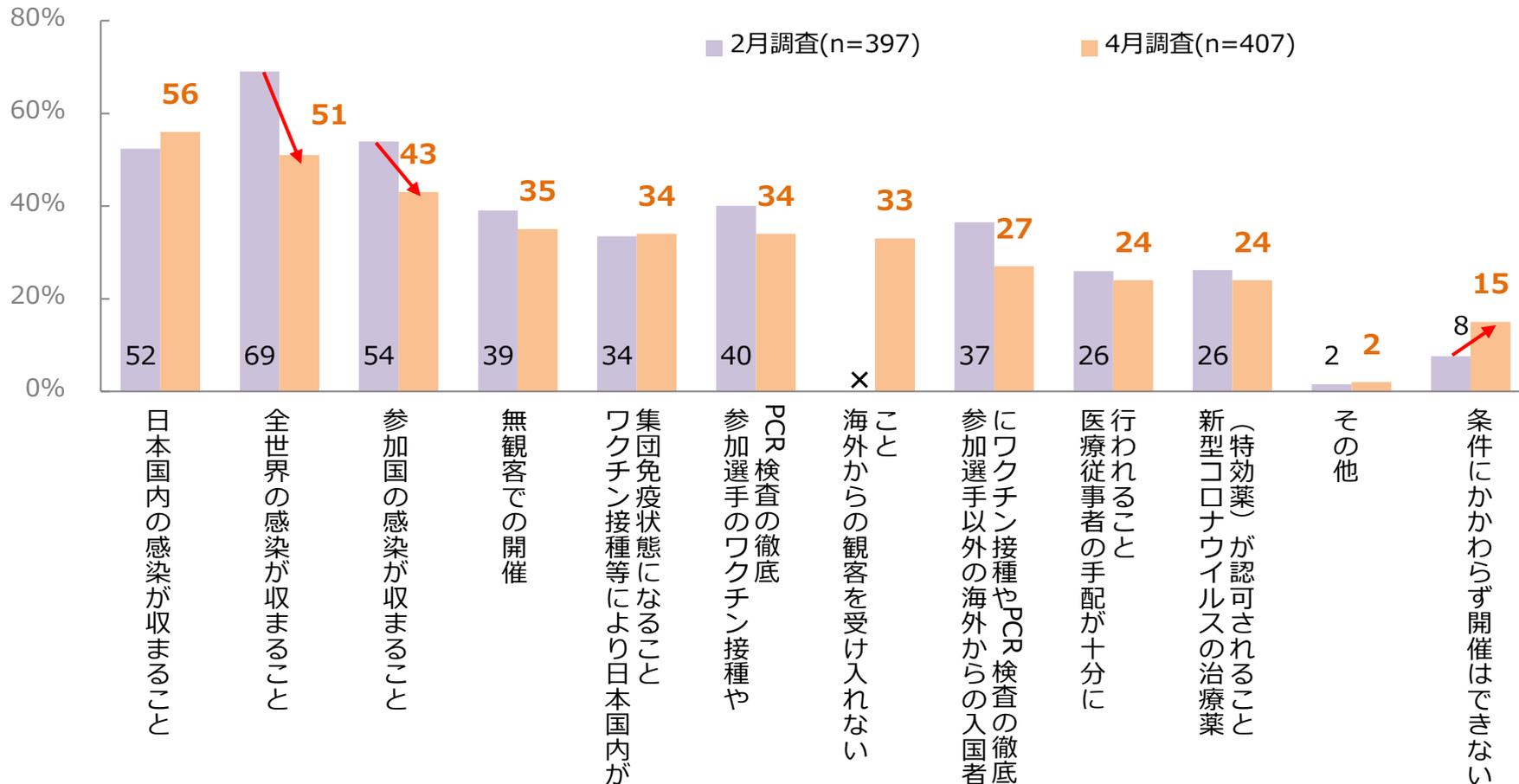


Q31. 開催予定まで半年を切った2021年東京オリンピック。いろいろな意見が出ていますが、先生はこのオリンピックの開催についてどのように思われますか (SA, -/-/-/-/-/-/-/2月)

東京オリンピックを開催するために必要なこと

- オリンピック開催に必要な条件を尋ねたところ、最も多く挙げたのは「日本国内の感染が収まること」。前回最も多かった「全世界の感染が収まること」は18ポイント減少し半数程度、「参加国の感染が収まること」も10ポイント以上減の4割程度となった。
- 第4波の感染拡大の中、「条件にかかわらず開催はできない」との回答は前回の8%から15%へと増加した。

Base:「開催は難しいと思う」回答者

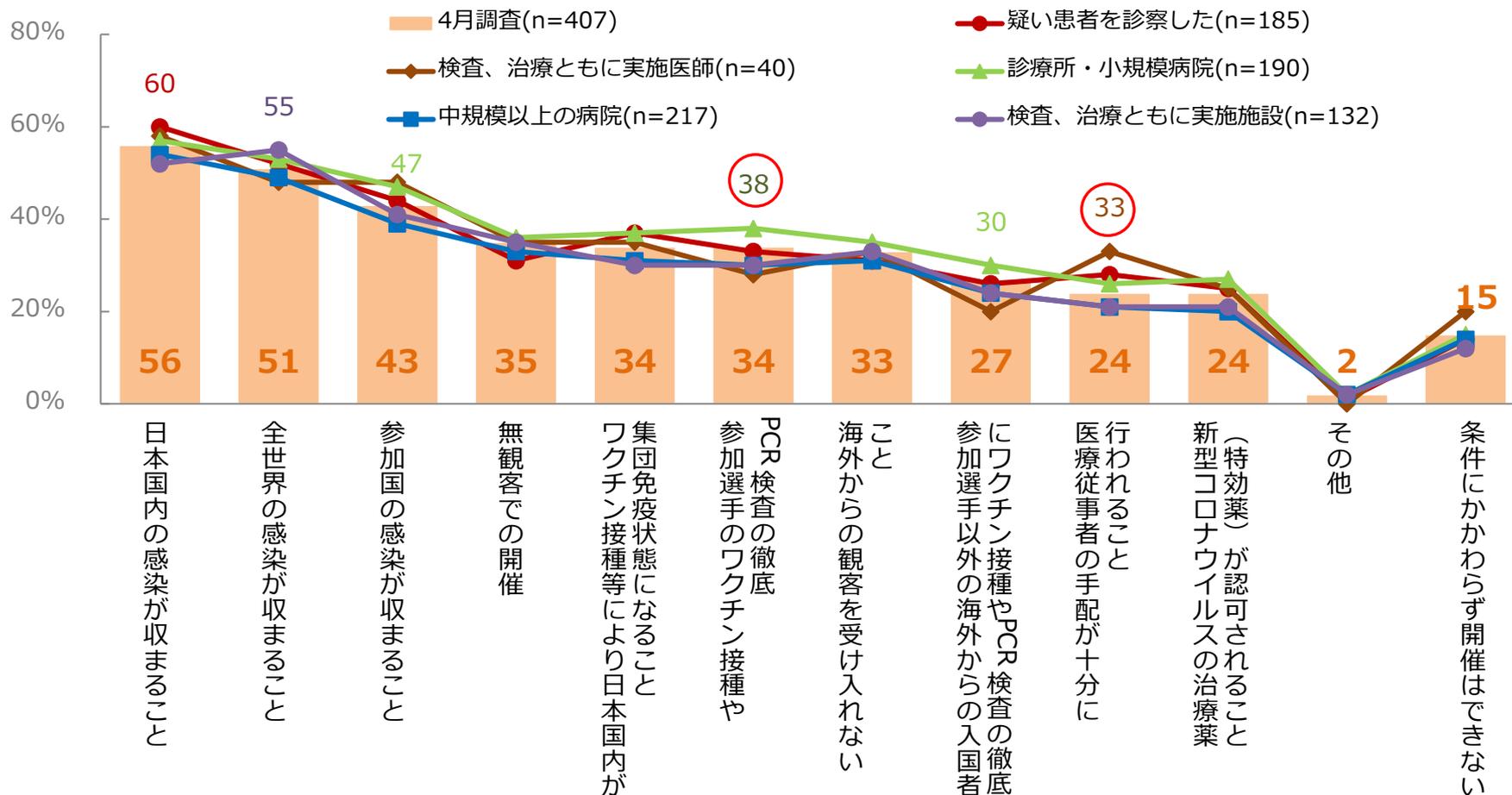


Q32. 「開催は難しいと思う」とお答えの方にお尋ねします。開催するためには、何が必要だと思いますか。必要と思われるものをすべて教えてください。
(MA, -/-/-/-/-/-/-/2月/4月)

東京オリンピックを開催するために必要なこと

- 開催条件の回答傾向にグループによる大きな差はない。
- 診療所・小規模病院は「参加選手のワクチン接種やPCR検査の徹底」が、検査・治療とも実施医師は「医療従事者の手配」がやや高めの傾向が続いている。

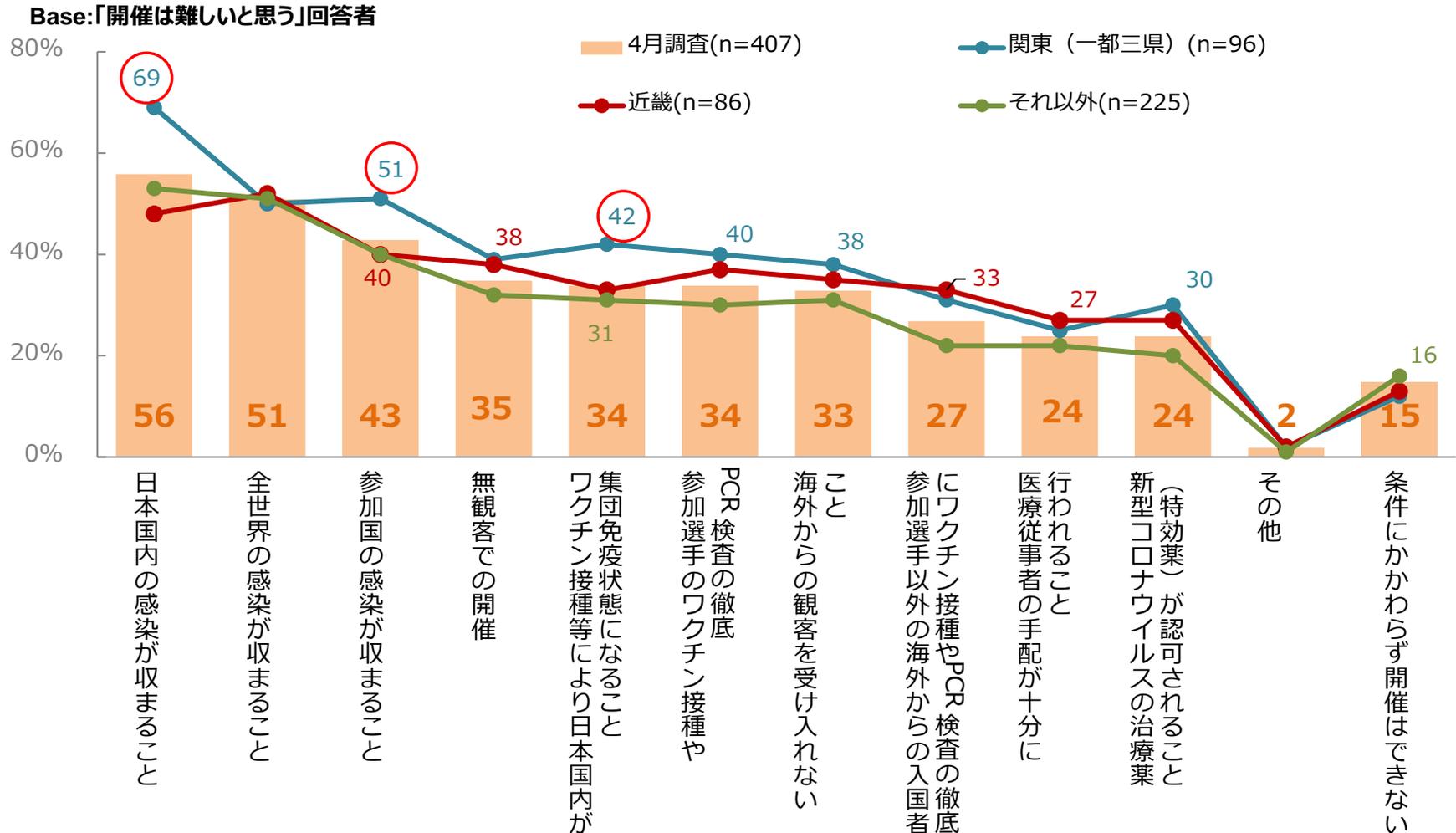
Base:「開催は難しいと思う」回答者



Q32. 「開催は難しいと思う」とお答えの方にお尋ねします。開催するためには、何が必要だと思いますか。必要と思われるものをすべて教えてください。
(MA, -/-/-/-/-/-/2月/4月)

東京オリンピックを開催するために必要なこと(地域別) eHealthcare

- 地域別では、関東(一都三県)が全体的に選択率が高い。「日本国内の感染が収まる」が約7割、日本だけでなく「参加国の感染が収まる」が5割、「日本国内が免疫状態になる」が4割で、近畿やそれ以外の地域よりも高い。



Q32. 「開催は難しいと思う」とお答えの方にお尋ねします。開催するためには、何が必要だと思いますか。必要と思われるものをすべて教えてください。
(MA, -/-/-/-/-/-/-/2月/4月)